

8 センタールーフの重ね葺き工法

8	－	1	安全にご使用いただくために
8	－	2	運搬・保管時の注意事項
8	－	3	センタールーフの設計施工基準
8	－	4	下葺材の施工
8	－	5	本体施工時の注意事項
8	－	6	本体・付属部材の留め付け
8	－	7	雪止め金具の設置について
8	－	8	センタールーフの施工
8	－	9	納まり詳細図 横暖ルーフ α 重ね葺き工法 直葺き施工
8	－	10	納まり詳細図 横暖ルーフ 重ね葺き工法 直葺き施工

本章では横暖ルーフ α Sプレミアム、横暖ルーフ α S、横暖ルーフ α S窯変を「横暖ルーフ α 」、横暖ルーフプレミアムS、横暖ルーフS、横暖ルーフS 1820を「横暖ルーフ」と表記しております。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-1 安全にご使用いただくために

センタールーフを安全にご使用いただくため、施工前に必ずお読みいただき、正しい施工を行ってください。なお、この製品は専門施工が必要なので、工事は必ず屋根専門工事業者様にご依頼ください。また、センタールーフを屋根材以外の用途には使用しないでください。

センタールーフは、住宅などの屋根材として十分満足していただける品質を備えておりますが、耐久性や耐候性などの諸機能は、正しい施工（標準施工）を行うことによってはじめて発揮されるものです。従って、必ず正しい施工（標準施工）を実施していただくようお願いします。



死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 強風・雨天・降雪・雷鳴時は、施工しないでください。落下および落雷事故のおそれがあります。
- 高所作業は関係法規に従って行ってください。事故のおそれがあります。
- センタールーフや金属製付属部材は電線などに触れないよう施工してください。感電のおそれがあります。併せて、高圧送電線が近くにある場合、事前に電力会社へ相談するなど、安全対策を講じてください。
- センタールーフの使用可能地域外では、不具合や施工上の危険をまねくおそれがありますので、使用しないでください。
- 雨や雪、露などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。滑り落ちるおそれがあります。
- 積雪のある地域では、落雪による事故を防止するため、雪止め金具をご使用ください。
- 屋根施工後は屋根面に乗らないでください。また、屋根材の上の歩行は極力控え、やむを得ず歩行する際は慎重な歩行を心掛けてください。底の硬い靴は使用しないでください。
- 屋根面にはむやみに端材や工具などの物を置かないでください。滑り落ち、怪我などのおそれがあります。
- 固定していない屋根材や付属部材などの上には絶対に乗らないでください。滑り落ちるおそれがあります。



使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損傷の発生が想定されます。

- 建築基準法、消防法に規定された建築用途、施工地域などを確認して使用してください。
- 動きやすい服装、滑りにくい履物など、作業に適したものを着用してください。
- 作業の際は、ヘルメット、滑り止め付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
- 工事期間中、毎日の作業終了後には、屋根面の清掃をしてください。
- 電動工具などの工具をご使用の際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。また、その配線などには漏電しないものを使用してください。
- 釘打ち機はセンタールーフ釘打ち部を突き破るおそれがあるので使用しないでください。
- 梱包材、残材などは産業廃棄物として適正に処分してください。
- 屋根面に仮設足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。また、架台を組む場合は、取り付け架台のメーカーへご相談の上、汚れや雨水、異物の滞留がないようにしてください。
- はしごをかける場合は、当て木を使い、かつ、滑らないように固定してください。また、登り降りの作業は2人で行ってください。
- 施工中は仮設足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。破損などが生じ、雨漏りなどの不具合の原因となります。

8-2 運搬・保管時の注意事項

- センタールーフの保管は原則屋内の水平な場所とし、必ずパレットまたは飼い木の上に載せてください。飼い木の間隔は1m以下としてください。(8段積み以下)立て掛け保管は反りの原因となります。
- 水漏れの可能性のある施工現場などでは、防水用のシート掛けをしてセンタールーフが濡れないようにしてください。
- 保管中は変形防止のため、重量物や人が乗らないようにしてください。輸送中は損傷しないようにしてください。
- 持ち運びの際は、1枚の時もケースの時も小端立てして両端を2人で持って運んでください。
- ロープで吊り上げる場合は2点吊りとし、吊り上げる時はワイヤー掛けなどでセンタールーフが損傷しないようにしてください。
- 吊り上げ作業中は、構造物や樹木に接触して変形、ひっかき傷などが生じないように注意してください。
- 屋根上に仮置きする場合は落下防止のため、滑り止めの栈木を仮打ちしてその上に置いてください。(仮打ちで生じた孔はシーリング材などで補修してください。)また、風のある時はあおられて飛ばないようにロープなどで結束して固定してください。
- 梱包のPPバンドは持たないでください。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-3 センタールーフの設計施工基準

1) 各工法の下地組み

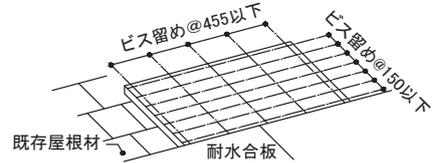
- センタールーフはリフォームの工法に応じて下表の下地組みが必要です。
- 野地板は耐水合板(普通合板1類、構造用合板特類または1類)厚さ12mm以上です。
- 葺き替え工法の場合で、既存の野地板が腐朽しているときは必ず野地板を張り替えます。
- 既存屋根にすがもれなどの不具合が発生していないことを確認のうえ、センタールーフを施工します。

①重ね葺き工法

	重ね葺き工法	
	直葺き施工	耐水合板施工
センタールーフ	既存屋根材をかいして既存垂木に留め付ける	既存屋根材の上に新規野地板(耐水合板厚み12mm)を重ね張りし、その上から留め付ける(※)

※重ね葺き工法 耐水合板の施工

耐水合板(厚み12mm)は、ウマ張りに割り付けます。
 ステンスタップンビス(φ4mm×60mm以上)を使用し、流れ方向150mm以下、桁方向455mm以下の間隔で留め付けます。



②葺き替え工法

	葺き替え工法	
	直葺き施工	耐水合板施工
センタールーフ	既存屋根材を剥がして既存野地板に留め付ける	既存屋根材を剥がして新規野地板(耐水合板厚み12mm)に留め付ける

2) 勾配・流れ長さの基準

- 下葺材は下表のように既存屋根葺き材の種類、屋根勾配、流れ長さに応じて施工します。

①重ね葺き工法(直張り施工)の場合

勾配	2.5寸以上3.5寸未満	3.5寸以上
流れ長さ	10m以下	13m以下
捨て板(BYS2F00A)	要(全段)	不要
既存屋根が石綿を含まない場合	<重ね葺き仕様>(※1) 片面粘着層付き	
既存屋根が石綿を含む場合	<『あんしん』屋根カバー工法>(※2) アスファルトルーフィング940または改質アスファルトルーフィング	<『あんしん』屋根カバー工法> アスファルトルーフィング940または改質アスファルトルーフィング

※1既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めします。

※2緩勾配(P143)をご参照ください。

②重ね葺き工法(耐水合板施工)および葺き替え工法の場合

勾配	2.5寸以上3.5寸未満	3.5寸以上
流れ長さ	10m以下	13m以下
捨て板(BYS2F00A)	要(全段)	不要
重ね葺き工法(耐水合板施工)および葺き替え工法	<防水強化仕様> 片面粘着層付き 改質アスファルトルーフィング、アスファルトルーフィング940、改質アスファルトルーフィング	<一般施工仕様> アスファルトルーフィング940または改質アスファルトルーフィング

外壁リフォーム
設計

事前調査の方法

外壁リフォーム
標準施工法

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

屋根リフォーム
設計

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-4 下葺材の施工

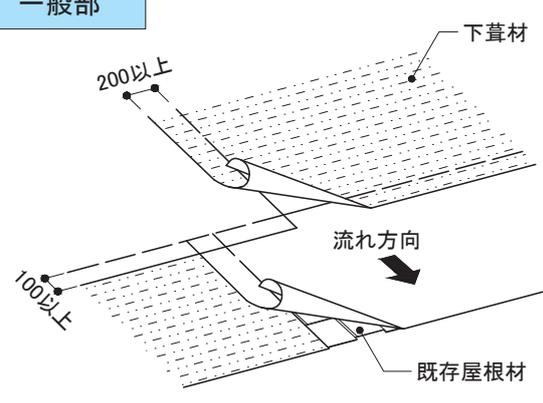
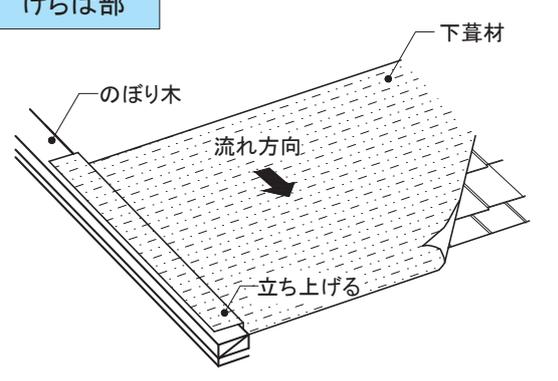
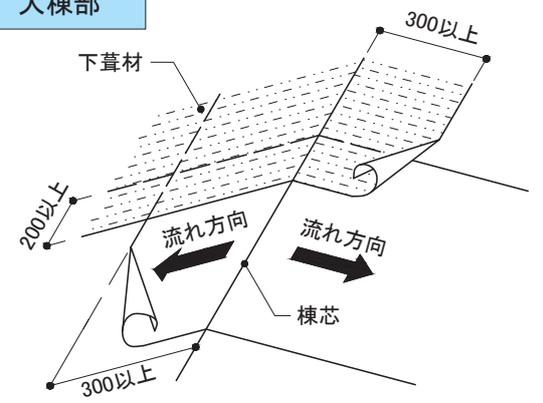
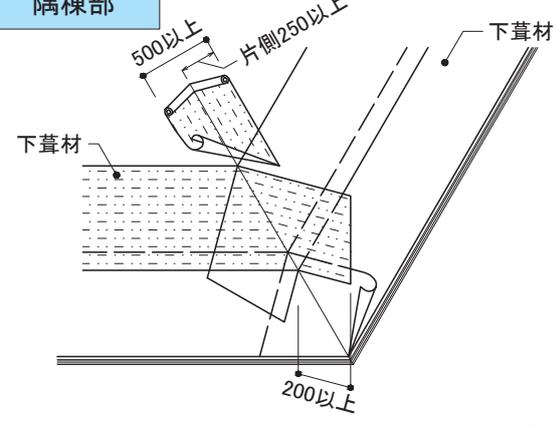
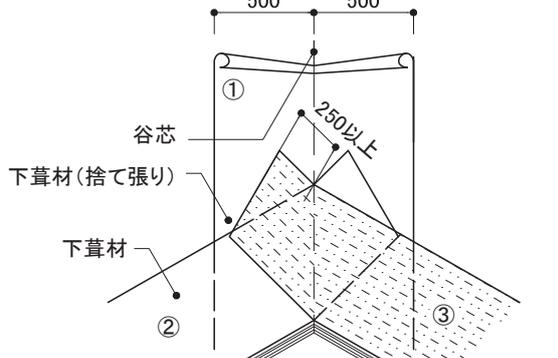
重ね葺き仕様(既存屋根が石綿を含まない場合)

1) 重ね葺き仕様: 既存屋根が石綿を含まない場合

本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿を含まないセメント系新生瓦、アスファルトシングルの際に適用されます。

【使用する下葺材】

片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング: 厚1.0mm以上

<p>一般部</p>  <p>●重ね代は、上下100mm以上、左右200mm以上とします。</p>	<p>けらば部</p>  <p>●既存けらば水切の上へのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。</p>
<p>大棟部</p>  <p>●大棟部は、片側300mm以上(両側二重で600mm以上)重ねます。</p>	<p>隅棟部</p>  <p>●隅棟部は、屋根面より200mm以上延長して下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。</p>
<p>谷部</p> <p>●谷部は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、 ②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばして施工します。 <p>(図中の○数字は、施工の順番を表しています。)</p> 	

※既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めします。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-4 下葺材の施工

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(既存屋根が石綿を含む場合)

2)ニチハ『あんしん』屋根カバー工法

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法は、石綿(アスベスト)を含んだセメント系新生瓦の上に重ね葺き工法により屋根材を施工する際、片面粘着層の付いていない下葺材を使用することにより、将来的な建物解体時の廃棄物(石綿含有建材)分離処分をしやすいものです。

下葺材の固定には「耐力面材『あんしん』壁倍率5.0用めっき鋼板」、または30×30mm以上の鋼板(現場調達)を使用し、重ね葺き専用釘で留め付けます。

●下葺材留め付け補助部材

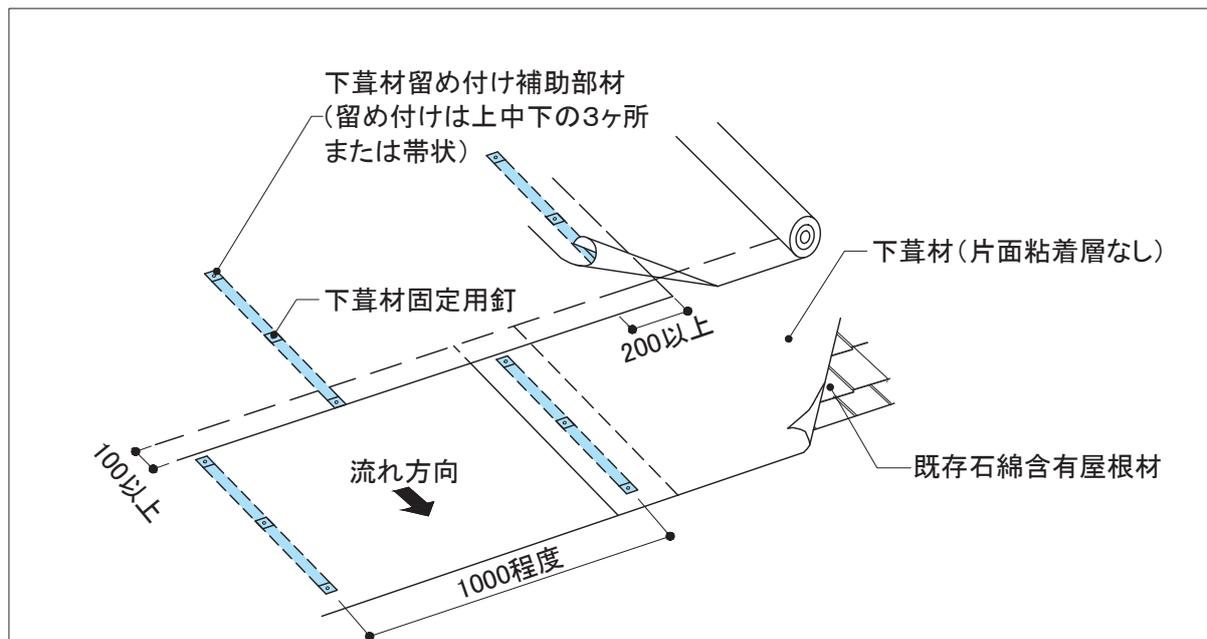
- ・外周部めっき鋼板(あんしん壁倍率5.0用)(品番:FA4000、サイズ:0.35×30×855mm)
- ・30×30mm以上の鋼板(現場調達)

●下葺材固定用釘

- ・ステンレススクリュー釘(品番:JK500E、サイズ:φ2.3mm×50mm)

【使用する下葺材】

アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上

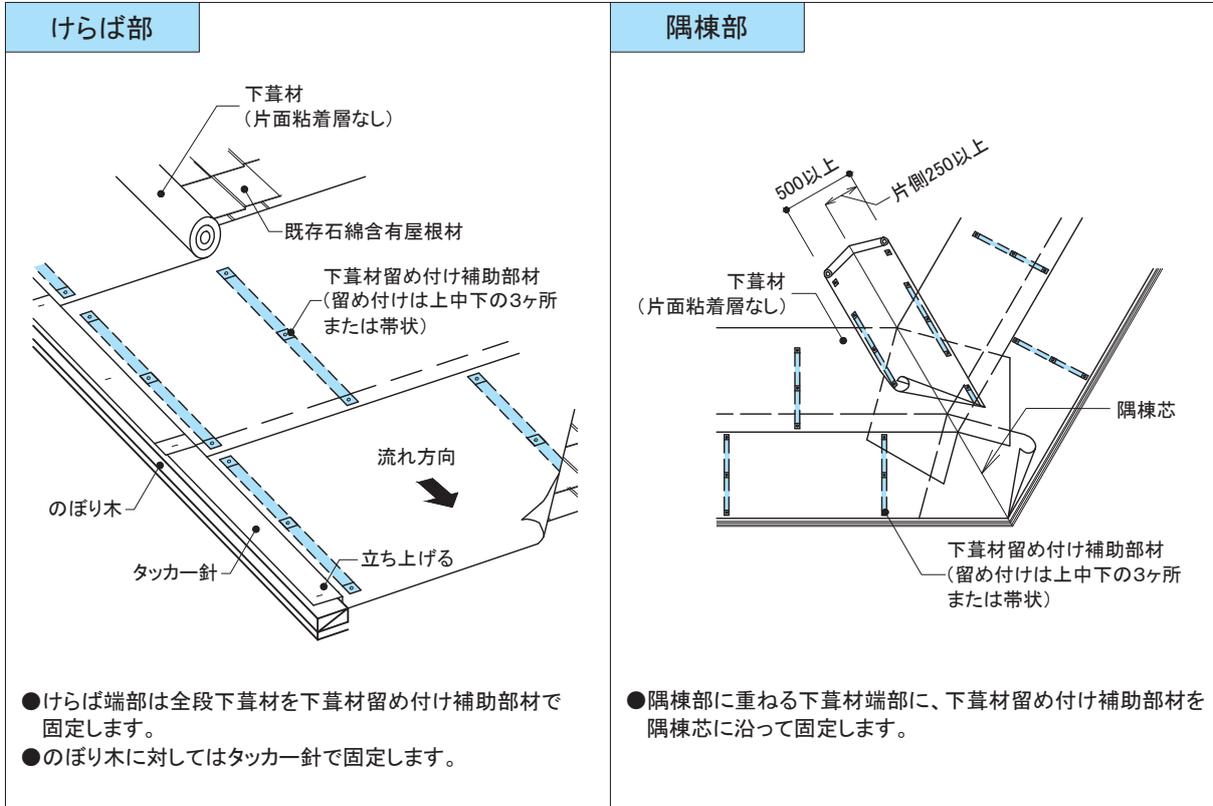


- 下葺材の重ね代は上下100mm以上、左右200mm以上とします。
- 下葺材留め付け補助部材は流れ方向に平行に留め付けます。
- 既存屋根材の上に下葺材を敷きながら1000mm程度の間隔で下葺材留め付け補助部材を施工します。
- 下葺材留め付け補助部材は、上中下の3ヶ所を下葺材固定用釘にて留め付けます。
- 下葺材の左右重ね部分には必ず下葺材留め付け補助部材を設置し、固定します。
- 施工する地域の風の強さ、下葺材施工後の新規屋根施工までの期間を考慮し、必要に応じて下葺材留め付け補助部材の数を増やすなど調整します。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-4 下葺材の施工

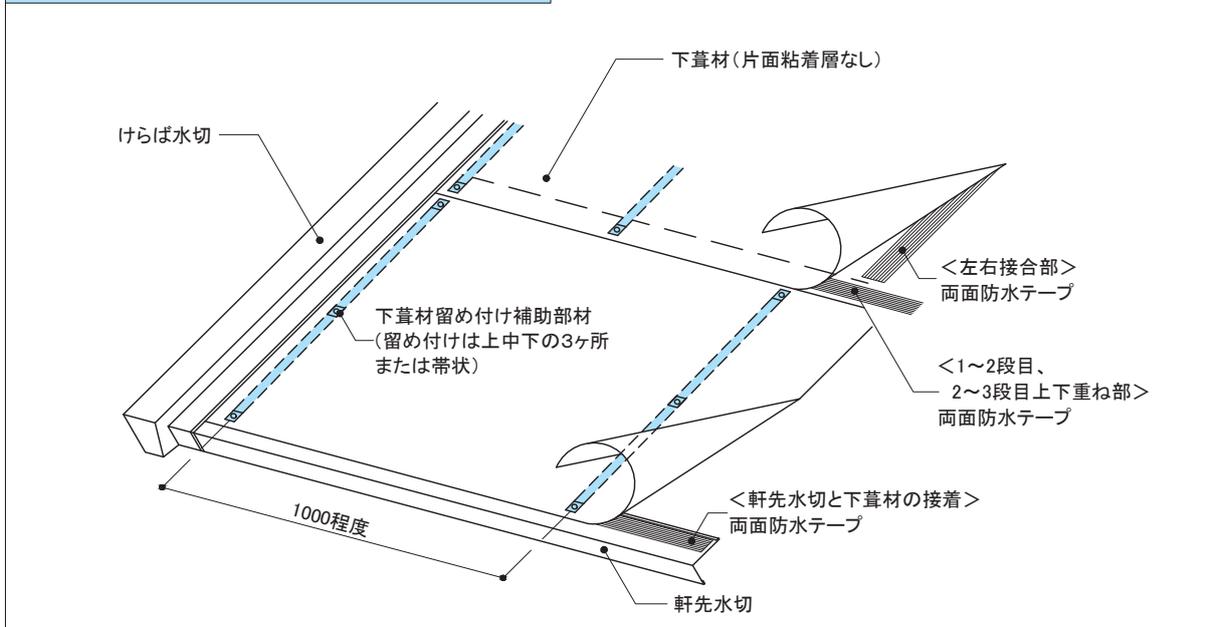
ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(既存屋根が石綿を含む場合)



- けらば端部は全段下葺材を下葺材留め付け補助部材で固定します。
- のぼり木に対してはタッカー針で固定します。

- 隅棟部に重ねる下葺材端部に、下葺材留め付け補助部材を隅棟芯に沿って固定します。

緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)



- 緩勾配屋根の場合は軒先水切と下葺材の間に両面防水テープを貼り付け、下葺材を固定します。
- 下葺材の重ね代は上下100mm以上、左右200mm以上とします。
- 下葺材の上下重ね部分、左右重ね部分は全段両面防水テープにて下葺材どうしを接着します。
- 左右(桁方向)重ね部分は上下段で2000mm以上ずらします。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-4 下葺材の施工

一般施工仕様

重ね葺き工法: 耐水合板施工
葺き替え工法

3) 一般施工仕様

本施工法は、重ね葺き工法の耐水合板仕様および葺き替え工法で「屋根勾配3.5寸以上」の屋根に適用されます。

【使用する下葺材】

アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス): 厚1.0mm以上

<p>一般部</p> <p>●重ね代は上下100mm以上、左右200mm以上とします。</p>	<p>軒先・けらば部</p> <p>●軒先部は軒先水切の半分程度まで下葺材をかぶせます。 ●けらば部はのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。</p>
<p>大棟部</p> <p>●大棟部は、片側300mm以上(計600mm以上)重ねます。</p>	<p>隅棟部</p> <p>●隅棟部は、屋根面より200mm以上下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上の下葺材を隅棟芯に沿って増し張りします。</p>
<p>壁際部</p> <p>●壁際部は、250mm以上(雨押え金物の上端より50mm以上)立ち上げます。</p>	<p>谷部</p> <p>●谷部は、 ①谷芯を中心に片側500mm以上下葺材を捨て張りし、 ②、③は、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。 (図中の○数字は、施工の順番を表しています。)</p>

外壁リフォーム
設計

事前調査の方法

外壁リフォーム
標準施工法

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

屋根リフォーム
設計

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

8 センタールーフ重ね葺き工法

8-4 下葺材の施工

防水強化仕様

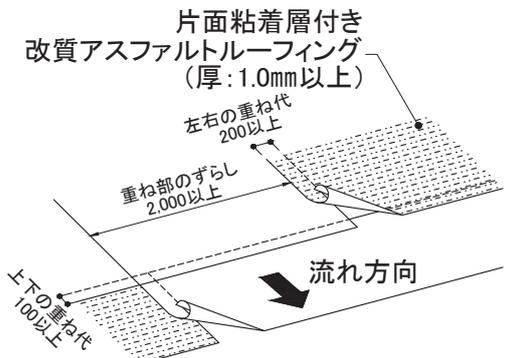
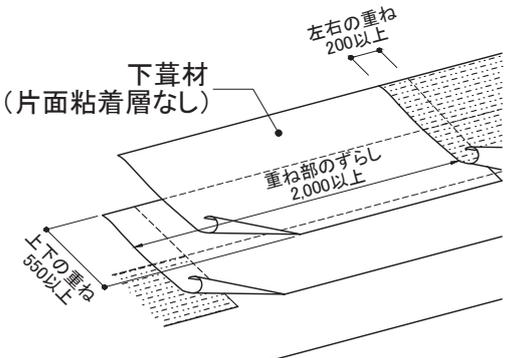
重ね葺き工法:耐水合板施工
葺き替え工法

4) 防水強化仕様

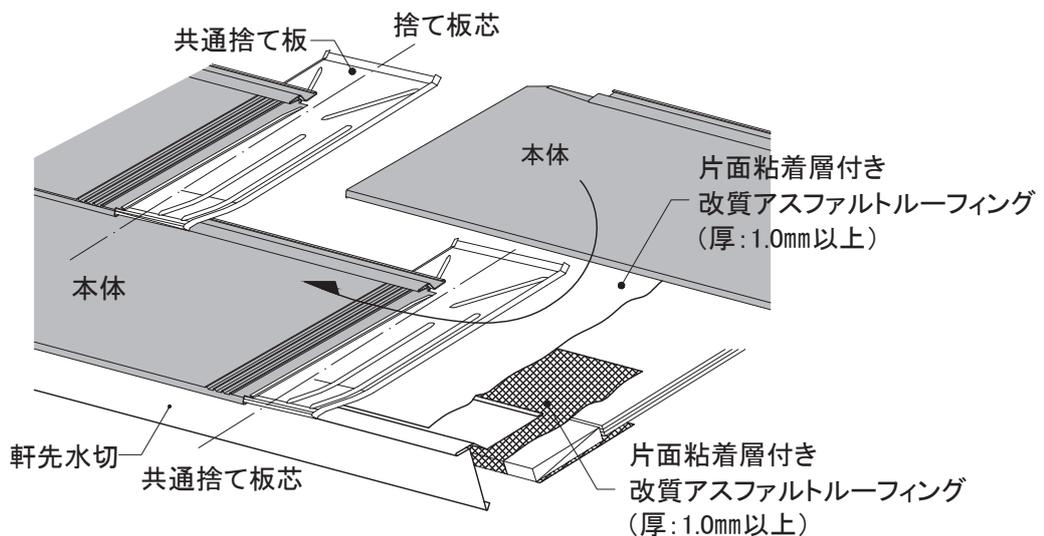
本施工法は重ね葺き工法の耐水合板仕様および葺き替え工法で「屋根勾配2.5寸以上3.5寸未満」の緩勾配屋根に適用されます。

【使用する下葺材】

片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング、アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング:厚1.0mm以上

重ね代 (下葺材:片面粘着層あり)	重ね代 (下葺材:片面粘着層なし)
 <ul style="list-style-type: none"> ●重ね代は、縦方向100mm、横方向200mm以上とします。 ●上下段の重ね部は2000mm以上ずらします。 	 <ul style="list-style-type: none"> ●重ね代は、縦方向550mm、横方向200mm以上とします。 ●上下段の重ね部は2000mm以上ずらします。

捨て板・板金取り合い部



- 上図『軒先水切』の他、『谷板金』『捨て水切』などの水切部材と下葺材の取り合い部も同様に、防水テープを施工します。
- 野地板腐朽防止のため、軒先水切施工前に片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングで軒先先端を巻き込みます。
- センタールーフの共通捨て板は、本体左右接合部に図のように施工します。共通捨て板の中心がセンタールーフ本体右端部となるよう位置を合わせて取り付けます。上下の共通捨て板が重なるような割り付けは避けてください。
- 共通捨て板には、本体・役物の釘・ビスなどで孔をあけないでください。

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-5 本体施工時の注意事項

- センタールーフは長尺、軽量のため風にあおられやすい商品です。風のある日は特に注意して施工してください。
- センタールーフの上で切断作業を行わないでください。また、センタールーフ本体や付属部材の加工時、切断面に生じたバリおよび切り粉などは取り除いてください。「もらい錆」の原因となります。
- センタールーフ表面および裏面の塗装に傷がつかないように注意します。傷がつくと発錆の原因となります。万一、傷をつけてしまった場合は、必ず専用補修塗料で補修してください。
- シーリング、補修塗料などは使用方法をご確認の上、正しくご使用ください。
- 専用付属部材以外の部材を使用した場合、本体と部材で風合いが異なる可能性があります。必ず専用付属部材をご使用ください。
- 不具合による手戻りを防止するため、施工途中での仕上がりを確認してください。

8-6 本体・付属部材の留め付け

1) 本体の留め付け

- センタールーフは下表の留付材をご使用ください。

工法	下地	既存屋根材	留付材
重ね葺き工法	直張り	セメント系新生瓦 アスファルトシングル	JK1910(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm) 既存の垂木に固定
	新規耐水合板 重ね張り	セメント系新生瓦 アスファルトシングル	JK1710(ステンレスビスφ4.1mm×27mm) 300mm以下の間隔で耐水合板に固定
葺き替え工法	既存野地板 または 新規野地板	—	①JK500E(ステンレススクリーナ釘φ2.3mm×50mm) 既存の垂木に固定 ②JK1710(ステンレスビスφ4.1mm×27mm) 300mm以下の間隔で野地板に固定

※エアネイラーはセンタールーフ釘打ち部を突き破るおそれがあるので、使用しないでください。

2) 付属部材の留め付け

- 付属部材は木製棧木または樹脂製棧木に留め付けます。棧木の種類による施工条件は表の通りです。

棧木	棧木サイズ		付属部材の留付材※2	留め付け間隔
木製棧木	横暖ルーフ	30×40	カラーステンレススクリーナ釘 または ステンレススクリーナ釘 長さ32mm以上 (現場調達品)	軒先唐草、棟包み、 谷樋用吊り子:300mm以下 上記以外455mm以下
	横暖ルーフα	45～50×45～50		
	けらば水切85・110	18×45		
樹脂製棧木 フクビ化学工業製 エコランバー ※1	横暖ルーフ	エコランバー 瓦棧 H4028	止水パッキン付き ステンレスビス φ4.2×32mm以上 (現場調達品)	455mm以下
	横暖ルーフα	エコランバー 瓦棧 M4343		
	けらば水切85・110	エコランバー 瓦棧 N1845		

※1 エコランバーを使用する場合は、下葺材を棧木にまかなくてもかまいません。

※2 付属部材の留付材は棧木を貫通しないサイズを選定してください。ステンレススクリーナ釘を使用する場合は留め付け後、補修塗料を最小限の範囲で塗布します。

<樹脂製棧木>

フクビ化学工業製 エコランバー

※エコランバーに関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

フクビ化学工業株式会社 特需開発営業部 大阪特需課 電話:06-6386-6952

8 センタールーフの重ね葺き工法

8-7 雪止め金具の設置について

- 1段あたりの雪止め金具が負担できる屋根流れ長さは、下記の通りです。
(屋根と雪の摩擦係数:0、安全率:1.5、積雪の単位荷重:3kg/(m²・cm))

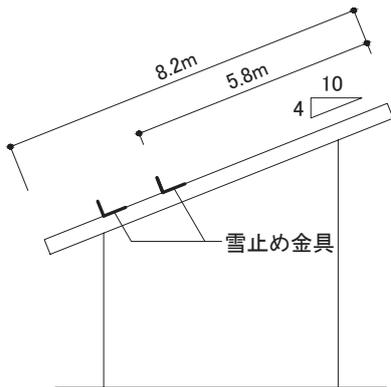
表①雪止め金具取付間隔:455mm以下の場合
単位:m

	勾配(寸)	垂直積雪量(cm)									
		30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
勾配(寸)	2.5	12.4	9.3	7.5	6.2	5.3	4.7	4.1	3.7	3.4	3.1
	3	10.4	7.8	6.2	5.2	4.4	3.9	3.5	3.1	2.8	2.6
	3.5	8.9	6.7	5.3	4.4	3.8	3.3	3	2.7	2.4	2.2
	4	7.8	5.8	4.7	3.9	3.3	2.9	2.6	2.3	2.1	1.9
	4.5	6.9	5.2	4.1	3.5	3	2.6	2.3	2.1	1.9	1.7
	5	6.2	4.7	3.7	3.1	2.7	2.3	2.1	1.9	1.7	1.6

表②雪止め金具取付間隔:300mm以下の場合
単位:m

	勾配(寸)	垂直積雪量(cm)									
		30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
勾配(寸)	2.5	18.8	14.1	11.3	9.4	8.1	7.1	6.3	5.7	5.1	4.7
	3	15.7	11.8	9.4	7.9	6.7	5.9	5.2	4.7	4.3	3.9
	3.5	13.5	10.1	8.1	6.7	5.8	5	4.5	4	3.7	3.4
	4	11.8	8.8	7.1	5.9	5	4.4	3.9	3.5	3.2	2.9
	4.5	10.5	7.9	6.3	5.2	4.5	3.9	3.5	3.1	2.9	2.6
	5	9.4	7.1	5.7	4.7	4	3.5	3.1	2.8	2.6	2.4

<計算例> 流れ長さ8.2m、4寸勾配、垂直積雪量40cmの場合(上の表①、②の○部)



表①雪止め金具取付間隔 455mmの場合

上の表より、雪止め金具が負担できる流れ長さは5.8m。
屋根の流れ長さは8.2mなので、2段必要。

表②雪止め金具取付間隔 300mmの場合

上の表より、雪止め金具が負担できる流れ長さは8.8m。
屋根の流れ長さは8.2mなので、1段必要。

図は雪止め金具取付間隔455mmの場合

- 垂直積雪量が120cmを超える地域に使用する場合は、雪止め金具の強度性能から雪止め金具の段数をご検討ください。

<計算式>

$$\text{1段あたりの雪止め金具が負担できる屋根流れ長さ(m)} = \frac{190.8^{(\text{kg})}}{(3^{(\text{kg/m}^2 \cdot \text{cm})} \times \text{垂直積雪量}^{(\text{cm})} \times (\text{勾配}/10) \times \text{雪止め金具取付間隔}^{(\text{m})} \times 1.5)}$$

190.8:雪止め金具1個あたりの引張強度(測定値) 1870(N) / 9.8 → 190.8(kg)

3:積雪の単位荷重(kg/m²・cm)

垂直積雪量:(cm)

勾配:(寸)

雪止め金具取付間隔:(m)

1.5:安全率※

※適切な安全率を見込んでください。推奨安全率=1.5以上。

8-8 センタールーフの施工

1) 付属部材のつなぎ方	<ul style="list-style-type: none"> ①けらば唐草 ②軒先唐草 ③棟包み210 ④段付けらば唐草 ⑤捨て谷80 ⑥隅棟捨て板
2) 付属部材の取り合い・加工	<ul style="list-style-type: none"> ①棟包み210端部(けらば唐草使用時) ②軒先唐草ーけらば唐草 ③大棟ー隅棟 ④壁水切(棟ー流れ) ⑤けらば水切85ーセットバックスターター
3) 本体の葺き方	<ul style="list-style-type: none"> ①階段葺き ②一文字葺き
4) 本体のつなぎ方	
5) 雪止め金具の施工方法	<ul style="list-style-type: none"> ①ウイング ②アングル
6) 棟包み210	屋根勾配と棧木寸法
7) センター換気棟	<ul style="list-style-type: none"> ①施工のポイント ②下地の開口 ③センタールーフ・笠木の施工 ④ベース・カバーの施工
8) 片流れ用棟包み	屋根勾配と棧木寸法
9) 片流れ用換気棟	<ul style="list-style-type: none"> ①施工のポイント ②下地の開口・捨て水切の施工 ③下地木材・センタールーフの施工 ④片流れ用換気棟・片流れ用棟包みの施工 ⑤連続使用時の施工

センタールーフ

工法

下地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

葺き替え

既存または新規野地板

設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

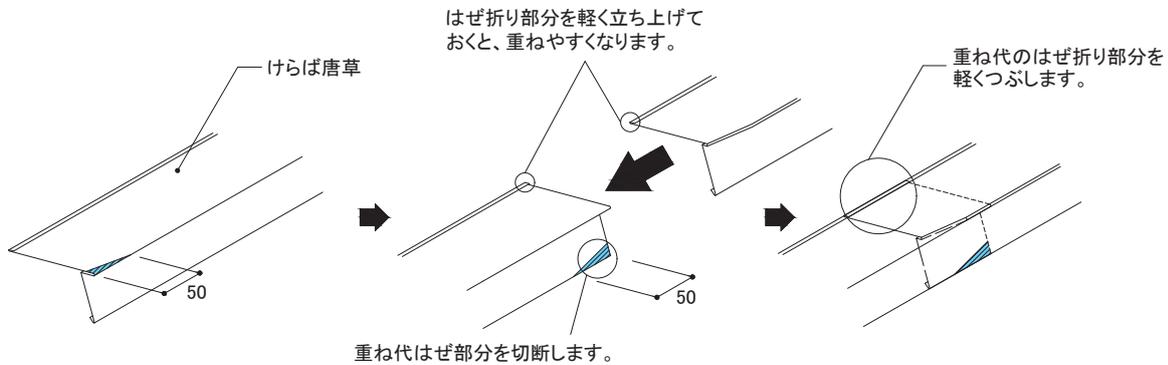
アルマ
重ね葺き工法

参考資料

1) 付属部材のつなぎ方

① けらば唐草

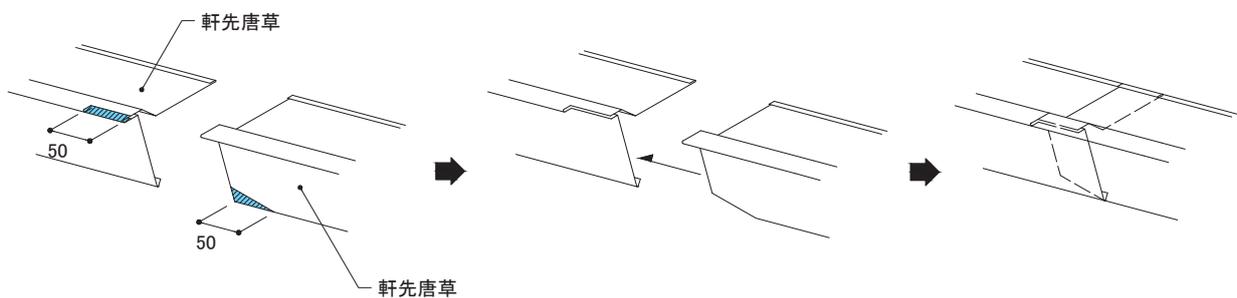
● けらば唐草端部から50mm程度を斜めに切断してつなぎます。



1) 付属部材のつなぎ方

② 軒先唐草

● 斜線部分を切断して図のように納めてつなぎます。

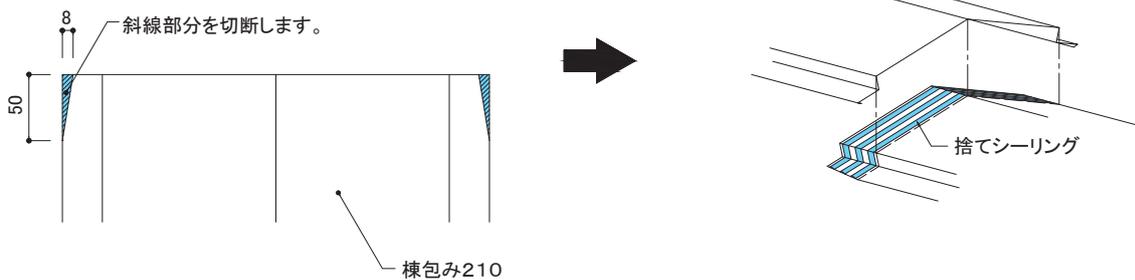


1) 付属部材のつなぎ方

③ 棟包み210

● 重ねの下になる棟包み210の端部は、図の斜線部分を切断してつなぎます。

● 重ね代部分に、シーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。



※付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

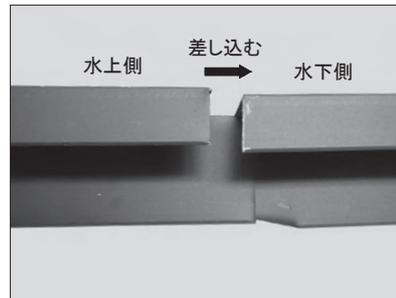
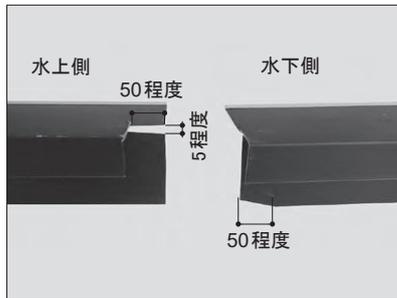
葺き替え

既存または新規野地板

1) 付属部材のつなぎ方

④ 段付けらば唐草

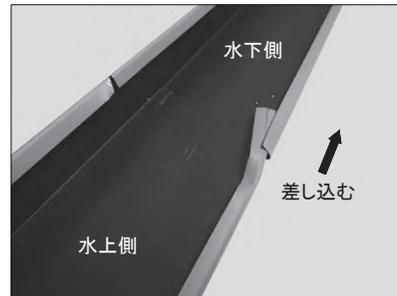
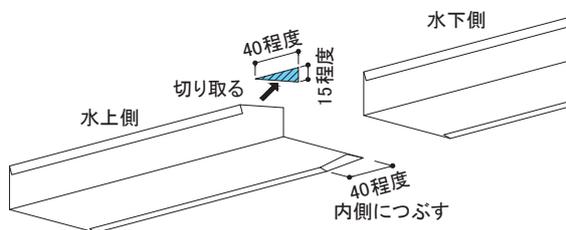
- 段付けらば唐草端部から50mm程度を斜めに切断し、水上側を水下側へ差し込みます。



1) 付属部材のつなぎ方

⑤ 捨て谷80

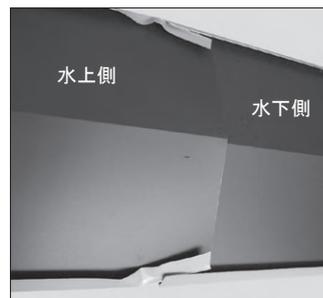
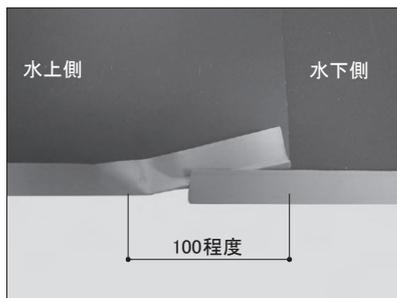
- 斜線部分を切断して図のように納めてつなぎます。
水上側の捨て谷80を図のように加工し、水上側を水下側へ差し込みます。



1) 付属部材のつなぎ方

⑥ 隅棟捨て板

- 水上側の隅棟捨て板の返し部分の端部100mm程度を写真のように内側につぶし、水上側を水下側へ差し込みます。



※付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺きまたは耐水合板
葺き替え	既存または新規野地板

設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

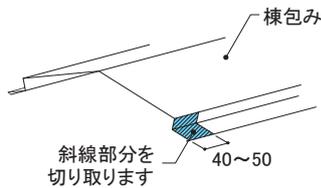
2) 付属部材の取り合い・加工

① 棟包み210端部(けらば唐草使用時)

●けらば唐草を使用して納める場合は、棟包み端部を現場加工してください。

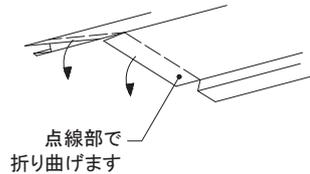
手順①

重ねの下になる棟包みの端部を図の斜線部分で切り取ります。



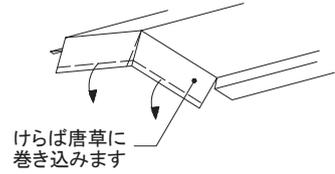
手順②

点線部分で下に折り曲げます。



手順③

折り曲げた部分の下端をけらば唐草に巻き込みます。

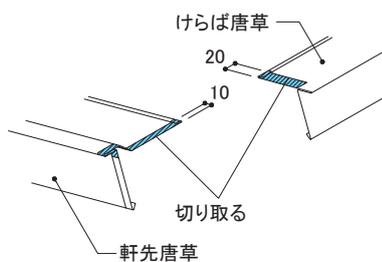


2) 付属部材の取り合い・加工

② 軒先唐草—けらば唐草

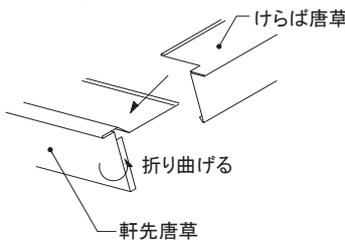
手順①

斜線部分を切り取ります。



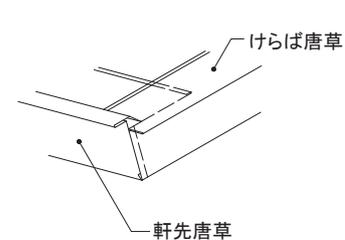
手順②

けらば唐草端部の下がり部分を折り曲げます。



手順③

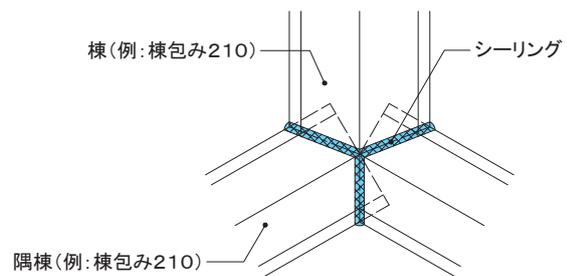
けらば唐草を軒先唐草の上に重ねます。



2) 付属部材の取り合い・加工

③ 大棟—隅棟

- 棟包みどうしが重なるように端部を加工して納めます。
- つなぎ部分には必ずシーリングを施工してください。

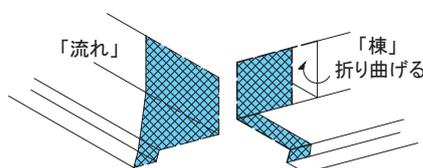


2) 付属部材の取り合い・加工

④ 壁水切(棟—流れ)

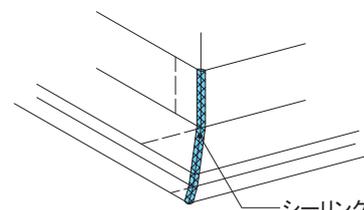
手順①

斜線部分を切断し、棟側の壁水切を折り曲げて納めます。
(斜線部分は勾配により異なります。)



手順②

つなぎ部分には必ずシーリングを施工してください。



※付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

センタールーフ

工法

重ね葺き

葺き替え

下地

直葺きまたは耐水合板

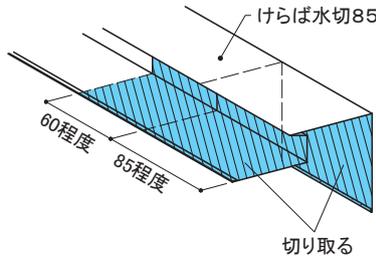
既存または新規野地板

2) 付属部材の取り合い・加工

⑤ けらば水切85ーセットバックスターター

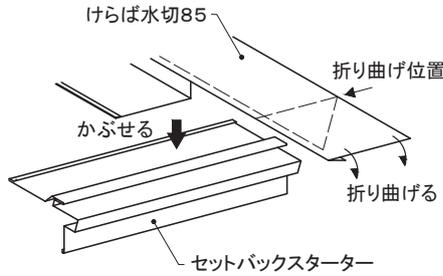
手順①

けらば水切85の斜線部分を切り取ります。



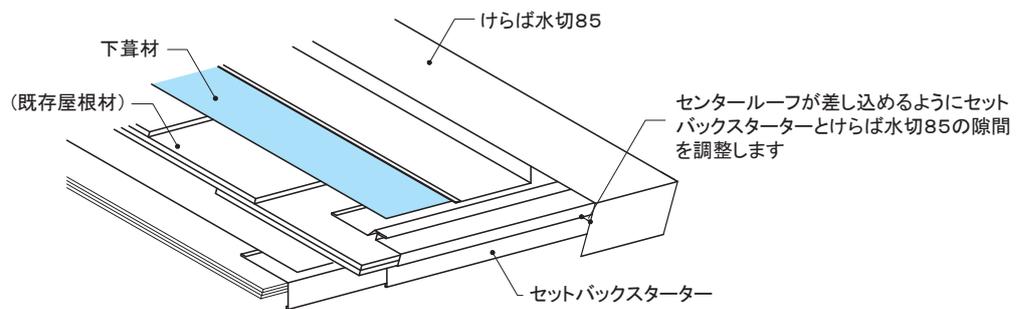
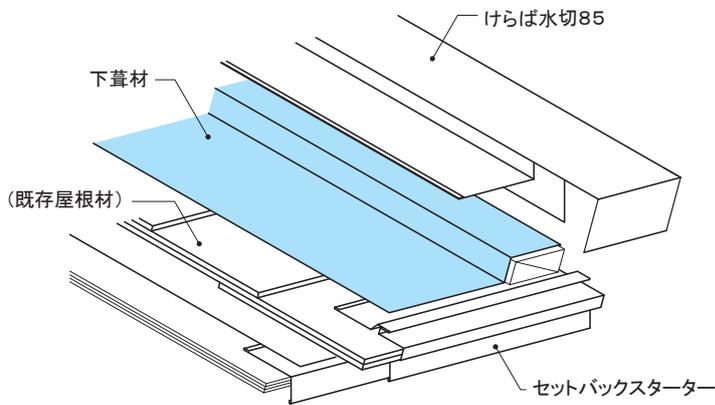
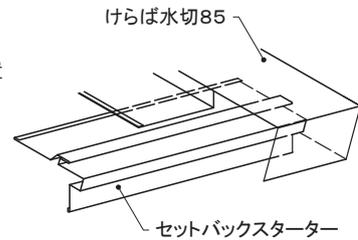
手順②

けらば水切85を図の位置で折り曲げます。

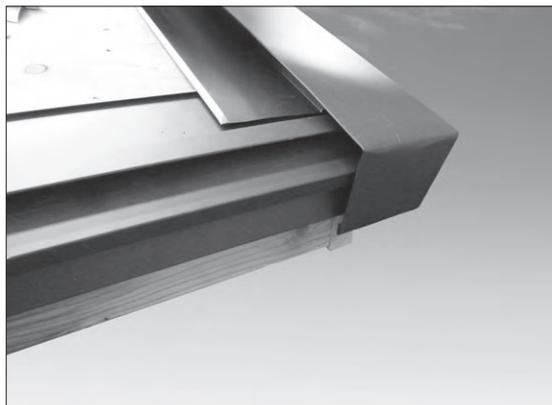


手順③

けらば水切85をセットバックスターターにかぶせます。



〈加工例〉



おことわり)上の写真は、説明上、下葦材を省略しております。実際は下葦材を施工します。

※付属部材のつなぎ方はあくまで一例です。現場の状況に応じて適宜ご対応ください。

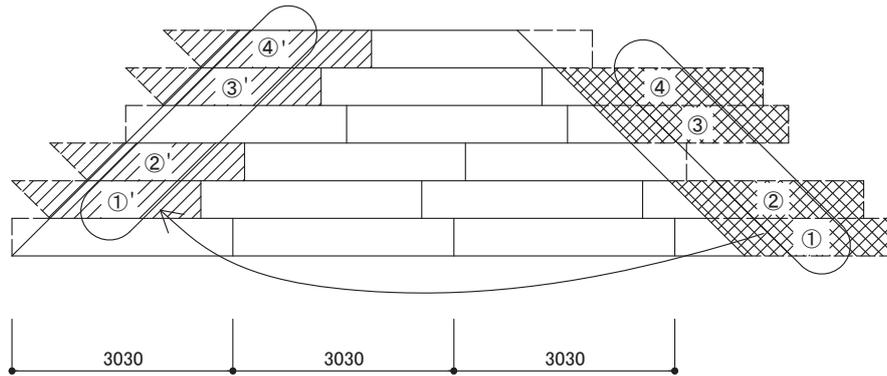
センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺きまたは耐水合板
葺き替え	既存または新規野地板

3) 本体の葺き方

① 階段葺き

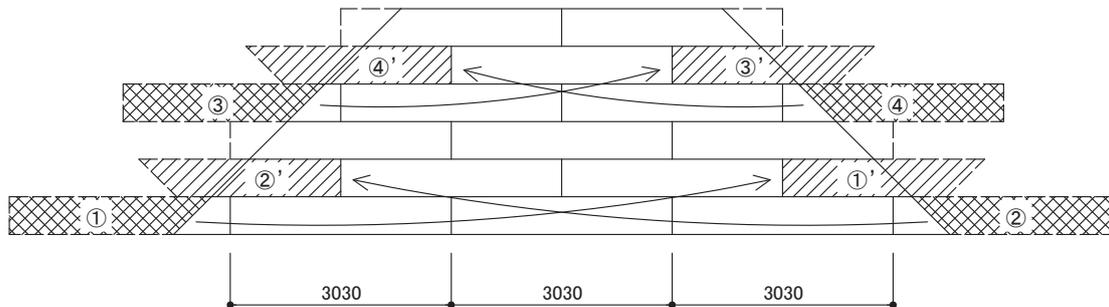
- 端材の寸法を優先して使うことにより、ロスの少ない施工が可能です。
- ※ 本体の横つなぎ目地が流れ方向で重ならないよう、以下の方法で配置してください。



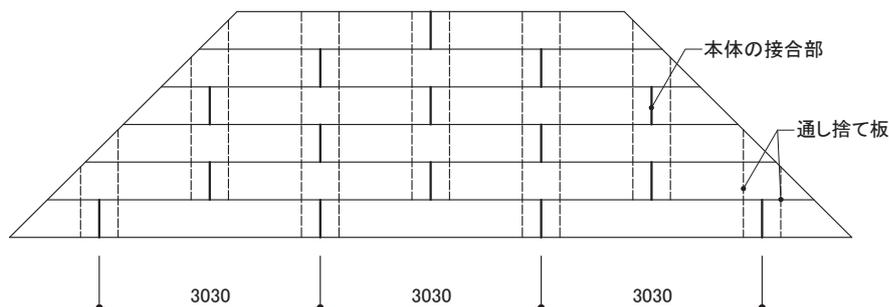
3) 本体の葺き方

② 一文字葺き

- 端材のロスが比較的多くなりますが目地を揃える施工が可能です。一段おきに本体のつなぎができます。
- ※ 本体の横つなぎ目地が流れ方向で重ならないよう、以下の方法で配置してください。



- 通し捨て板(現場加工)を下に敷くこともできます。通し捨て板を使用する場合は以下の点にご注意ください。
- ① 通し捨て板の固定は吊り子を使用します。
- ② 通し捨て板には本体・付属部材固定用の釘・ビスなどで孔をあけないようにします。



設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

モエン
サイディング
重ね張り
工法

モエン
サイディング
張り替え
工法

センター
サイディング
重ね張り
工法

設計
屋根
リフォーム

センター
ルーフ
重ね葺き
工法

アルマ
重ね葺き
工法

参考資料

センタールーフ

工法

重ね葺き

葺き替え

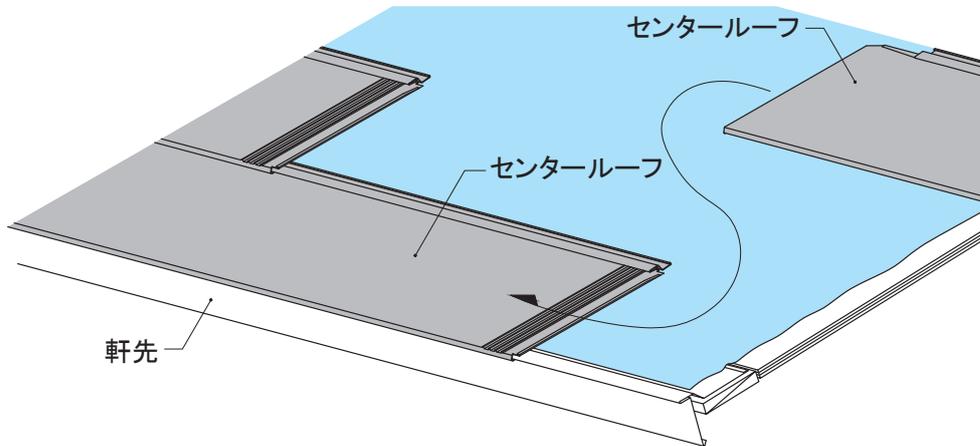
下地

直葺きまたは耐水合板

既存または新規野地板

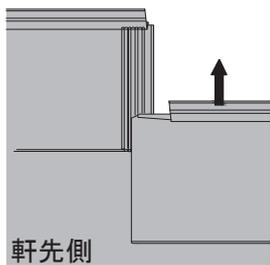
4) 本体のつなぎ方

- センタールーフ本体は左から右へ葺いていきます。また本体どうしのつなぎは重ね合わせのみです。



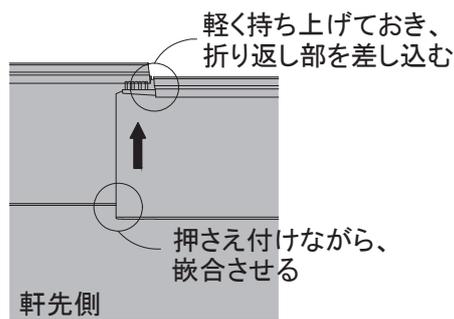
- つなぎの下になる本体を施工後、図1のように施工します。図1で施工できない場合は図2のように施工します。

図1



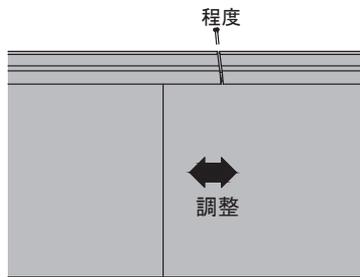
つなぎの上になる本体を下の本体にかぶせるようにスライドさせます。

図2



上になる本体の軒先側は嵌合できるように上から押さえ、釘打ち側は軽く持ち上げておき、一気に軒先側は嵌合させ、釘打ち側は上の本体の折り返し部を下の本体の折り返し部に差し込みます。

- 横暖ルーフの横つなぎは本体釘打ち部の左右隙間が3mm程度になるように調整して施工してください。



- 横暖ルーフαは左右の断熱材を突き合わせてつなぐ設計となっています。断熱材を突き合わせて施工してください。横暖ルーフと横暖ルーフαでは隙間寸法が異なります。



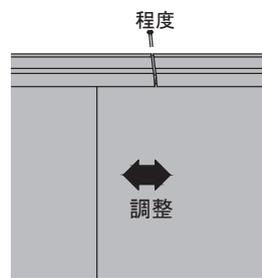
施工イメージ(近景)



施工イメージ(UP)



裏面イメージ



- 緩勾配で捨て板を使用する場合は、P145をご確認ください。

センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺き施工・耐水合板施工
葺き替え	既存または新規野地板

設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

屋根リフォーム
設計

センタールーフ
重ね葺き工法

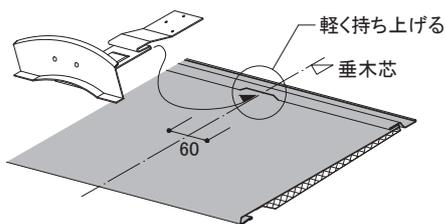
アルマ
重ね葺き工法

参考資料

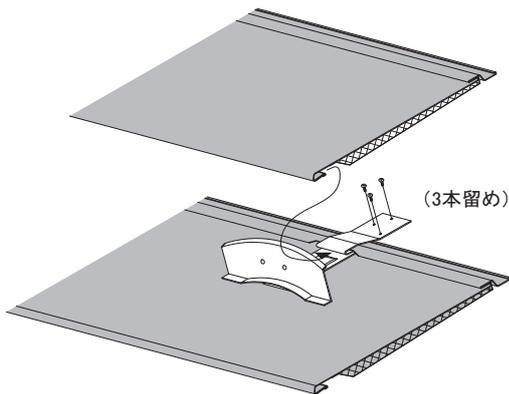
5) 雪止め金具の施工方法

①ウイング

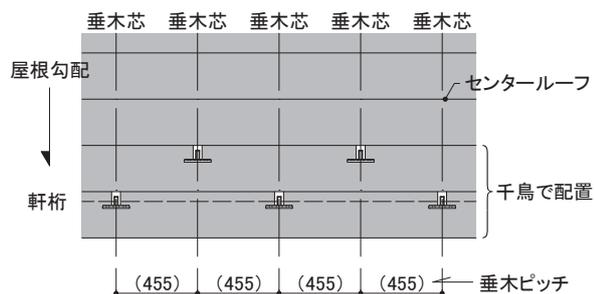
- 雪止め金具を設置するセンタールーフ本体の折り返し部分を、幅60mm程度軽く持ち上げます。
- 取付位置は必ず垂木の直上に配置してください。
- 雪止め金具の折り返し部分を、センタールーフ本体の持ち上げた部分に奥までしっかり差し込みます。



- 雪止め金具を垂木に留め付け、上段のセンタールーフ本体を通常通りにかぶせます。

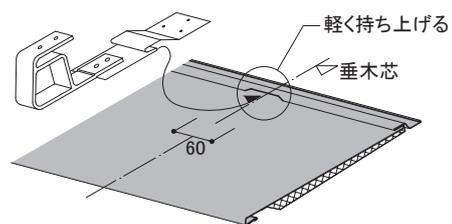


- 図のように軒桁の上を基準にして、基本的に千鳥に配置します。
- 間隔は既存屋根の垂木に合わせます。

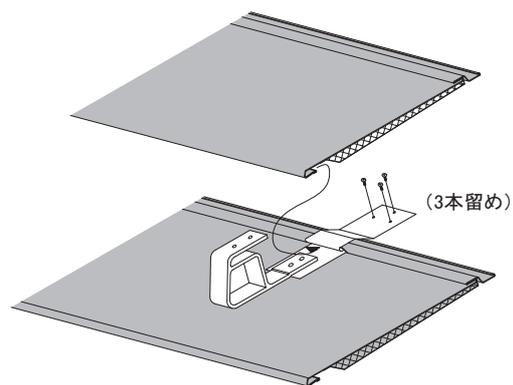


②アングル

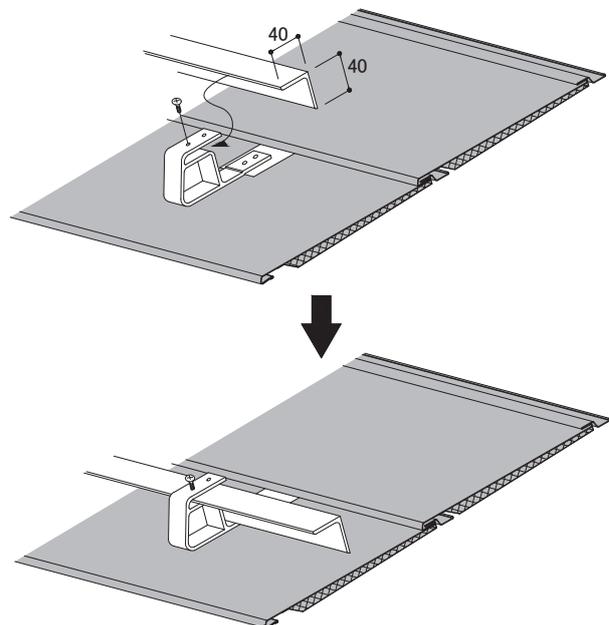
- 雪止め金具を設置するセンタールーフ本体の折り返し部分を、幅60mm程度軽く持ち上げます。
- 取付位置は必ず垂木の直上に配置してください。
- 雪止め金具の折り返し部分を、センタールーフ本体の持ち上げた部分に奥までしっかり差し込みます。



- 雪止め金具を垂木に留め付け、上段のセンタールーフ本体を通常通りにかぶせます。



- 図のようにL型アングル(現場調達)を取り付け、ビスで固定します。



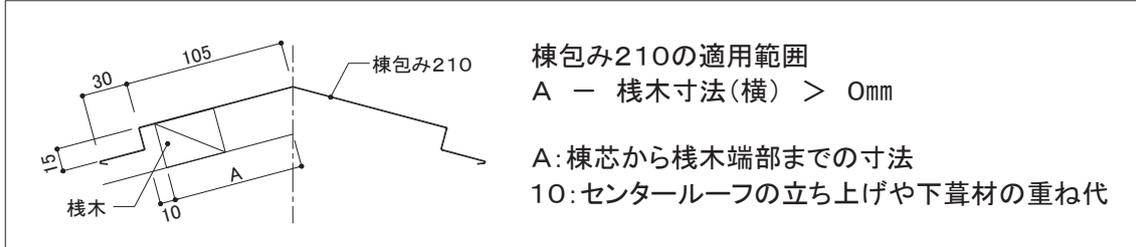
センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺き施工・耐水合板施工
葺き替え	既存または新規野地板

6) 棟包み210

屋根勾配と棧木寸法

- 棟包み210の適用範囲は、棟包み210の内側に棧木が入る勾配となります。
- 棧木位置の目安は、センタールーフの種類ごとに棧木サイズと屋根勾配に応じて異なります。表にセンタールーフの種類と棧木サイズに応じた適用勾配を示します。



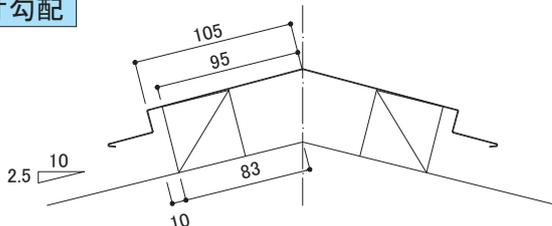
センタールーフの種類に応じた屋根勾配ごとの棧木位置A(※)の目安

棧木寸法(mm)	横暖ルーフ	横暖ルーフ α	
	30(縦)×40(横)	45×45	50×50
2.5	87	83	82
3	86	81	80
3.5	84	79	77
4	83	77	75
4.5	81	74	72
5	80	72	70
5.5	78	70	67
6	77	68	65
6.5	75	65	62
7	74	63	60
7.5	72	61	57
8	71	59	55
8.5	69	56	52
9	68	54	50
9.5	66	52	
10	65	50	
12	59		
17	44		
19			

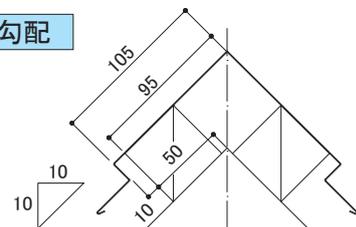
※A: 小数点以下切り捨て。■部は棟包み210が使用できません。現場調達となります。

例: 屋根材が横暖ルーフ α 、棧木寸法が45×45mmの場合

2.5寸勾配



10寸勾配



センタールーフ

工法

下地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

葺き替え

既存または新規野地板

7) センター換気棟

① 施工のポイント

■大棟部: センター換気棟909・1818

センター換気棟を使用する場合は、大棟全体がP158～160の納まりとなります。椽木のサイズ、施工手順が[センター換気棟を使用しない場合の納まり\(P176、198\)](#)と異なります。

適用範囲 センター換気棟は大棟専用です。隅棟には使用できません。

適用勾配 ●センター換気棟は2.5寸～10寸までの屋根勾配に使用します。
●出荷時、カバーは、2.5寸勾配に設定しています。施工する屋根勾配に調節してからご使用ください。

施工本数 施工本数は住宅金融支援機構による工事共通仕様書に準じます。

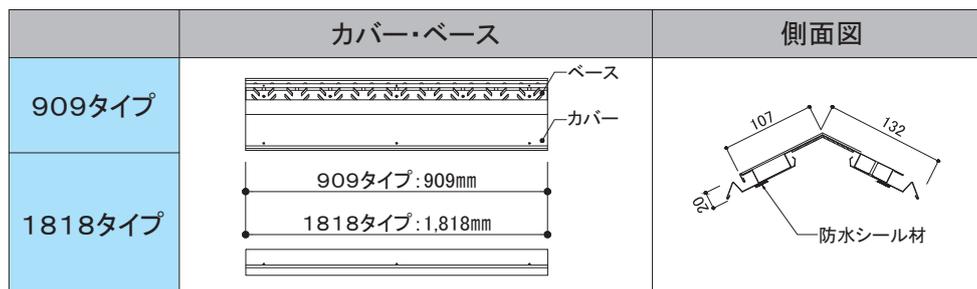
換気金物その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設け、排気口の有効換気面積は、天井面積の1/1600とする。
また、軒裏などに設ける吸気口の有効換気面積は、天井面積の1/900とする。

出典:住宅金融支援機構仕様書より抜粋

注意事項 ●センター換気棟の上に乗らないでください。変形や雨漏りの原因になります。
●センター換気棟は切断しないでください。
●センター換気棟どうしの接続部や棟包みとの接続部には十分な防水対策を行ってください。

有効換気面積	有効換気口面積 (cm ² /本)	適応天井面積 (m ² /本)	板厚 (mm)
909タイプ	118.8	19.0	0.35
1818タイプ	237.5	38.0	

本体形状 (略図)



付属品

	本体付属部品	換気棟エンドキャップ (別売)	換気棟ジョイント (別売)	棟包み210(別売)
909タイプ	ベース取付けビス(φ4×32): 6本 カバー取付けビス(φ4×16): 6本	<p>防水シール材</p>		
1818タイプ	ベース取付けビス(φ4×32): 12本 カバー取付けビス(φ4×16): 10本			<p>長さ: 2,727mm</p>

設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
法
外壁
リフォーム

モ
エン
サイ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

モ
エン
サイ
ディ
ング
張
り
替
え
工
法

セ
ン
タ
ー
サ
イ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

設計
屋根
リ
フォ
ーム

セ
ン
タ
ー
ル
ー
フ
重
ね
葺
き
工
法

アル
マ
重
ね
葺
き
工
法

参
考
資
料

センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

葺き替え

既存または新規野地板

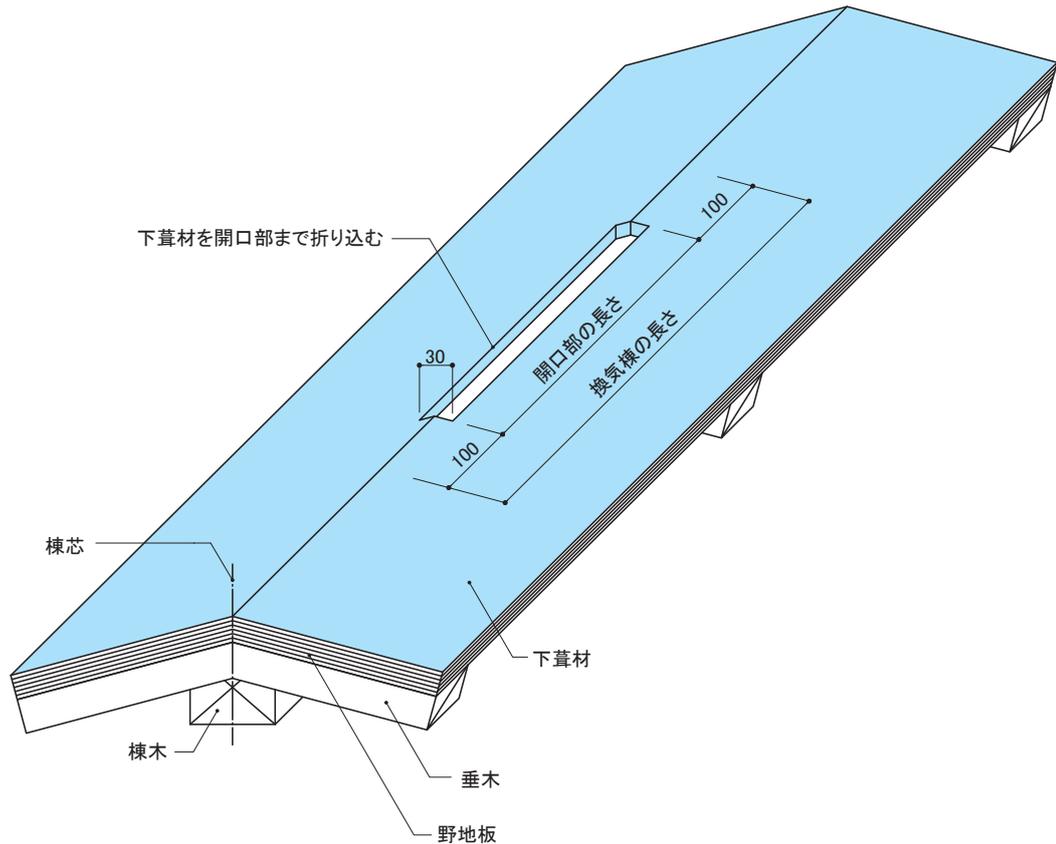
7) センター換気棟

② 下地の開口

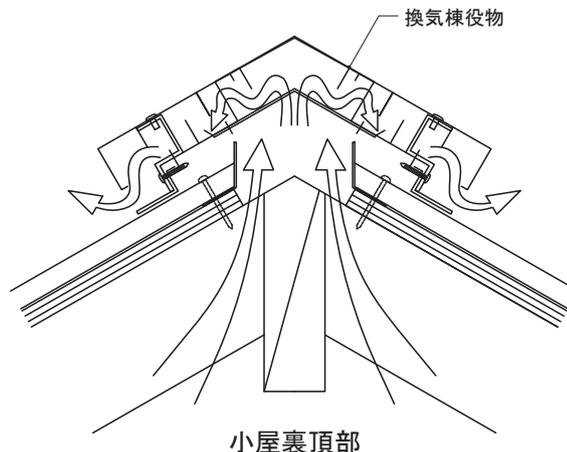
■大棟部:センター換気棟909・1818

<下地の開口>

- ①換気棟の取り付け位置を決めます。
- ②開口部の幅寸法は30mm(棟心から片側15mm)、長さ寸法は換気棟の全長より200mm以上(片側100mm以上)短くなるように開口します。(下表参照)
- ③開口後、下葺材を張ります。



	換気棟の長さ(mm)	開口部の長さ(mm)
909タイプ	909	709以下
1818タイプ	1818	1618以下



センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺きまたは耐水合板
葺き替え	既存または新規野地板

設計 外壁リフォーム
 事前調査の方法
 標準施工法 外壁リフォーム
 モエンサイディング 重ね張り工法
 モエンサイディング 張り替え工法
 センターサイディング 重ね張り工法
 屋根リフォーム 設計
 センタールーフ 重ね葺き工法
 アルマ 重ね葺き工法
 参考資料

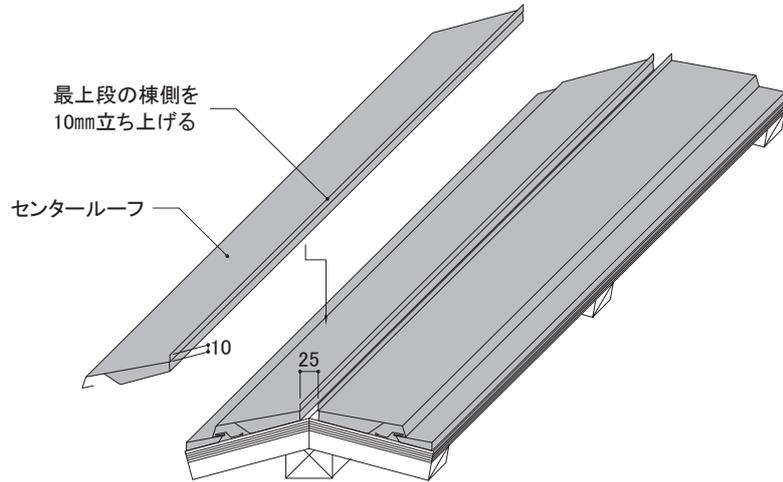
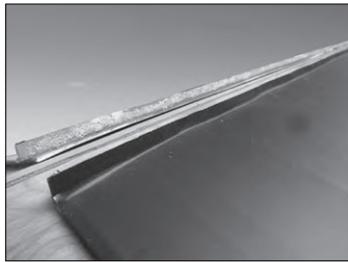
7) センター換気棟

③ センタールーフ・笠木の施工

■大棟部:センター換気棟909・1818

＜センタールーフの施工＞

センタールーフ本体の最上段棟側を10mm立ち上げて施工します。



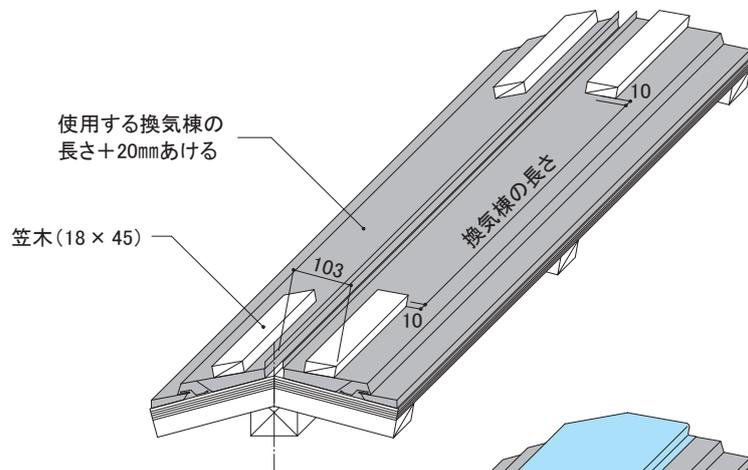
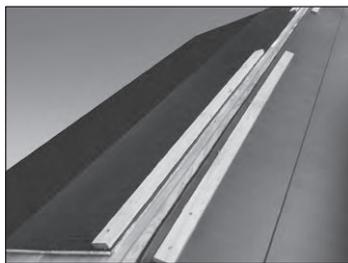
＜笠木の施工＞

①笠木(18×45)と棟包み210を仮組みして、図の寸法位置に笠木を施工します。

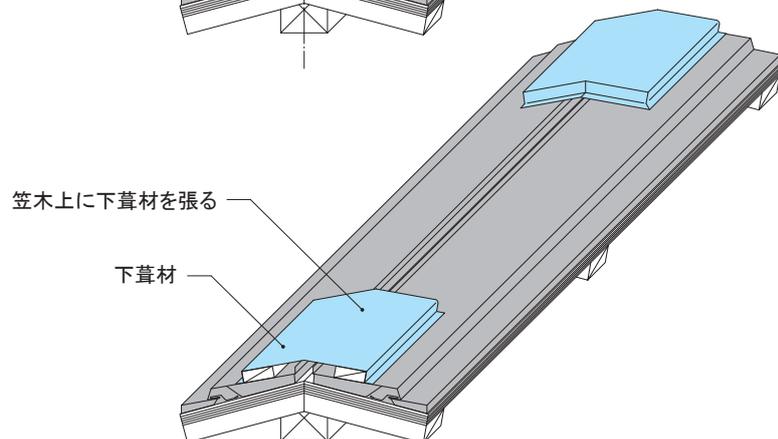
②笠木は換気棟の全長より片側10mm外側に取付けます。

③笠木の施工後、笠木上に下葺材を張ります。

笠木の施工



下葺材の施工



センタールーフ

工法

下地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

葺き替え

既存または新規野地板

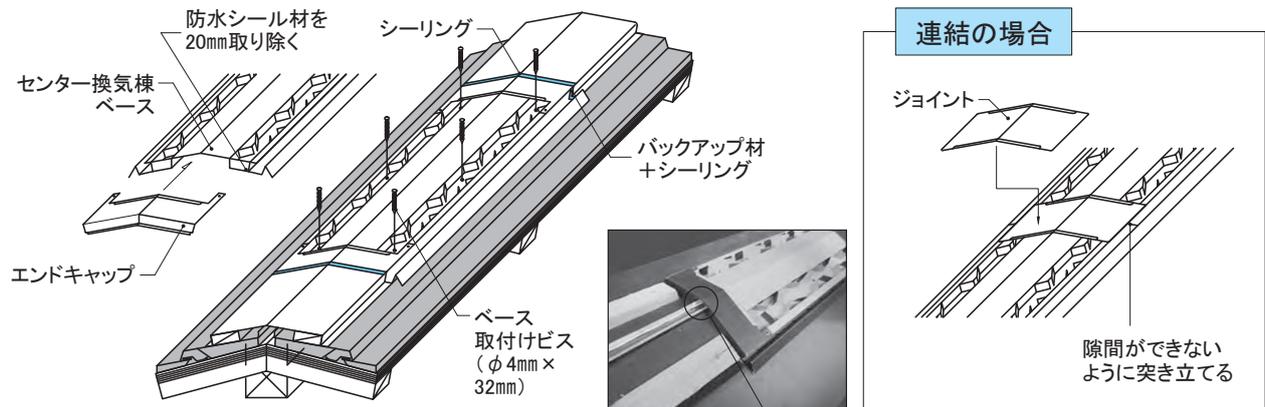
7) センター換気棟

④ ベース・カバーの施工

■大棟部：センター換気棟909・1818

＜ベースの施工＞

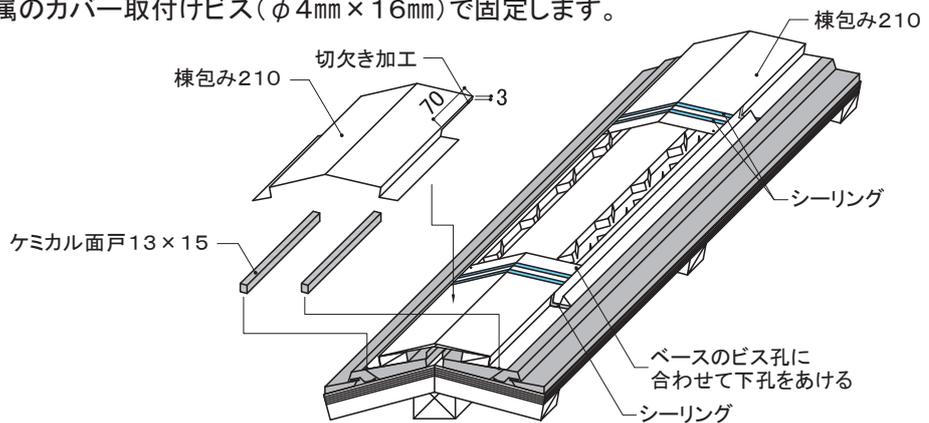
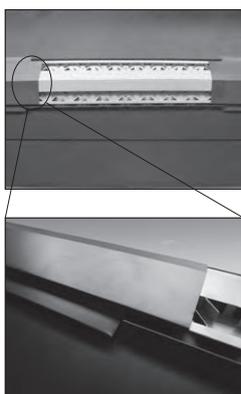
- ①ベース裏面の防水シール材を端部から20mm取り除いた後、ベース両端にエンドキャップを取り付けます。エンドキャップは事前に横暖ルーフ立ち上がり分を切り取ります。
- ②ベース裏面にエンドキャップを取り付けたものを笠木の間付属のベース取付けビス(φ4mm×32mm)で固定します。エンドキャップ切り取り部と横暖ルーフの取り付け部は、捨てシーリングを施工します。
- ③端部にはシーリングを施工します。
- ④換気棟を連結する場合は、換気棟ジョイントを使用してください。



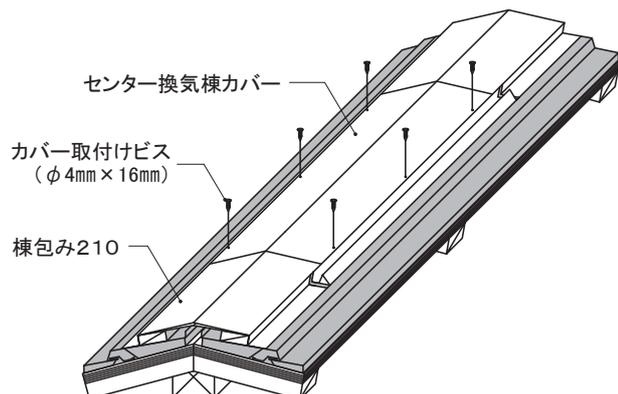
＜棟包みとカバーの施工＞

- ①棟包み210を図のように切り欠き加工し、加工部をベースに重ねて取り付けます。
- ②ベースのビス孔にあわせて棟包み210に先孔をあけます。
- ③カバーと重なる位置の棟包み210上に、シーリングを施工します。(片面2ヶ所)
- ④カバーを取り付け、付属のカバー取付けビス(φ4mm×16mm)で固定します。

棟包み210の施工



カバーの施工



センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

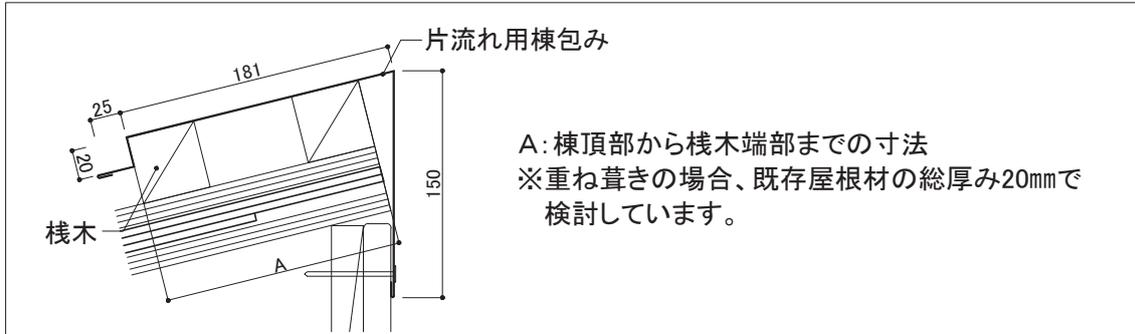
葺き替え

既存または新規野地板

8) 片流れ用棟包み

屋根勾配と棧木寸法

● 棧木位置は、センタールーフの種類ごとに棧木サイズと屋根勾配に応じて異なります。表はセンタールーフの種類と棧木サイズに応じた棧木位置の目安です。現場の状況に応じて棧木の位置を調整してください。



横暖ルーフα 屋根勾配ごとの棧木位置Aの目安

屋根材		横暖ルーフα		
棧木寸法(mm)		45×45		
工 法		葺き替え	重ね葺き 直張り	重ね葺き 新規耐水合板重ね張り
屋根 勾 配	2.5	164	159	156
	3	161	155	151
	3.5	158	151	147
	4	155	147	142
	4.5	152	143	138
	5	149	139	133
	5.5	146	135	129
	6	143	131	124
	6.5	141	128	施工不可

横暖ルーフ 屋根勾配ごとの棧木位置Aの目安

屋根材		横暖ルーフ		
棧木寸法(mm)		30(横)×40(縦)		
工 法		葺き替え	重ね葺き 直張り	重ね葺き 新規耐水合板重ね張り
屋根 勾 配	2.5	165	160	157
	3	162	156	153
	3.5	160	153	149
	4	157	149	144
	4.5	154	145	140
	5	152	142	136
	5.5	149	138	131
	6	146	134	127
	6.5	144	131	123

設計
外壁
リ
フ
ォ
ー
ム

事前
調
査
の
方
法

標準
施
工
法
外壁
リ
フ
ォ
ー
ム

モ
エ
ン
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
重
ね
張
り
工
法

モ
エ
ン
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
張
り
替
え
工
法

セ
ン
タ
ー
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
重
ね
張
り
工
法

設計
屋
根
リ
フ
ォ
ー
ム

セ
ン
タ
ー
ル
ー
フ
重
ね
葺
き
工
法

アル
マ
重
ね
葺
き
工
法

参
考
資
料

センタールーフ

工法

重ね葺き

葺き替え

下地

直葺きまたは耐水合板

既存または新規野地板

9) 片流れ用換気棟

① 施工のポイント

■ 片流れ部: 片流れ用換気棟

片流れ用換気棟を使用する場合は、片流れ棟全体がP163～166の納まりとなります。

（**棧木のサイズ、組み方等が片流れ用換気棟を使用しない場合の納まり(P189、211と異なります。)**）

適用範囲 片流れ用換気棟は片流れ棟専用です。

適用勾配 片流れ用換気棟は条件により適用勾配が異なりますのでご注意ください。

出荷時は2.5寸勾配に設定しています。施工する屋根勾配に調節してからご使用ください。

施工本数 施工本数は住宅金融支援機構による工事共通仕様書に準じます。

換気金物その他の器具を用いた排気口は、できるだけ小屋裏頂部に設け、排気口の有効換気面積は、天井面積の1/1600とする。

また、軒裏などに設ける吸気口の有効換気面積は、天井面積の1/900とする。

出典:住宅金融支援機構仕様書より抜粋

注意事項

- 片流れ用換気棟の上に乗らないでください。変形や雨漏りの原因になります。
- 片流れ用換気棟は切断しないでください。
- 片流れ用換気棟どうしの接続部や片流れ用棟包みとの接続部には十分な防水対策を行ってください。

有効換気面積

有効換気口面積(本)	適応天井面積(m ² /本)	板厚(mm)
219	35	0.35

本体形状(略図)

長さ	外観	側面図
本体全長 2050mm 働き長さ 2000mm		

付属品

本体固定ビス	捨水切	捨水切 エンドキャップ
<p>φ4.2×75mm:5本入り 予備1本含む</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 2本</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 2個</p>

別売り

押さえ板金		片流れ用棟包み
【横暖ルーフの場合】 40 <p>塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ2727mm</p>	【横暖ルーフαの場合】 45 <p>塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ2727mm</p>	<p>塗装高耐食GLめっき鋼板 長さ2727mm</p>

センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

葺き替え

既存または新規野地板

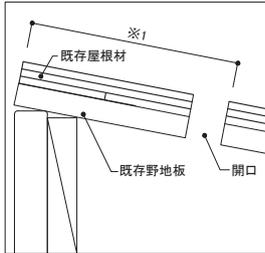
9) 片流れ用換気棟

② 下地の開口・捨水切の施工

1. 下地の開口

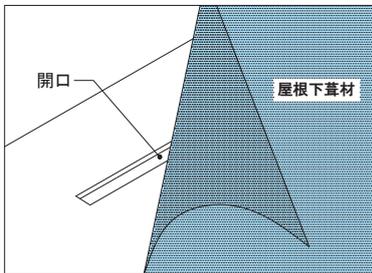
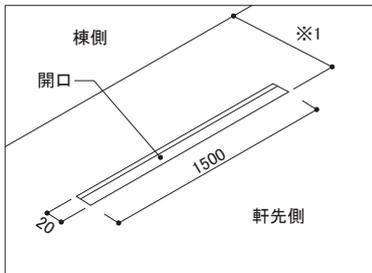
- ① 換気棟の取り付け位置を決めます。
- ② 開口位置は工法および屋根勾配、使用する屋根材の種類によって表(※1)のように異なります。
- ③ 開口後、下葺材を張ります。

開口位置決め

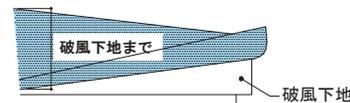


※1の長さの条件別対応表(目安)

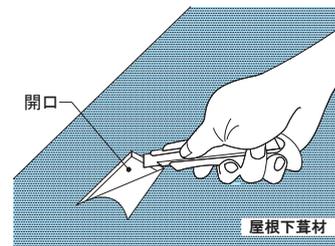
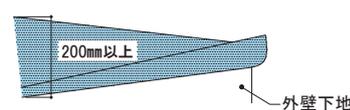
工法	葺き替え		重ね葺き(直張り)		重ね葺き(新規耐水合板重ね張り)	
	横暖ルーフ	横暖ルーフα	横暖ルーフ	横暖ルーフα	横暖ルーフ	横暖ルーフα
2.5寸	89mm	82mm	86mm	79mm	83mm	77mm
3寸	85mm	79mm	83mm	76mm	79mm	76mm
3.5寸	82mm	77mm	79mm	75mm	76mm	
4寸	80mm	75mm	77mm	73mm	74mm	
4.5寸	78mm	73mm	73mm		70mm	
5寸	75mm	71mm	68mm			
5.5寸	73mm			施工不可		
6寸	71mm					
6.5寸	70mm					



■破風施工時の壁側の屋根下葺材

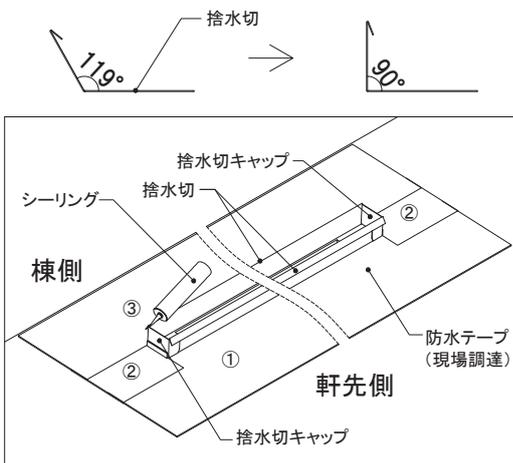


■外壁材施工時の壁側の屋根下葺材



- 破風を施工する場合は破風下地まで、破風を施工しない場合は屋根頂部から壁側に200mm以上、下葺材を張ります。
- 開口にかかる下葺材を切り取ります。

2. 捨水切の施工および防水処理



- 捨水切と捨水切キャップを開口に合わせて施工します。捨水切キャップは捨水切の端部に差込んでください。
- 捨水切の立ち上がりが鉛直になるよう角度を調整し、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)で留め付けます。
- 捨水切施工後、捨水切と捨水切キャップ境界部に内側からシーリングを施します。
- 捨水切と屋根下葺材との境界部、釘頭部およびピンホールにはシーリング材および防水テープで防水処理を施します。防水テープは四方①軒先側→②捨水切端部→③棟側の順に貼付けます。

※防水テープは空気が入らないよう十分に接着させてください。

設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

重ね張り工法
モエンサイディング

張り替え工法
モエンサイディング

重ね張り工法
センターサイディング

設計
屋根リフォーム

重ね葺き工法
センタールーフ

重ね葺き工法
アルマ

参考資料

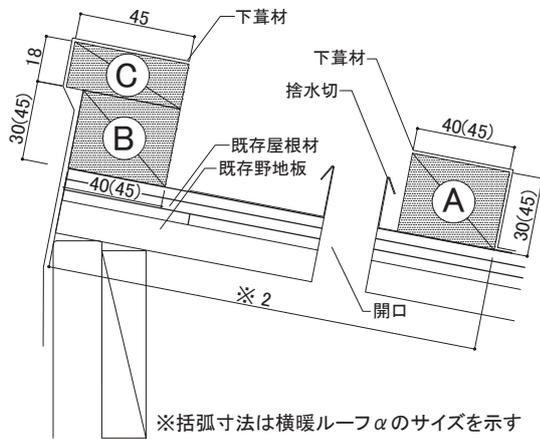
センタールーフ

工法	下地
重ね葺き	直葺きまたは耐水合板
葺き替え	既存または新規野地板

9) 片流れ用換気棟

③ 下地木材・センタールーフの施工

3. 下地木材の施工



※2の長さの条件別対応表（目安）

工法	葺き替え		重ね葺き (直張り)		重ね葺き (新規耐水合板重ね張り)	
	横暖ルーフ	横暖ルーフα	横暖ルーフ	横暖ルーフα	横暖ルーフ	横暖ルーフα
屋根材						
下地木材A・B のサイズ	30×40mm	45×45mm	30×40mm	45×45mm	30×40mm	45×45mm
2.5寸	139mm	137mm	136mm	134mm	133mm	132mm
3寸	135mm	134mm	133mm	131mm	129mm	129mm
3.5寸	132mm	132mm	129mm	126mm	124mm	
4寸	129mm	128mm	125mm	124mm	120mm	
4.5寸	126mm	127mm	121mm		116mm	
5寸	122mm	121mm	115mm			
5.5寸	119mm					
6寸	116mm					
6.5寸	114mm					

※括弧寸法は横暖ルーフαのサイズを示す

施工不可

●図のように下地木材AおよびBを設置します。

下地木材Aは留付釘(ステンレス釘φ3.4mm×75mm以上)を用いて垂木に留め付けます。下地木材Bは留付釘(ステンレス釘φ3.4mm×75mm以上)を用いて留め付けます。

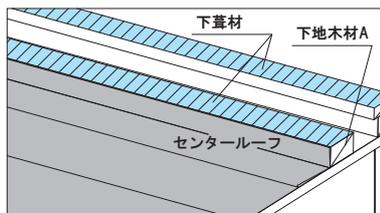
●下地木材B施工後、下地木材Cを設置し、留付釘(ステンレス釘φ2.1mm×50mm以上)で留め付けます。

※下地木材A(現場調達)の施工位置は条件によって異なります。(※2の長さの条件別対応表を参照)

※下地木材A(現場調達)の天端位置は既存屋根材の不陸などにあわせて調整してください。

※下地木材には下葺材を巻いてください。

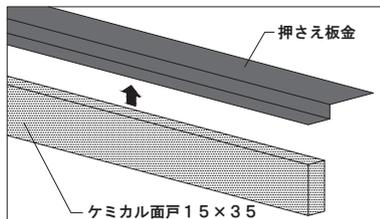
4. センタールーフの施工



●下地木材まで屋根材を葺き上げます。

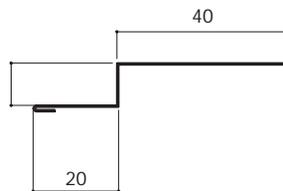
センタールーフは下地木材の厚みと同じだけ立ち上げます。

5. 押さえ板金およびケミカル面戸



●押さえ板金にケミカル面戸15×35を貼り付けます。

<横暖ルーフの場合>

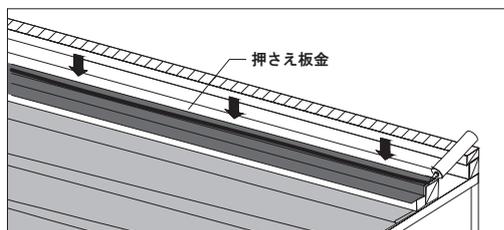


<横暖ルーフαの場合>



材質
塗装高耐食GLめっき鋼板

6. 押さえ板金の施工



●ケミカル面戸15×35を貼り付けた押さえ板金を下地木材Aを覆うように設置し、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で下地木材A上面に留め付けます。

●押さえ板金上面に捨てシーリングを施工します。

センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

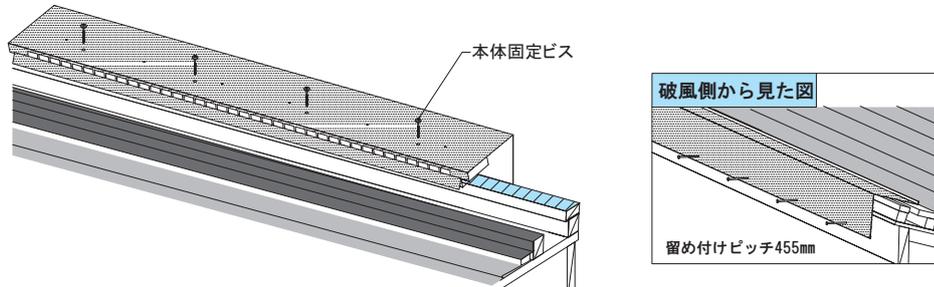
葺き替え

既存または新規野地板

9) 片流れ用換気棟

④ 片流れ用換気棟・片流れ用棟包みの施工

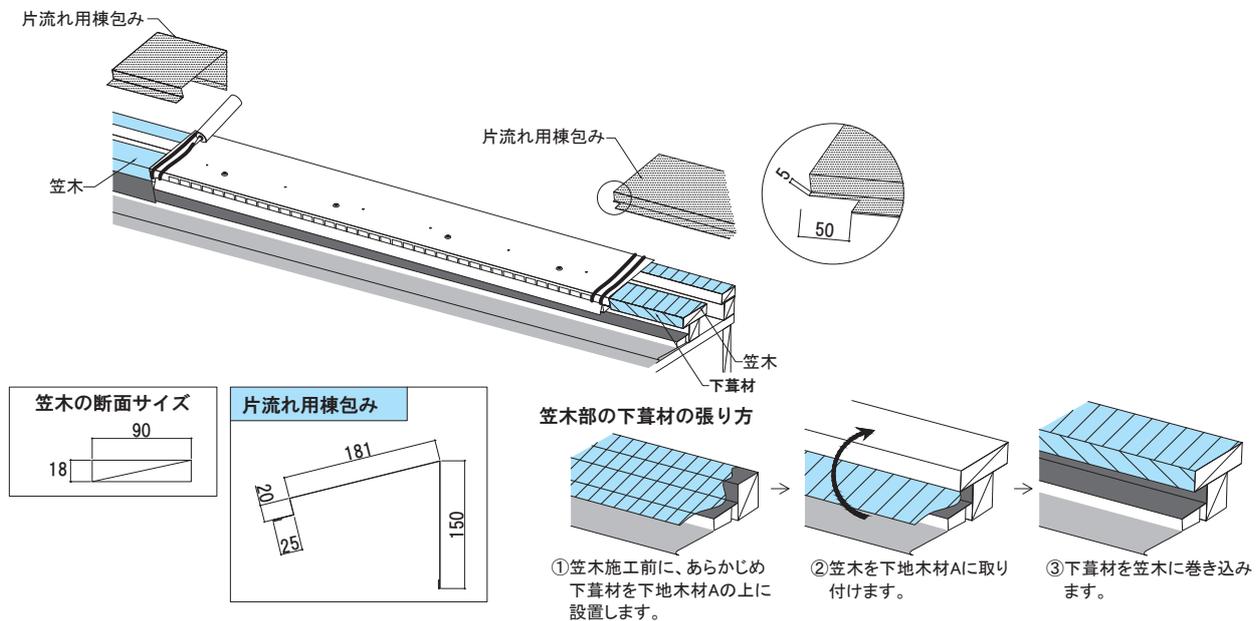
7. 片流れ用換気棟の施工



- 本体の中心位置と開口の中心位置を合わせて本体を設置し、本体固定ビス(75mm)で下地木材Aに留め付けます。
 - 本体垂れ部は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレススクリュー釘、長さ:外装材厚み+30mm以上)を用いて455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- ※片流れ用換気棟を施工する時点で化粧破風やサイディングが施工されていない場合は、施工完了後の外装材の厚みと同じ厚みの木材を挟み、本体垂れ部を仮留めしてください。化粧破風やサイディングの施工後、必ず本体垂れ部を留付釘(ステンレススクリュー釘、長さ:外装材厚み+30mm以上)で留め付け直します。

8. 笠木および片流れ用棟包みの施工

- 片流れ用換気棟および片流れ用棟包みは棟頂部の角度を屋根勾配に合わせて調整し、棟面がたわまないように施工してください。



- 図のように、片流れ用換気棟の両側面に笠木(18×90)を突き付けて設置し、片流れ用換気棟側面に付いているEPDMを潰します。留付ビス(ステンレスビスφ4mm×60mm以上)で下地木材Aに留め付けます。
- ※笠木には図のように下葺材を巻き込みます。
- 本体端部の重ね代(50mm程度)となる部分にシーリングで防水処理を施します。
 - 片流れ用棟包みの一方の端部は、図のように切り欠き、片流れ用換気棟端部の重ね代にかぶせ、片流れ用棟包みの前面を留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で笠木に留め付けます。

設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
法
外壁
リフォーム

モ
エン
サイ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

モ
エン
サイ
ディ
ング
張
り
替
え
工
法

セ
ン
タ
ー
サ
イ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

設計
屋根
リフォーム

セ
ン
タ
ー
ル
ー
フ
重
ね
葺
き
工
法

アル
マ
重
ね
葺
き
工
法

参
考
資
料

センタールーフ

工 法

下 地

重ね葺き

直葺きまたは耐水合板

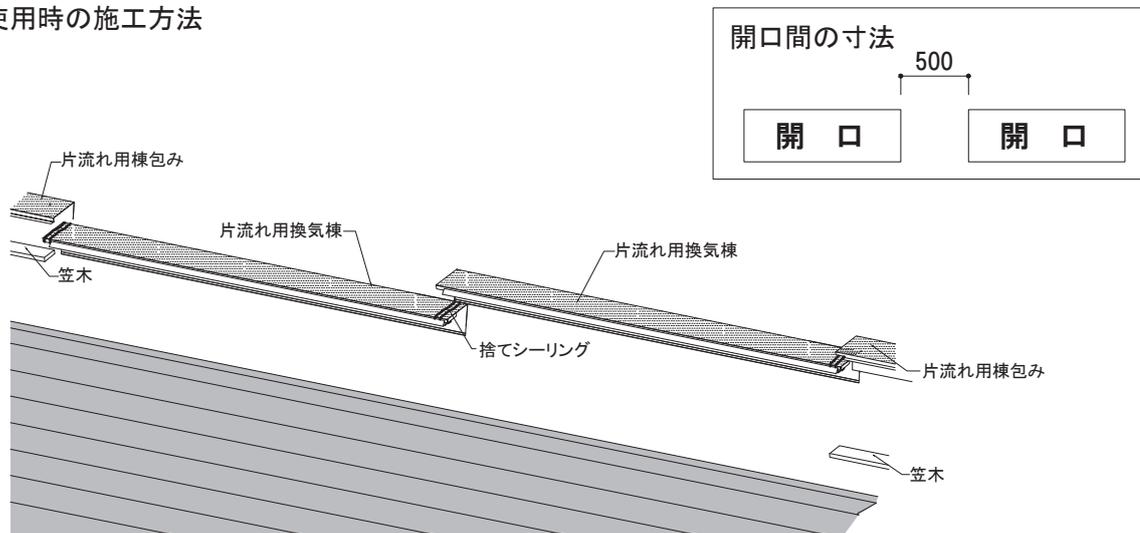
葺き替え

既存または新規野地板

9) 片流れ用換気棟

⑤ 連続使用時の施工

■ 連続使用時の施工方法



- 連続施工時は開口と開口の間を500mmあけ、開口を設けます。
- 手順2～手順8の通り施工します。
- 片流れ用換気棟どうしおよび片流れ用換気棟と片流れ用棟包みが重なる部分にはシーリングでボードを3本作り、防水処理を施します。

8-7 納まり詳細図

横暖ルーフα

重ね葺き工法

直葺き施工

1) 施工のポイント	
2) 本体仕様	
3) 主要付属部材一覧表	①横暖ルーフα専用部材 ②共通部材
4) 軒先部	①軒先唐草60 ②水切ゼロスターター ③セットバックスターター
5) けらば部	①けらば唐草60 ②けらば包み60 ③段付けらば唐草60+段付けらば ④けらば水切110(85)
6) 大棟部	①棟包み210 ②棟巴210L ③棟包み210+けらば水切110(85)
7) 隅棟部	①棟包み210 ②隅棟カバー(隅棟カバー急勾配用)
8) 谷部	①谷樋 ②谷樋+S見切縁18
9) 下屋根部	①流れ側 壁水切60×55+捨て谷80 ②流れ側 壁水切105×70+捨て谷80 ③棟側 壁水切60×55 ④棟側 壁水切105×70
10) 下屋根部 (既存水切を残す場合)	①流れ側 壁水切105×70+捨て谷80 ②棟側 壁水切105×70
11) 片棟部	片流れ用棟包み

本章は、基本的な納まり例を記載していますので、注意事項、禁止事項をご理解いただいたうえで施工してください。

横暖ルーフα

工法

重ね葺き

既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

1) 施工のポイント

①横暖ルーフα専用施工方法

●**棧木寸法が横暖ルーフと異なります。**

棧木は幅45～50mm×高さ45～50mmを使用してください。棧木の使用部位はけらば部(けらば包み仕様)、隅棟部(棟包み仕様)、大棟部、下屋根部です。

●**横暖ルーフα専用の部材があります。**

けらば包み60、けらばキャップ60(左右勝手あり)、けらば水切110(85)、段付けらば軒先(左右勝手あり)、段付けらば(左右勝手あり)、隅棟カバー、隅棟カバー急勾配用、S見切縁18、ケミカル面戸15×35は横暖ルーフαの専用品です。その他の部材は横暖ルーフと共通です。

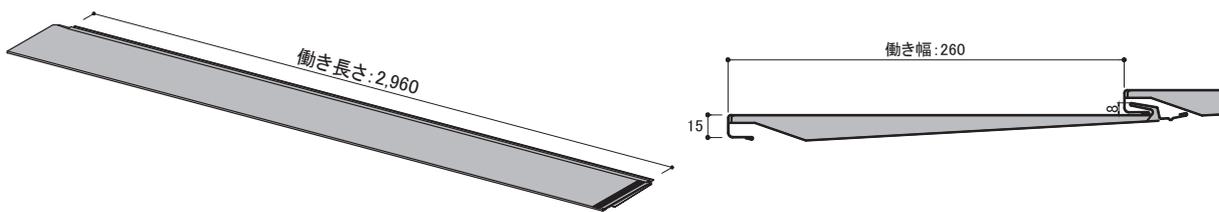
②施工上の注意事項

●横暖ルーフαは山高さ(本体厚み)が横暖ルーフより高いので、掴み込み(巻き込み)端部加工の施工性が横暖ルーフと異なります。

端部加工の少ない段付けらばやS見切縁18の使用を推奨します。

2) 本体仕様

■横暖ルーフα 本体

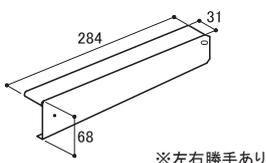


表面材: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm
芯材: 硬質ウレタンフォーム

3) 主要付属部材一覧表

①横暖ルーフα専用部材

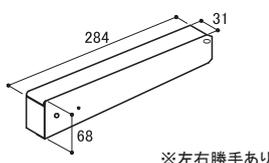
■段付けらば(左右)



※左右勝手あり

【品番: BDKCF0** (左)】
【品番: BDKBF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

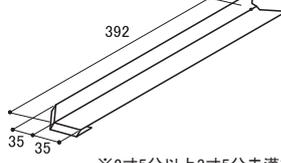
■段付けらば軒先(左右)



※左右勝手あり

【品番: BDKEF0** (左)】
【品番: BDKDF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

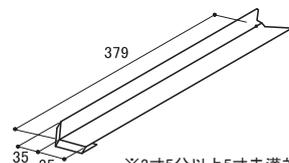
■隅棟カバー



※2寸5分以上3寸5分未満対応

【品番: BSM8F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

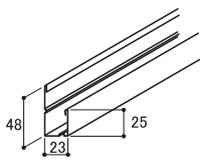
■隅棟カバー(急勾配用)



※3寸5分以上5寸未満対応

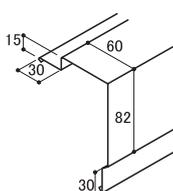
【品番: BSMAF0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■S見切縁18



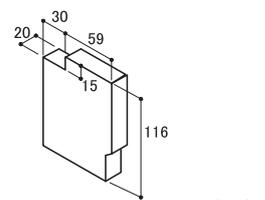
【品番: BMKDF0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば包み60



【品番: BKD6F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

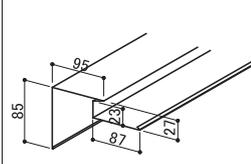
■けらばキャップ60(左右)



※左右勝手あり

【品番: BKCBF0** (左)】
【品番: BKCCF0** (右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切85



【品番: BKZ6F0**】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

※各部材は、2025年1月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフα

工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁
リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根
リフォーム

センター
ルーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

3) 主要付属部材一覧表		①横暖ルーフα専用部材	
<p>■ けらば水切110</p> <p>【品番: BKZ8F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ ケミカル面戸15×35</p> <p>【品番: BCMBQ10B】 材質: EPDM 長さ: 2.000mm</p>		
3) 主要付属部材一覧表		②共通部材	
<p>■ 軒先唐草60</p> <p>【品番: BNK2F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ セットバックスター</p> <p>【品番: BZS7F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ セットバックスター28</p> <p>【品番: BZS8F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm 備考: 新規野地板を重ね張りする場合に使用</p>	<p>■ 水切ゼロスター</p> <p>【品番: BZS3F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 1.820mm</p>
<p>■ 水切ゼロスター25</p> <p>【品番: BZS4F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 1.820mm 備考: 新規野地板を重ね張りする場合に使用</p>	<p>■ けらば唐草60</p> <p>【品番: BKK2F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ 段付けらば唐草60</p> <p>【品番: BKK4F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ けらば水切キャップ85 (左右)</p> <p>【品番: BKCGF0** (左)】 【品番: BKCF0** (右)】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>
<p>■ けらば水切キャップ110 (左右)</p> <p>【品番: BKCJF0** (左)】 【品番: BKCHF0** (右)】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■ 棟包み210</p> <p>【品番: BMD3F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ 隅棟捨て板</p> <p>【品番: BSM5F00A】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2.727mm</p>	<p>■ 剣先210</p> <p>※棟包み210用 【品番: BKE1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>
<p>■ 棟巴210L</p> <p>【品番: BTEBF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 500mm</p>	<p>■ センター換気棟909</p> <p>【品番: BKM2F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 909mm</p>	<p>■ センター換気棟1818</p> <p>【品番: BKM1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 1.818mm</p>	<p>■ 換気棟エンドキャップ</p> <p>【品番: BKM4F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>

※各部材は、2025年1月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

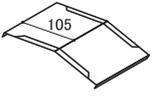
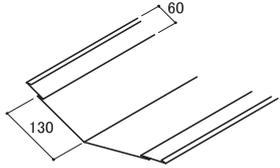
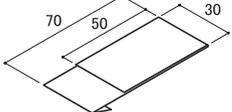
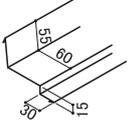
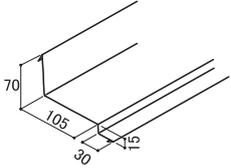
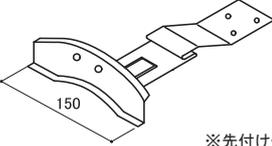
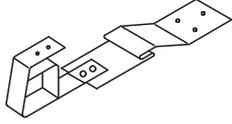
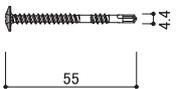
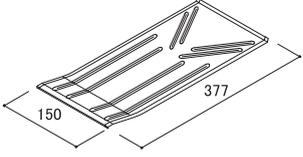
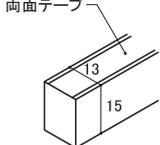
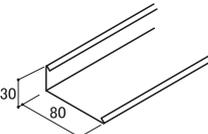
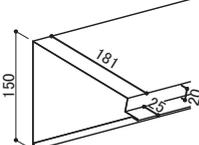
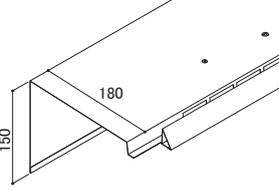
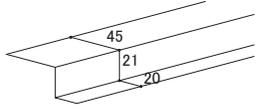
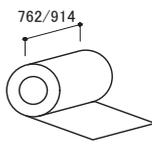
横暖ルーフα

工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

3) 主要付属部材一覧表

② 共通部材

<p>■換気棟ジョイント</p>  <p>【品番: BKM3F051】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■谷樋</p>  <p>【品番: BTD1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■谷樋用吊り子</p>  <p>【品番: BTD2F00A】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■壁水切60×55</p>  <p>【品番: BAM7F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>
<p>■壁水切105×70</p>  <p>【品番: BAM3F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYE*Q0**】 材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>	<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ 【品番: BYD4Q0JK】 足・材質: ステンレス 厚み: 1.2mm</p>	<p>■専用ビス(本体留付用)</p>  <p>ステンレスドリルビス 【品番: JK1910】 材質: ステンレス サイズ: φ4.4mm×55mm</p>
<p>■共通捨て板</p>  <p>【品番: BYS2F00A】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm</p>	<p>■ケミカル面戸13×15</p>  <p>両面テープ 【品番: BCMCQ10B】 材質: EPDM 長さ: 2,000mm</p>	<p>■捨て谷80</p>  <p>【品番: BSD1F0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>	<p>■片流れ用棟包み</p>  <p>【品番: BDMBF0**】 【品番: BDMBF0**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm</p>
<p>■片流れ用換気棟</p>  <p>【品番: BYM5F07**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 備考: プレミアムには設定がありません</p>	<p>■押さえ板金</p>  <p>【品番: BYM6F051】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm 備考: 片流れ用換気棟に使用する</p>	<p>■共板</p>  <p>共板(コイル) 【品番: ECL1F7**】 材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm 幅914mm×長さ10m</p>	<p>■シーリング</p>  <p>ニテハシーリング 【品番: DSY1Q0**】 材質: 変成シリコーン系</p>
<p>■補修塗料</p>  <p>補修塗料 【品番: DPA2Q0**】</p>			

※各部材は、2025年1月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

横暖ルーフ α

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

4) 軒先部

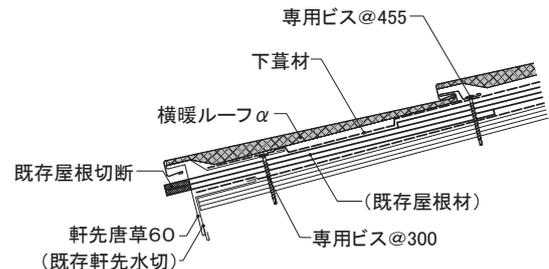
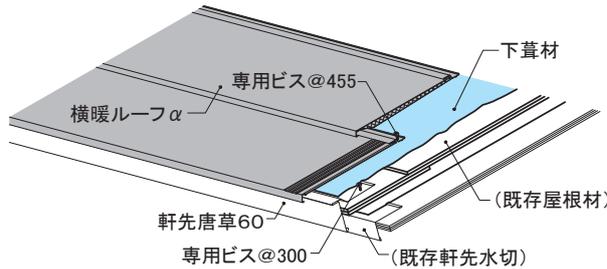
①軒先唐草60

●既存屋根材の軒先が揃うように既存屋根材を切断します。

※軒先面を切断せず施工することも可能ですが、その場合、既存雨樋の取付位置を横暖ルーフ α にあわせて移動させる施工が別途必要となります。

●軒先唐草60は専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。

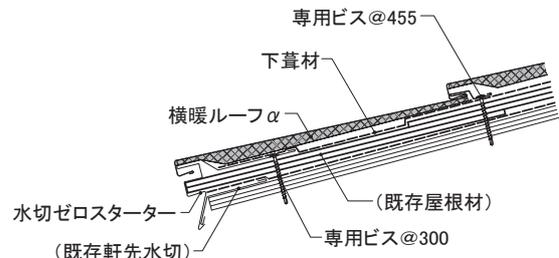
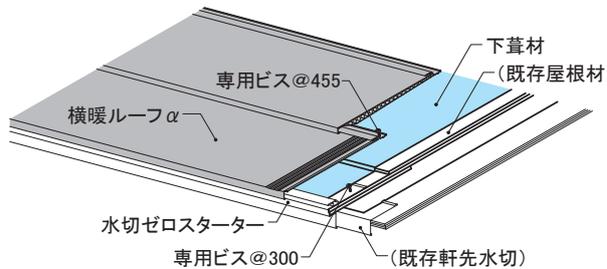
●図のように下葺材を張り、横暖ルーフ α は軒側実を軒先唐草60に差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。



②水切ゼロスターター

●既存屋根材の軒先に水切ゼロスターターを差し込み、専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。

●図のように下葺材を張り、横暖ルーフ α は軒側実を水切ゼロスターターに差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。

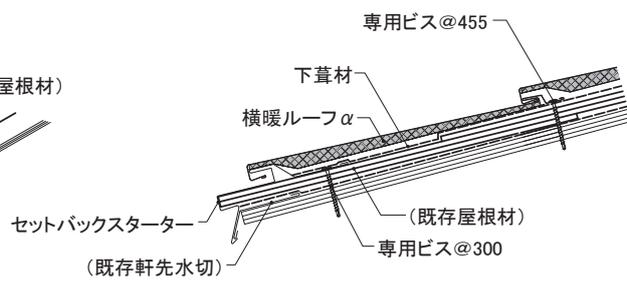
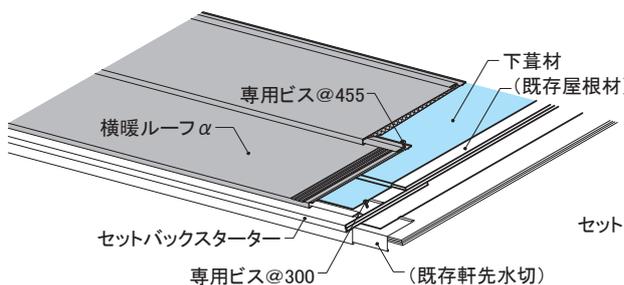


③セットバックスターター

●既存屋根材の軒先にセットバックスターターを差し込み、専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。

●図のように下葺材を張り、横暖ルーフ α は軒側実をセットバックスターターに差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。

※セットバックスターターを使用する場合は、けらば包み60、けらば水切110(85)をご使用ください。



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフォ
ーム

セン
ター
ルー
フ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

横暖ルーフα

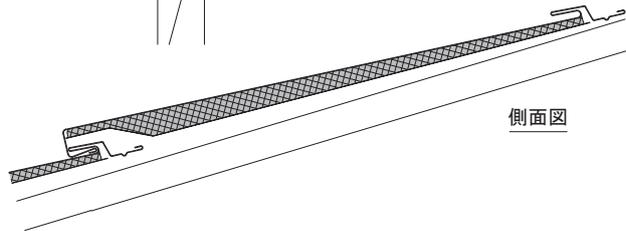
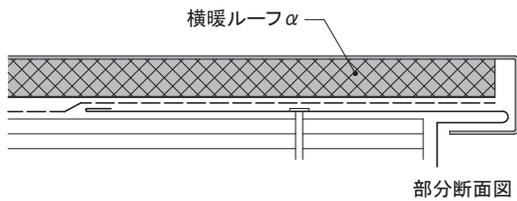
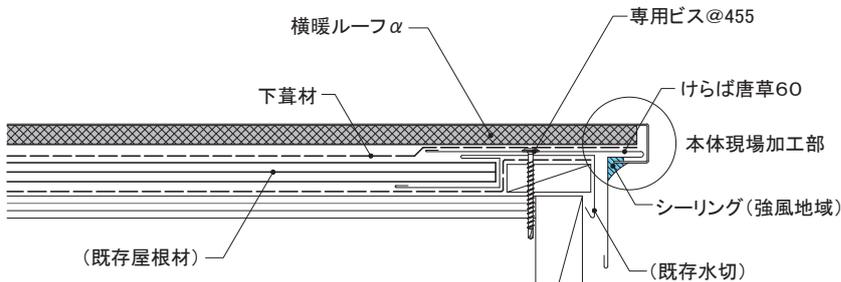
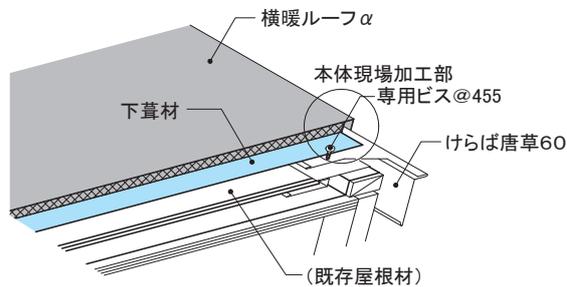
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

5) けらば部

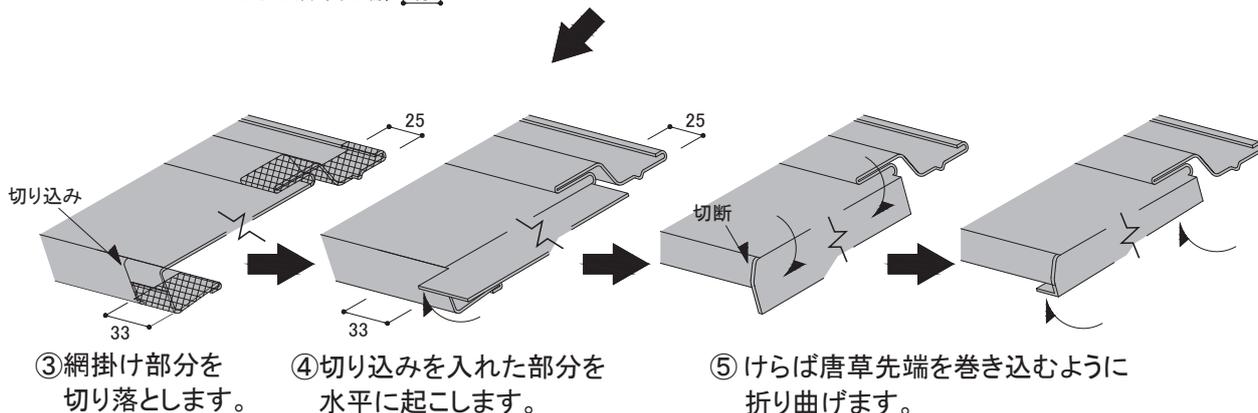
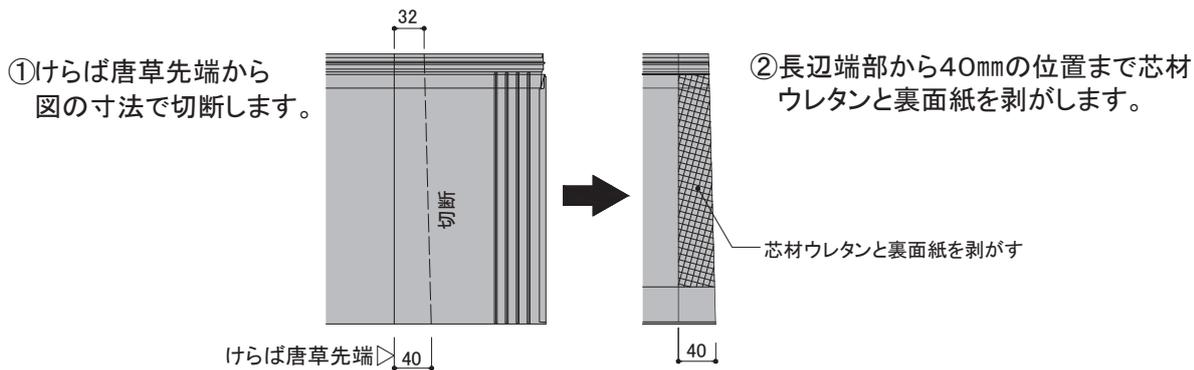
① けらば唐草60

- けらば唐草60は専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm間隔で図の位置に取り付けます。
- 下葺材を張り、横暖ルーフαは専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。
- 横暖ルーフα本体端部は図のように現場加工し、けらば唐草60へ納めます。強風地域では取り合い部にシーリングを施工してください。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体のけらば部分は、図のように加工します。



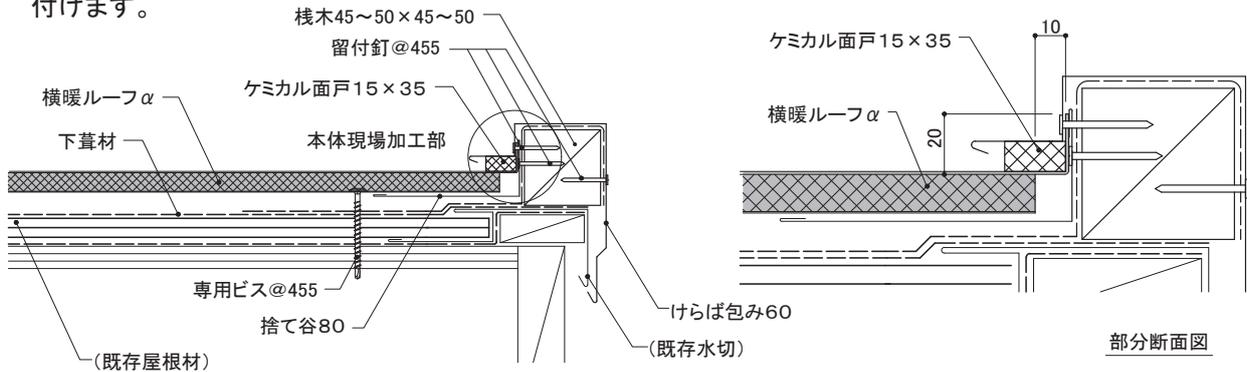
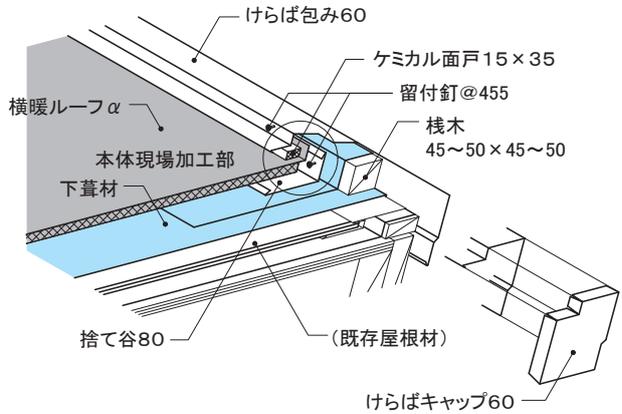
横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

5) けらば部

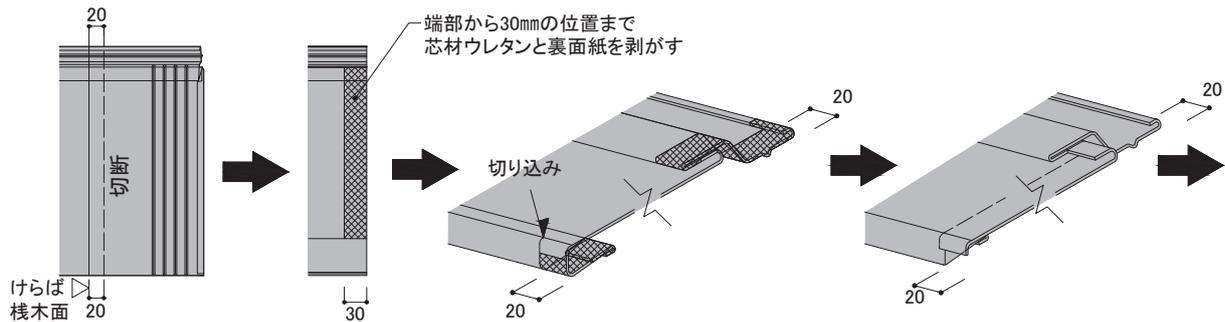
② けらば包み60

- 下葺材は既存水切にかぶせて既存屋根材の上に張ります。
- けらば部に棧木45~50mm×45~50mmを取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、けらば包み60をかぶせるように施工し、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 軒先端部の仕上げは、けらばキャップをリベットでけらば包みに留め付けるか、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



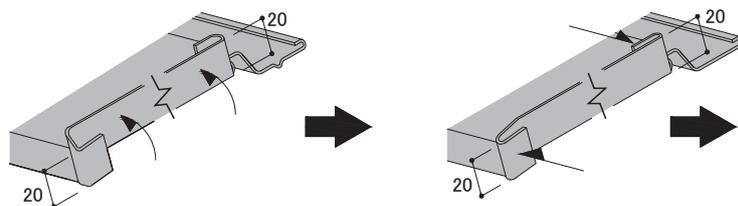
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα 本体のけらば部分は、図のように加工します。



- ① けらば棧木面から図の寸法で切断します。

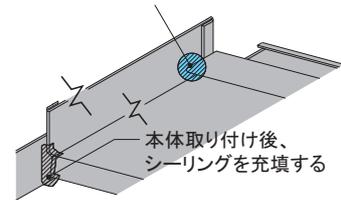
- ② 網掛け部分を切り落とします。



- ③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

- ④ Rの部分をつぶします。

次の横暖ルーフα 本体の取り付け前にシーリングを充填する



- ⑤ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法

外壁
リフォーム

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セ
ン
タ
ー
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リ
フォ
ーム

セ
ン
タ
ー
ル
ーフ
重ね
葺
き
工
法

アル
マ
重ね
葺
き
工
法

参考
資料

横暖ルーフ α

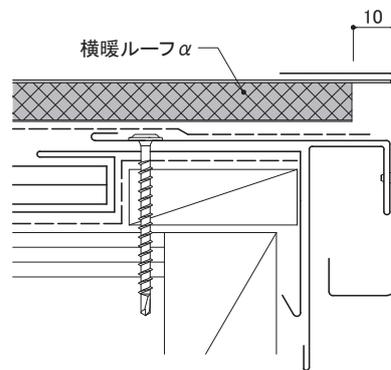
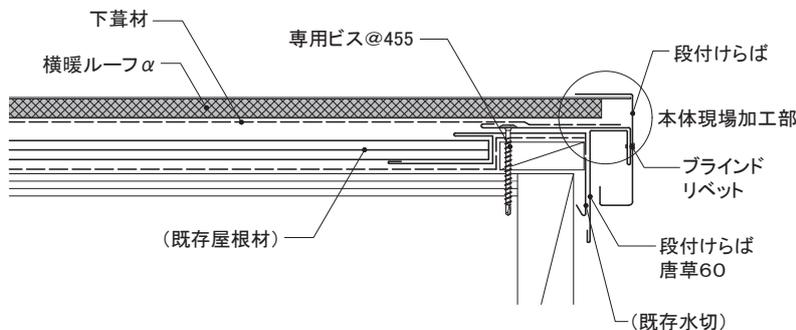
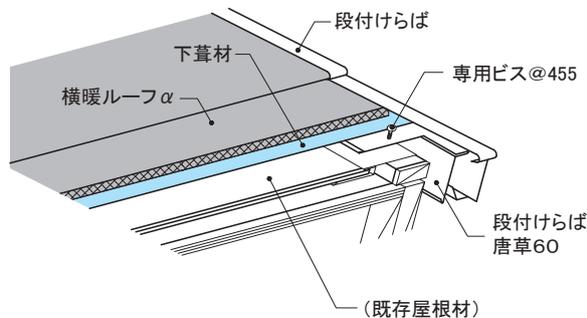
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

5) けらば部

③ 段付けらば唐草60 + 段付けらば

- 段付けらば唐草60は専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。
- 下葺材を張り、横暖ルーフ α は専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に施工します。
- 段付けらばは、けらば小口にかぶせるように取り付けます。その際、軒先から「段付けらば軒先」を施工し、以降「段付けらば」を使用して施工します。
- 「段付けらば軒先」および「段付けらば」は、側面の穴からブラインドリベットで留め付けます。

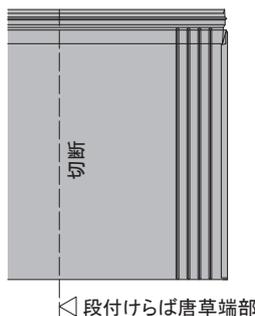


部分断面図

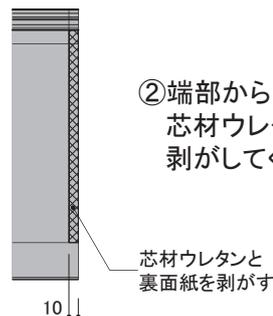
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ α 本体のけらば部分は、図のように加工します。

① 段付けらば唐草の端部となる位置を切断します。

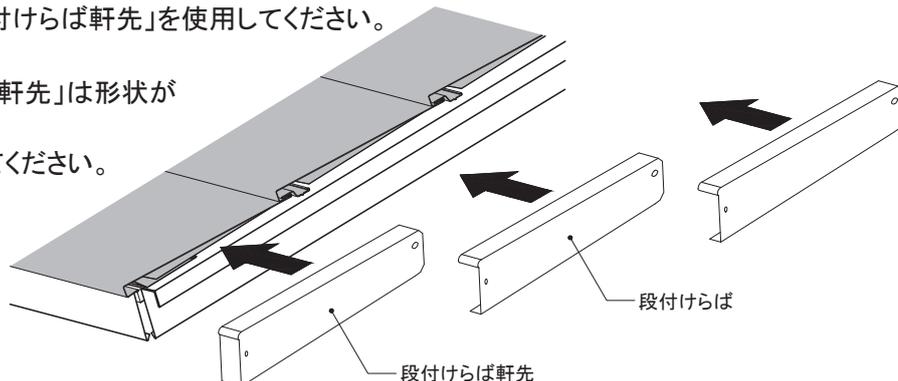


② 端部から10mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がしてください。



- 段付けらばは図のように軒先からかぶせるように取り付けます。軒先は必ず小口付の「段付けらば軒先」を使用してください。

※「段付けらば」「段付けらば軒先」は形状が左右で逆になります。必ずご確認の上、施工してください。



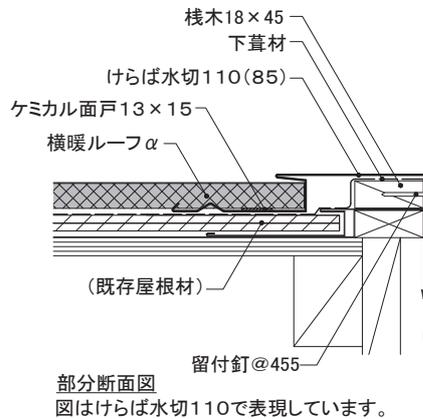
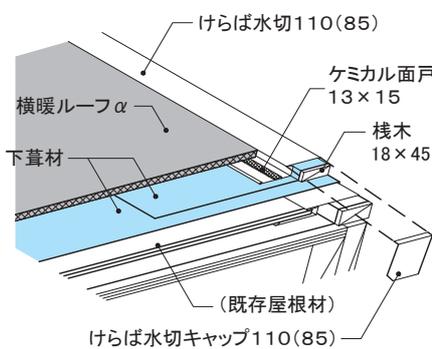
横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

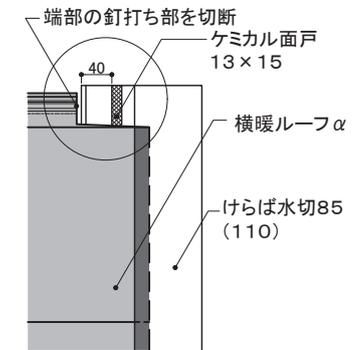
5) けらば部

④ けらば水切110(85)

- 下葺材は既存水切にかぶせて既存屋根材の上に張ります。
- けらば部に棧木18×45を取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- けらば水切110(85)は留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば水切110(85)にケミカル面戸13×15を貼り付けます。
- 横暖ルーフαは、けらば水切85(110)と重なる部分の釘打ち部を切り取ります。
- 横暖ルーフαをけらば水切85(110)に差し込みます。
- 軒先端部は図のように加工して納めます。
- 軒先端部の仕上げは、けらば水切キャップ110(85)をリベットでけらば水切に留め付けるか、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。

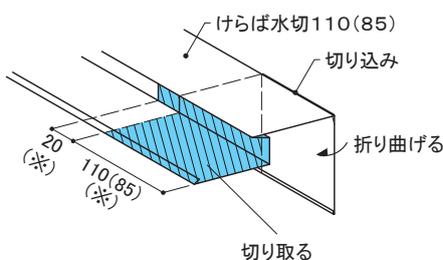


■ケミカル面戸13×15の貼り付け位置



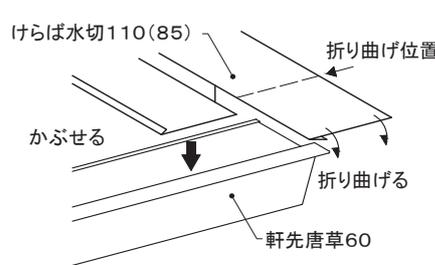
■施工ポイント・現場加工図[けらば水切キャップを使用しない場合]

- 軒先部は、軒先唐草60にけらば水切110(85)をかぶせてください。

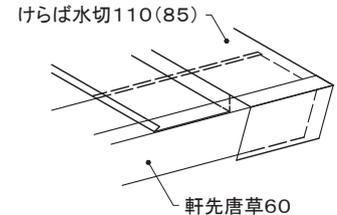


()内の寸法はけらば水切85使用時です。

- ① けらば水切110(85)は図のように切断します。
※切り取り寸法は既存屋根材に応じて変更してください。



- ② けらば水切110(85)は軒先唐草60にかぶせ、図のように折り曲げます。横暖ルーフαが軒先唐草60に差し込めるように、けらば水切110(85)と軒先唐草60の取り合い部の隙間を調整してください。



●その他の加工例



けらば水切110(85)軒先部の加工例



けらば水切110(85)と軒先唐草の取り合い



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
法

外壁
リフォーム

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフォ
ーム

セン
ター
ルー
フ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

横暖ルーフ α

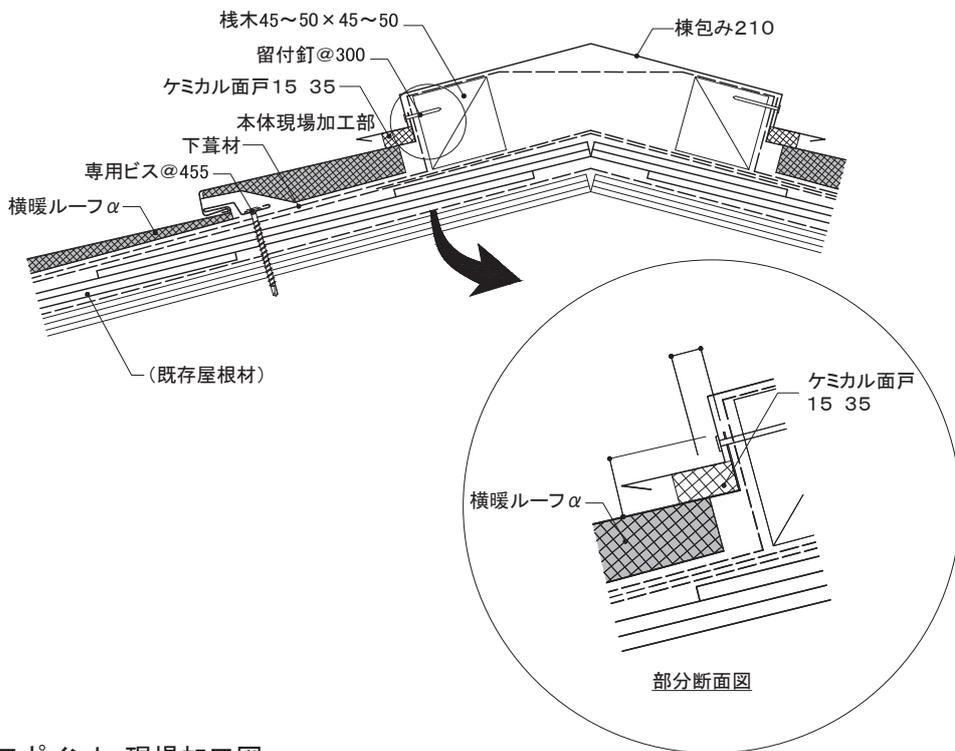
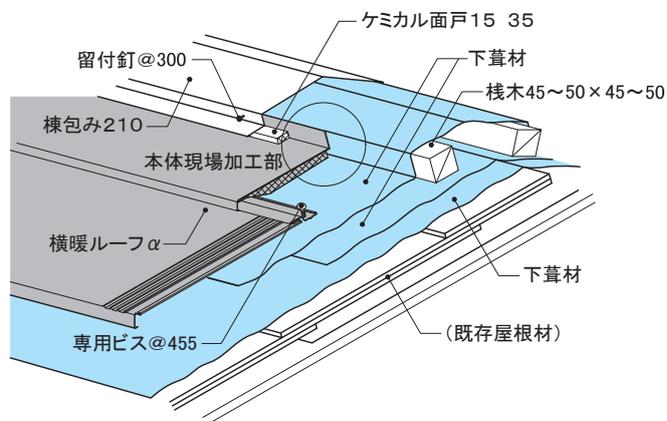
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

6)大棟部

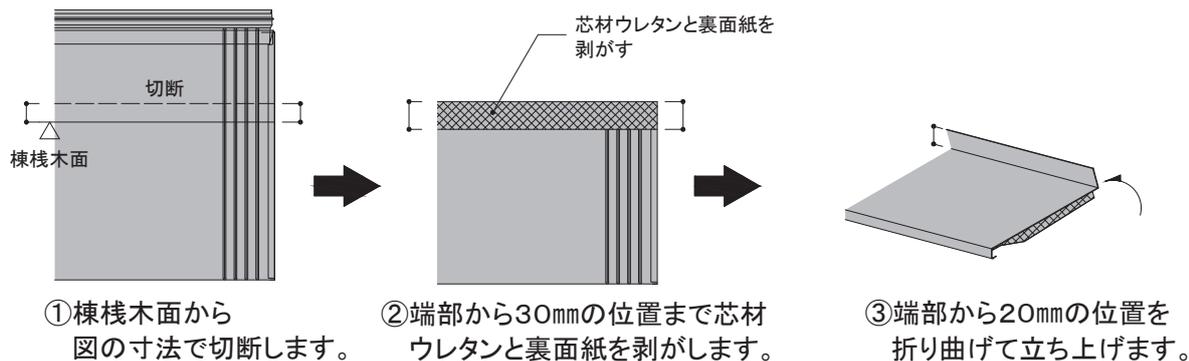
①棟包み210

- 既存屋根材に下葺材を張ります。
- 棟部に棧木45～50mm×45～50mmを外側2ヶ所に取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- ※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 棟部は本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば部は棟包み210Lを使用して納めます。



■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ α 本体の大棟部分を図のように加工します。

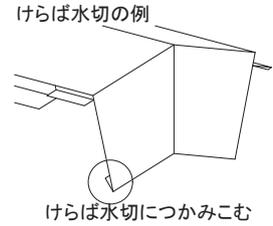
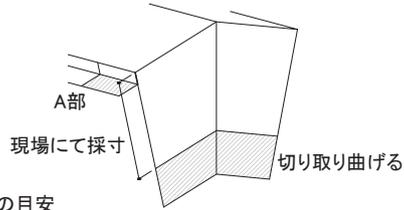
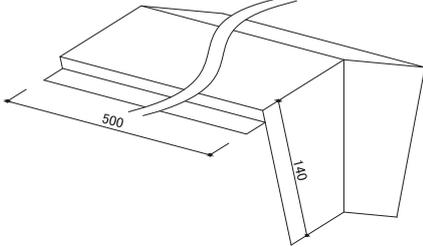


6)大棟部

②棟巴210L

- 棟巴210Lはけらば部材に応じて切り取り、折り曲げ加工します。
- けらば部材下端にあわせて、棟巴210L端部をつかみこみます。
- 棟巴210Lとけらば部材が交わる部分はシーリングを施工します。

<棟巴210Lの加工>

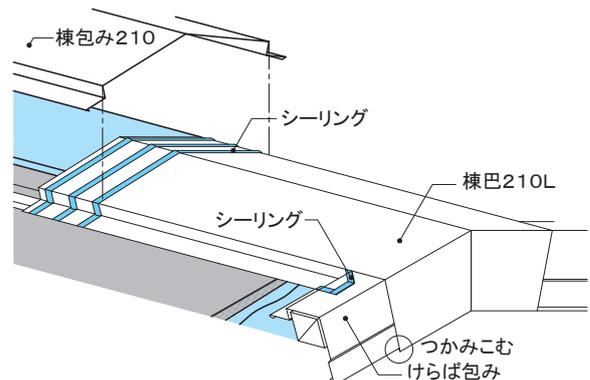
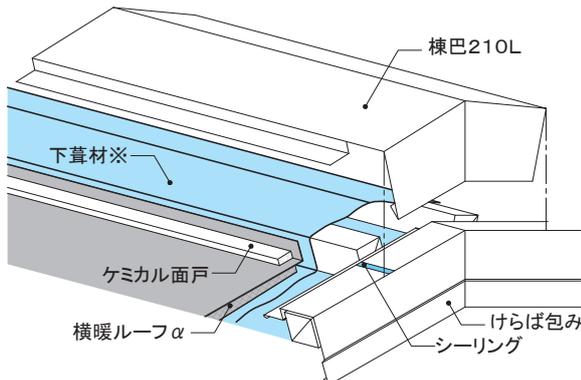


A部加工の目安

けらば包み	けらば水切
<p>50程度 切り取る</p>	<p>95程度 切り取る</p>

各寸法はあくまで目安です。加工前には必ず採寸をお願いします。

■施工手順: けらば包み60の例

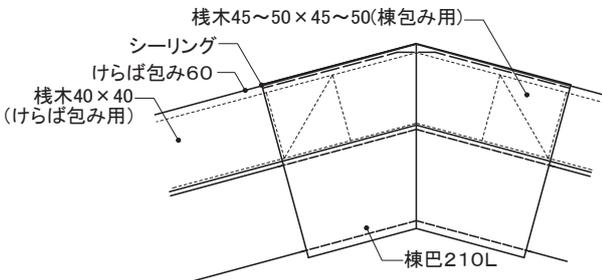


①棟巴210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み60と桧木の上にかぶせます。
※図はイメージです。実際は桧木を下葺材で覆ってください。

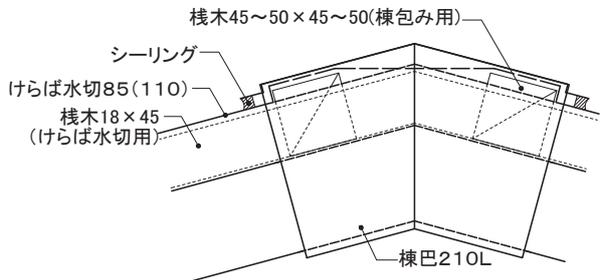
②棟包み210、棟巴210L、けらば包みが交わる部分に捨てシーリングを施工します。

■側面図: 各けらば部材

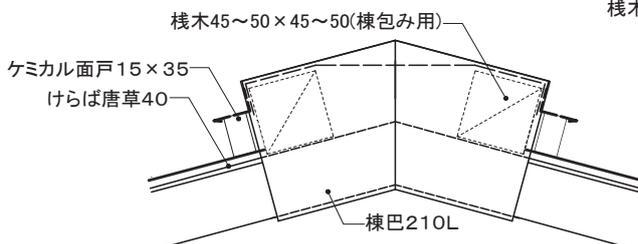
<けらば包み60>



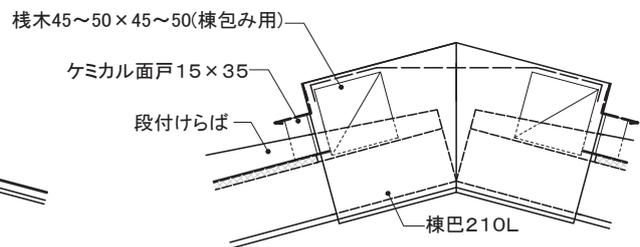
<けらば水切85(110)>



<けらば唐草40>



<段付けらば>



設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

横暖ルーフα

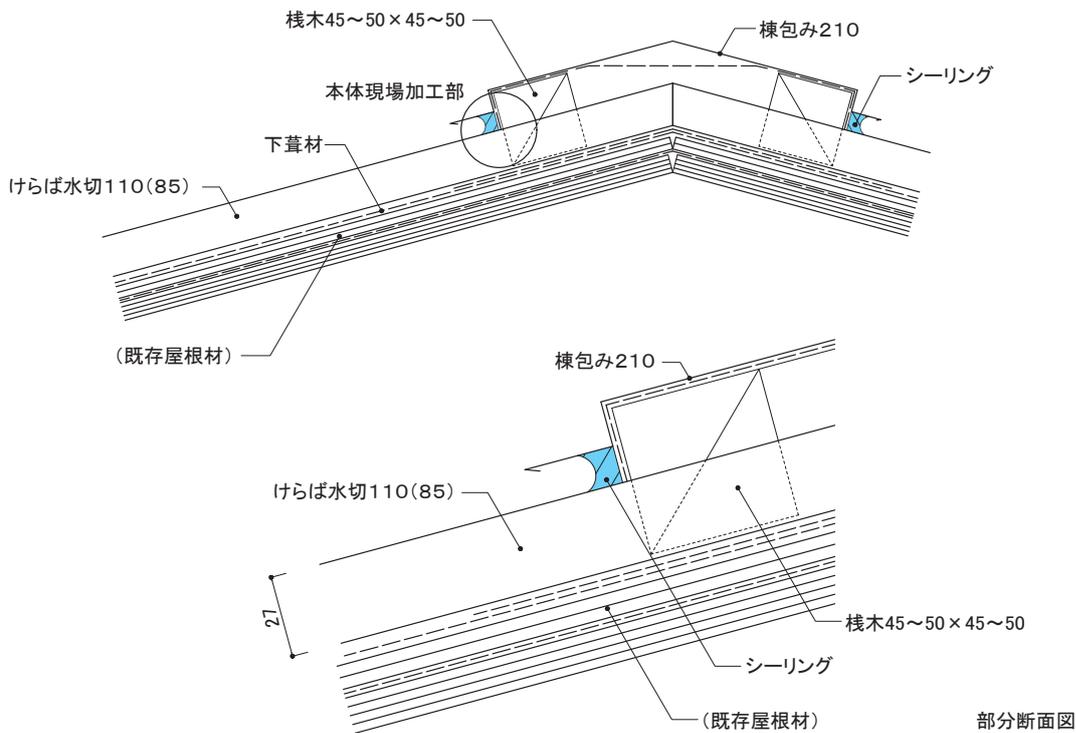
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

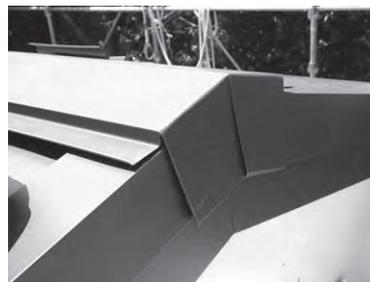
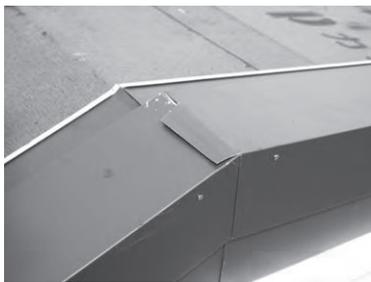
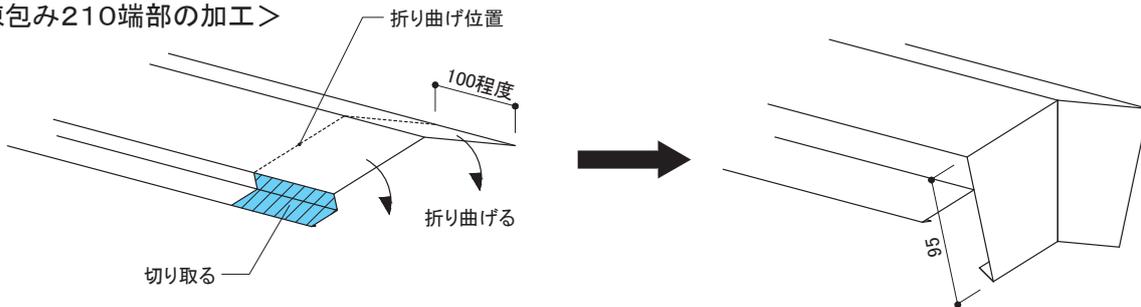
6)大棟部

③棟包み210+けらば水切110(85)

- 棟包み210自体を加工して納める方法です。棟包み210の端部は図のように加工します。
- けらば水切110(85)の上に棟包み210をかぶせ、シーリングを施工します。



■施工のポイント・現場加工図 <棟包み210端部の加工>



- ①大棟部のけらば水切110(85)は、図のように切断加工します。
- ②もう一方のけらば水切110(85)は、先行して施工したけらば水切110(85)にかぶせます。
- ③棟包みを図のように加工し、けらば水切110(85)にかぶせます。

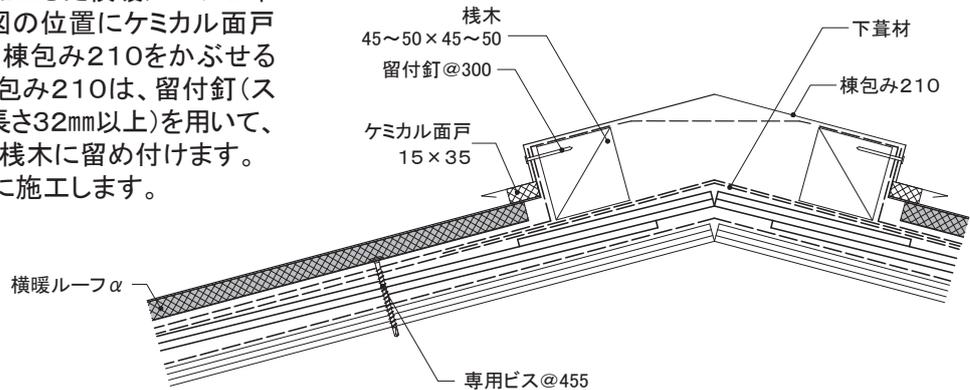
横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

7) 隅棟部

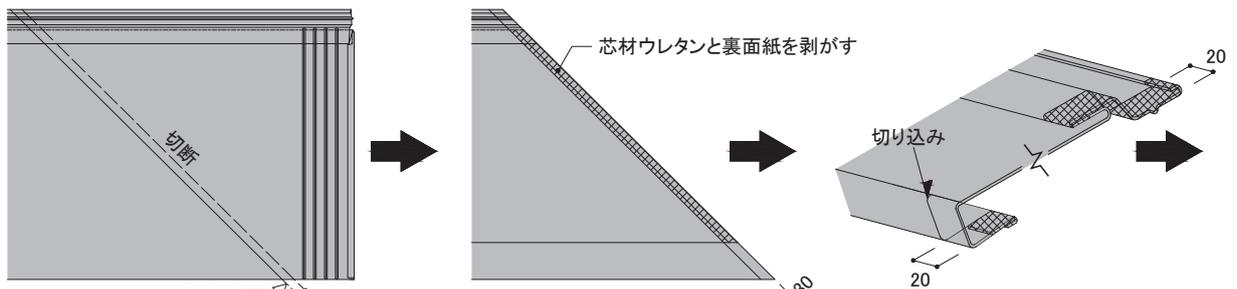
① 棟包み210

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
- 桧木45～50mm×45～50mmを外側2ヶ所に取り付け、桧木を包むように下葺材を増し張りします。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 隅棟部は図のように加工した横暖ルーフα本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で桧木に留め付けます。
- 剣先210は図のように施工します。



■ 施工ポイント・現場加工図

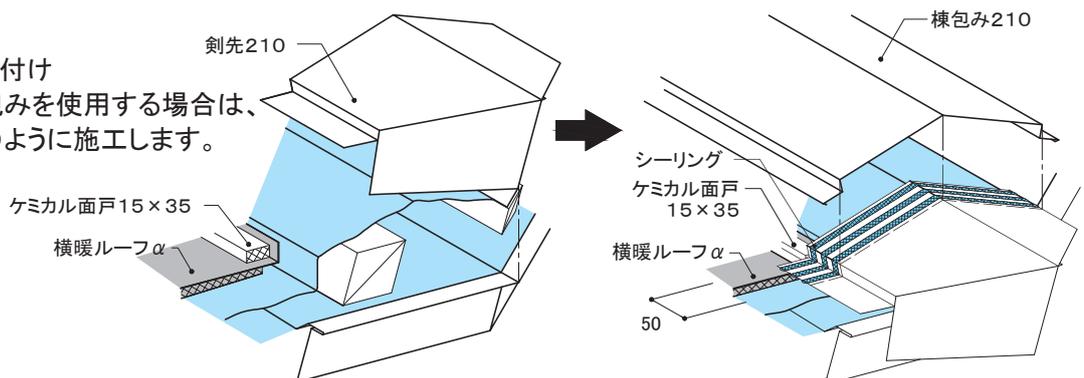
- 横暖ルーフα本体の隅棟部分は、図のように加工します。



- ① 棟桧木面から図の寸法で切断します。
- ② 端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。
- ③ 網掛け部分を切り落とします。
- ④ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。
- ⑤ Rの部分をつぶします。
- ⑥ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

■ 剣先の取り付け

- 隅棟に棟包みを使用する場合は、剣先を図のように施工します。



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
法

モ
エン
サイ
ディ
ング

横暖ルーフα

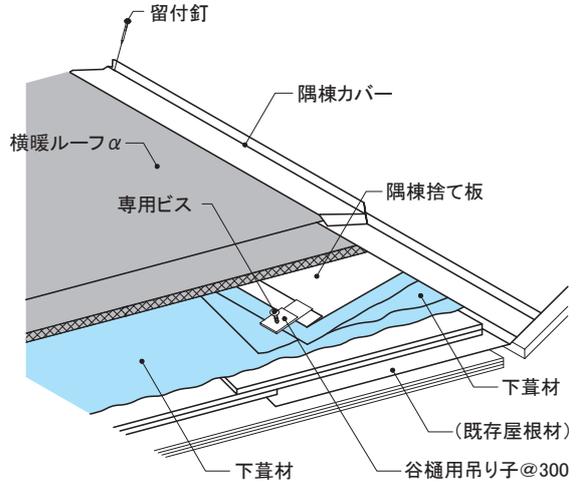
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

7) 隅棟部

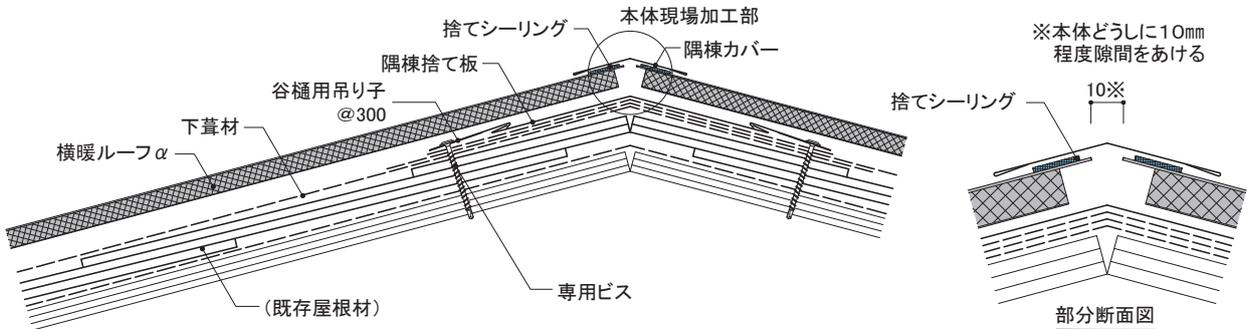
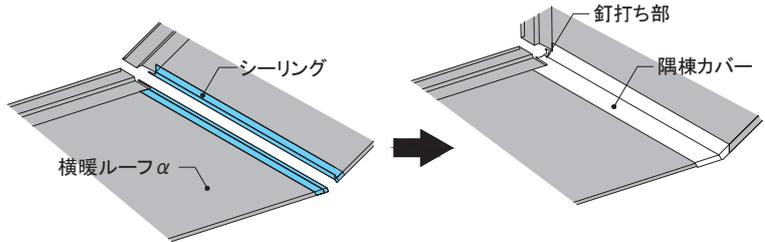
② 隅棟カバー（隅棟カバー急勾配用）

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
- 隅棟捨て板は隅棟部に谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス（ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm）で留め付けます。隅棟捨て板を避けて、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- 横暖ルーフα本体の切断部から約10mm程度の幅でシーリングを施工します。
- 隅棟カバーは横暖ルーフα本体の接合部へ差し込み、釘留めします。
- 屋根の勾配が2寸5分勾配以上3寸5分勾配未満の場合は隅棟カバーを使用し、3寸5分勾配以上5寸勾配未満の場合は隅棟カバー急勾配用を使用します。



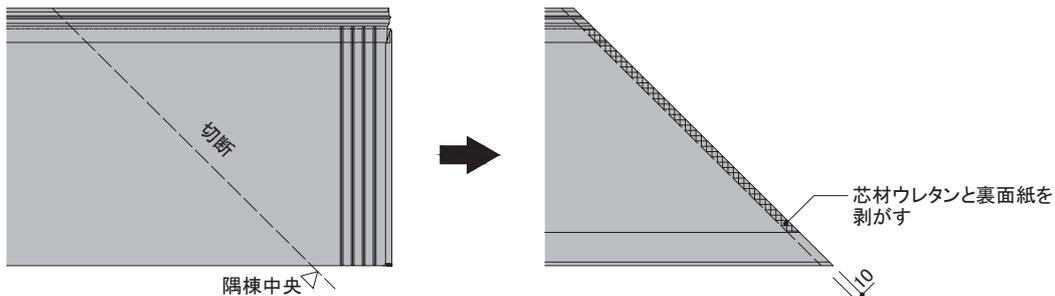
■ 隅棟カバーの取り付け

- ① 本体切断部から10mm程度に捨てシーリングを施工します。
- ② 隅棟カバーを取り付け、釘打ち部を長さ32mm以上のステンレスクリュー釘で固定します。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の隅棟部分は、図のように加工します。



① 隅棟中央の位置で切断します。

② 端部から10mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

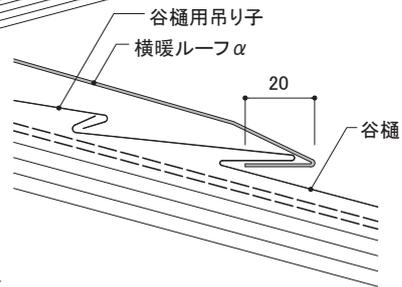
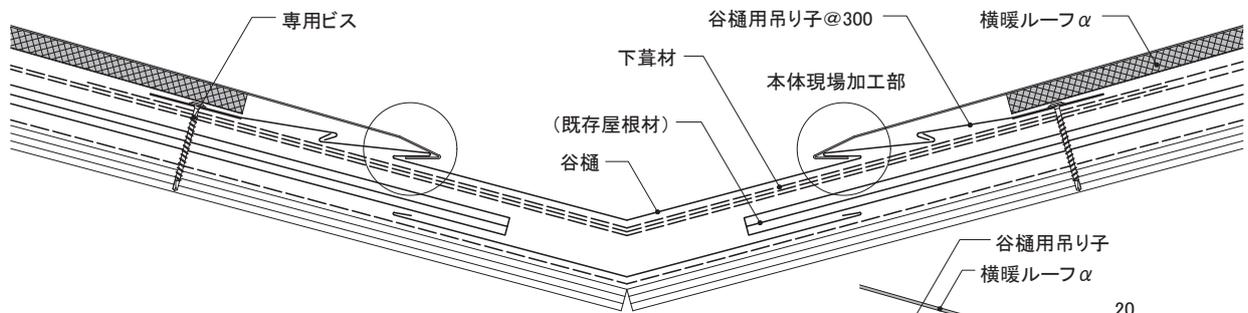
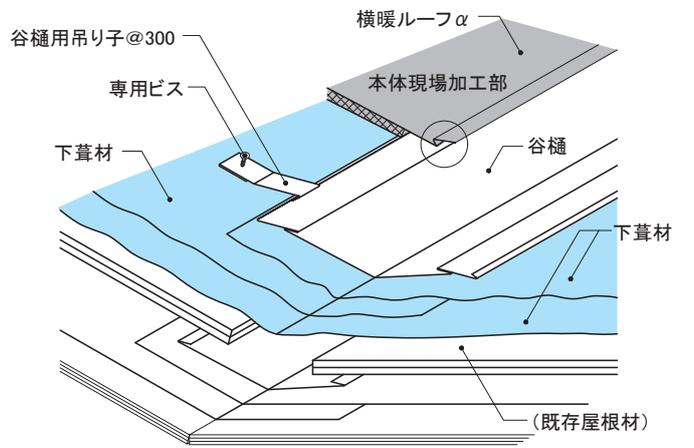
横暖ルーフ α

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

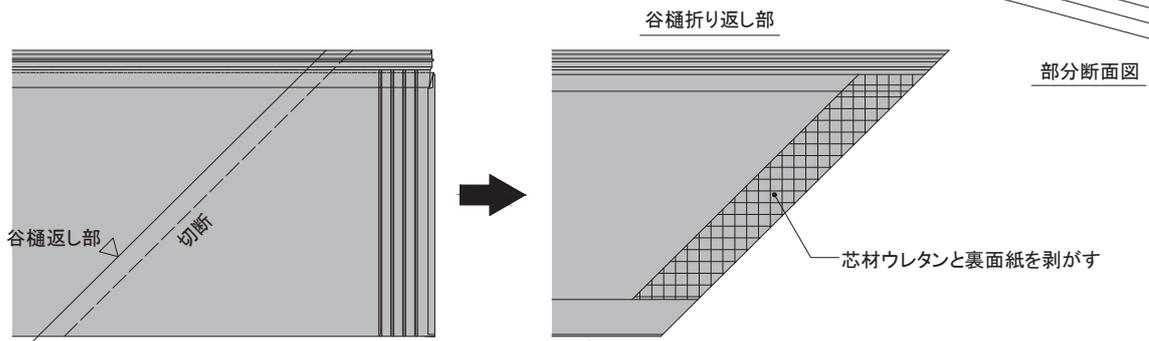
8) 谷部

- 既存屋根材に、下葺材を施工します。
- 谷樋は谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス(ステンレスドリルビス $\phi 4.4\text{mm} \times 55\text{mm}$)で留め付けます。本体留め付けの際は、谷樋を避けて施工します。
- 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフ α 本体を、谷樋折り返し部分に引っかけるようにして施工します。

① 谷樋

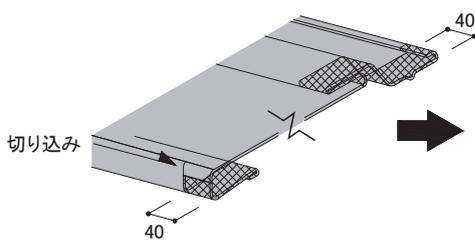


- 施工ポイント・現場加工図
- 横暖ルーフ α 本体の谷樋部分は、図のように加工します。

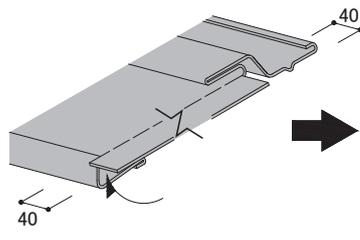


① 谷樋返し部から図の寸法で切断します。

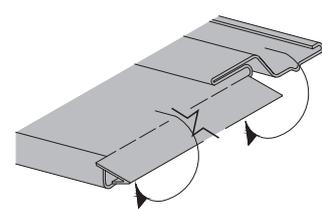
② 端部から50mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。



③ 網掛け部分を切り落とします。



④ 切り込みを入れた部分を水平に起こします。



⑤ 谷樋返し部を巻き込むように折り曲げます。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

モエン
サイディング
重ね張り
工法

モエン
サイディング
張り替え
工法

センター
サイディング
重ね張り
工法

設計
屋根
リフォーム

センター
ルーフ
重ね葺き
工法

アルマ
重ね葺き
工法

参考資料

横暖ルーフα

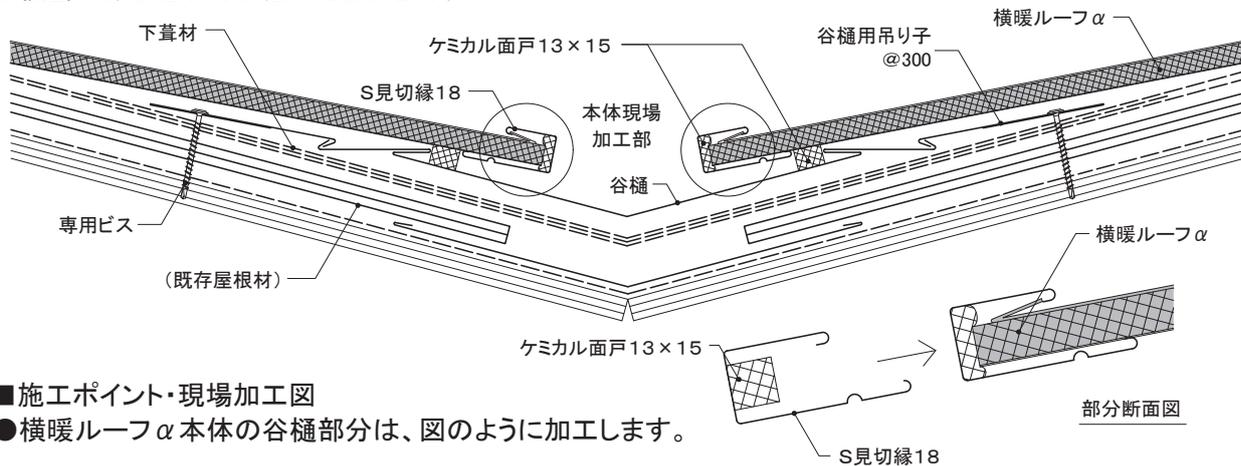
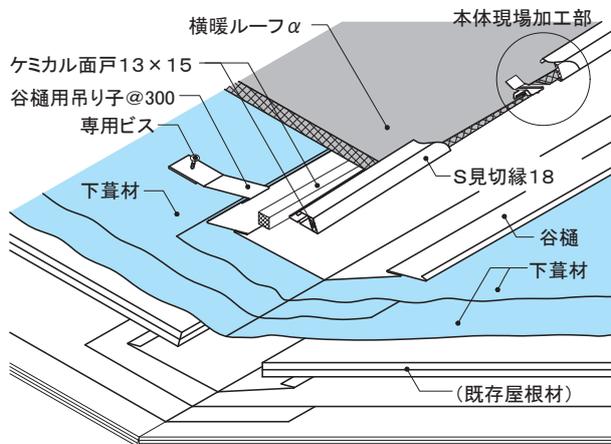
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

8) 谷部

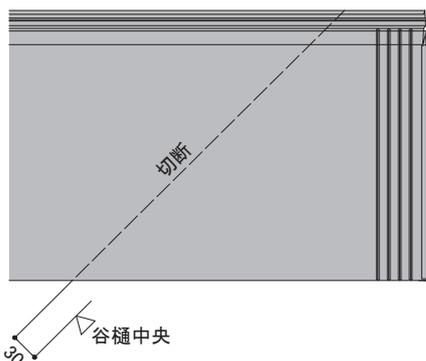
② 谷樋+S見切縁18

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
 - 谷樋は谷部に谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)で留め付けます。本体留め付けの際は、谷樋を避けて施工します。
 - 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。S見切縁18にケミカル面戸13×15を貼り付け、本体の折り返し部分とS見切縁18のはげとが引っかかるまで押し付けます。
 - 挿着後、S見切縁18を引っ張り、外れないことを確認してください。
- ※積雪のある地域では施工できません。

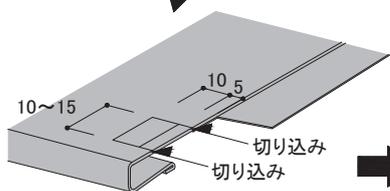


■ 施工ポイント・現場加工図

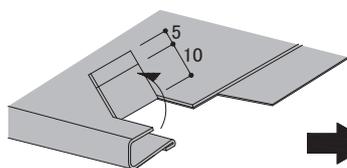
- 横暖ルーフα本体の谷樋部分は、図のように加工します。



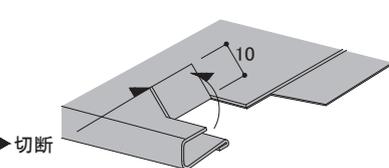
- ① 横暖ルーフα本体を谷樋中央部から30mmの位置で切断します。



- ② 図の位置2ヶ所に切り込みを入れます。



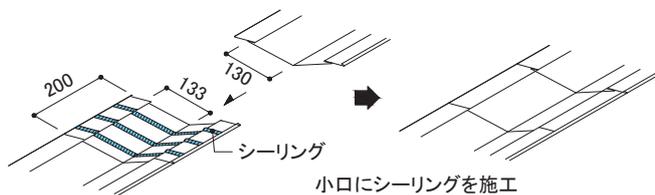
- ③ 切り込みを入れた部分を起こします。



- ④ 端部から5mmの位置を切断します。

■ 谷樋 接合部

- 重ね代にシーリングで3本のビードを作り、上部谷樋を差し込みます。
- 接合後小口にシーリングを施工します。



※谷樋は図中寸法のように流れの上下で小口の大きさが異なります。水上側に目印がありますので、接合時に注意して施工してください。

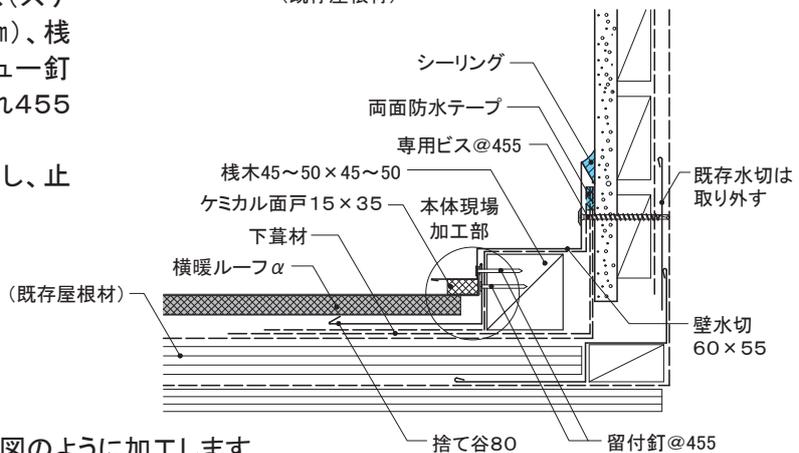
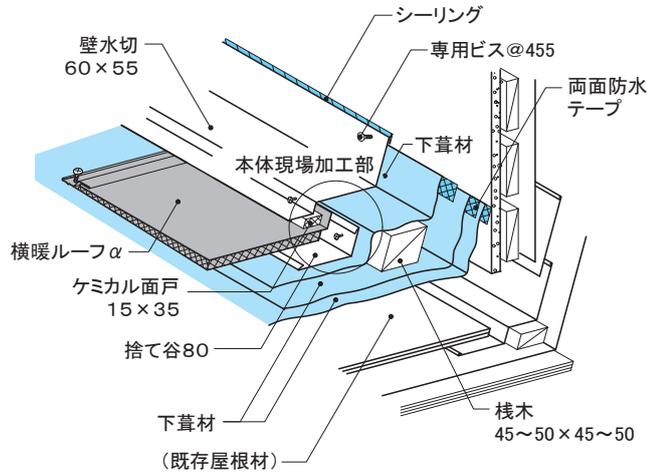
横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

9) 下屋根部

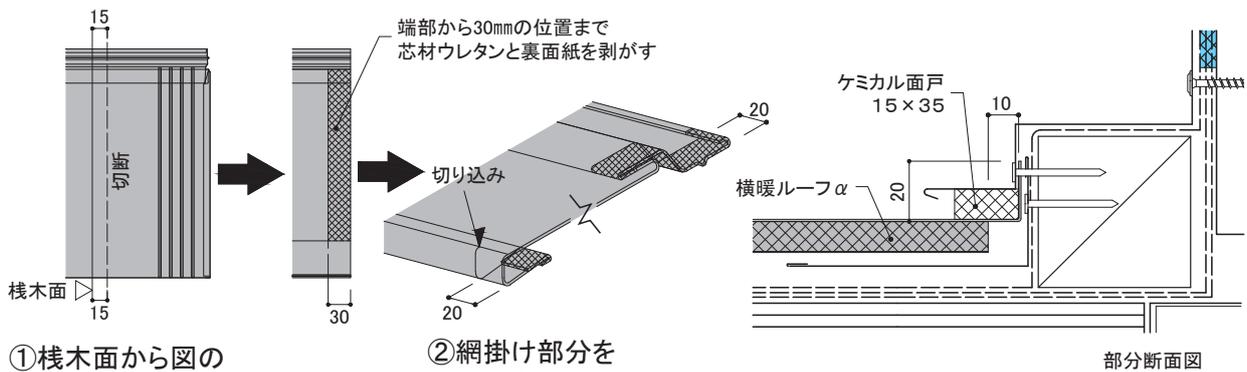
①流れ側 壁水切60×55+捨て谷80

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めてください。)
- 桧木45~50mm×45~50mmを取り付け、桧木を包むように下葦材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で桧木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35は図のように貼り付け、壁水切60×55をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、桧木には留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



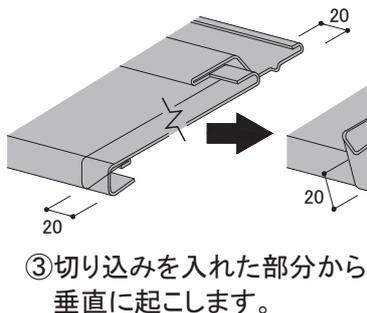
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。

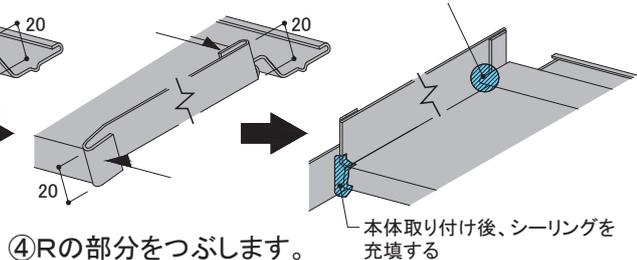


① 桧木面から図の寸法で切断します。

② 網掛け部分を切り落とします。



③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。



④ Rの部分をつぶします。

⑤ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフォ
ーム

セン
ター
ルー
フ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

横暖ルーフα

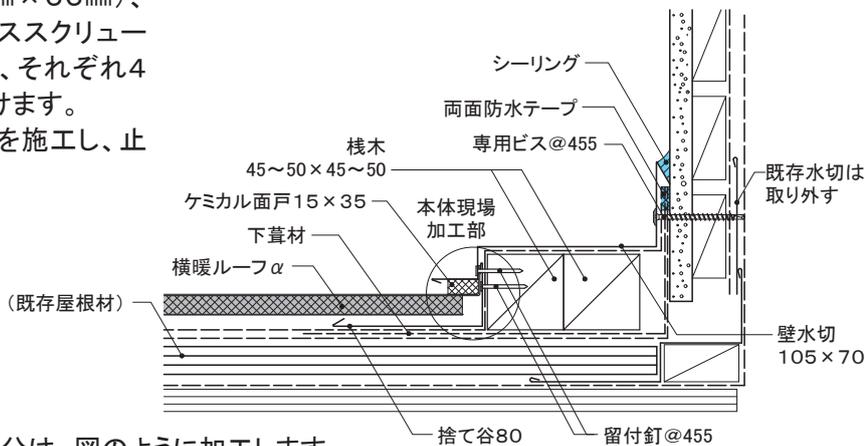
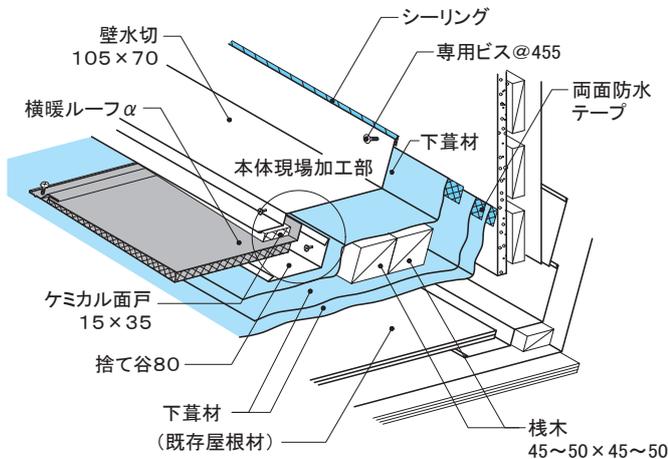
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

9) 下屋根部

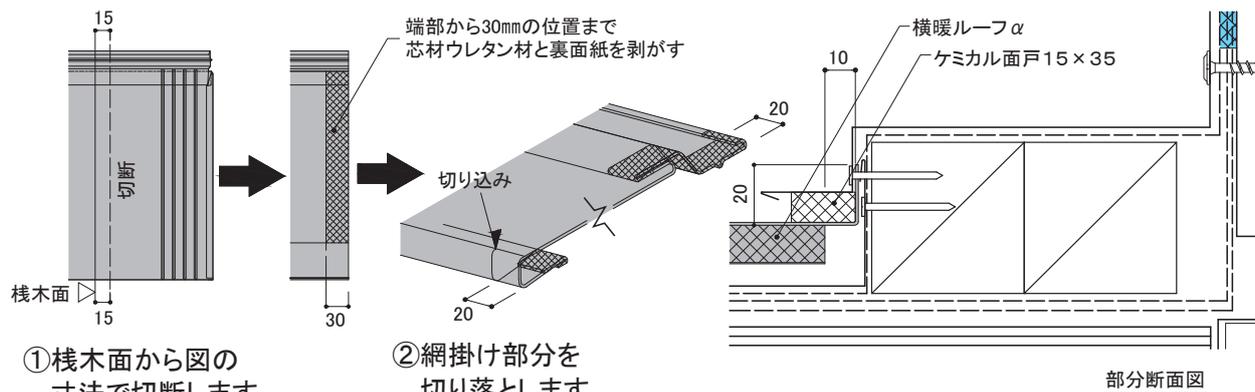
②流れ側 壁水切105×70+捨て谷80

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木45~50mm×45~50mmを取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張ります。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35は図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



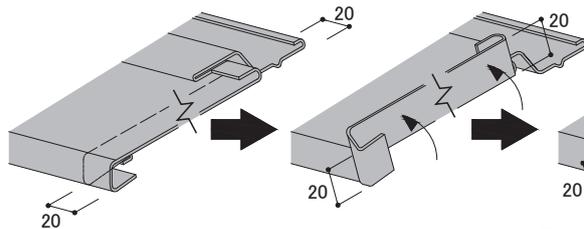
■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



① 棧木面から図の寸法で切断します。

② 網掛け部分を切り落とします。



③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

④ Rの部分をつぶします。

次の横暖ルーフα本体の取り付け前にシーリングを充填する

本体取り付け後、シーリングを充填する

⑤ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

重ね張り
工法
モエン
サイディ
ング

張り替え
工法
モエン
サイディ
ング

重ね張り
工法
センタ
ーサイ
ディン
グ

設計
屋根
リフォー
ム

重ね葺き
工法
センタ
ールー
フ

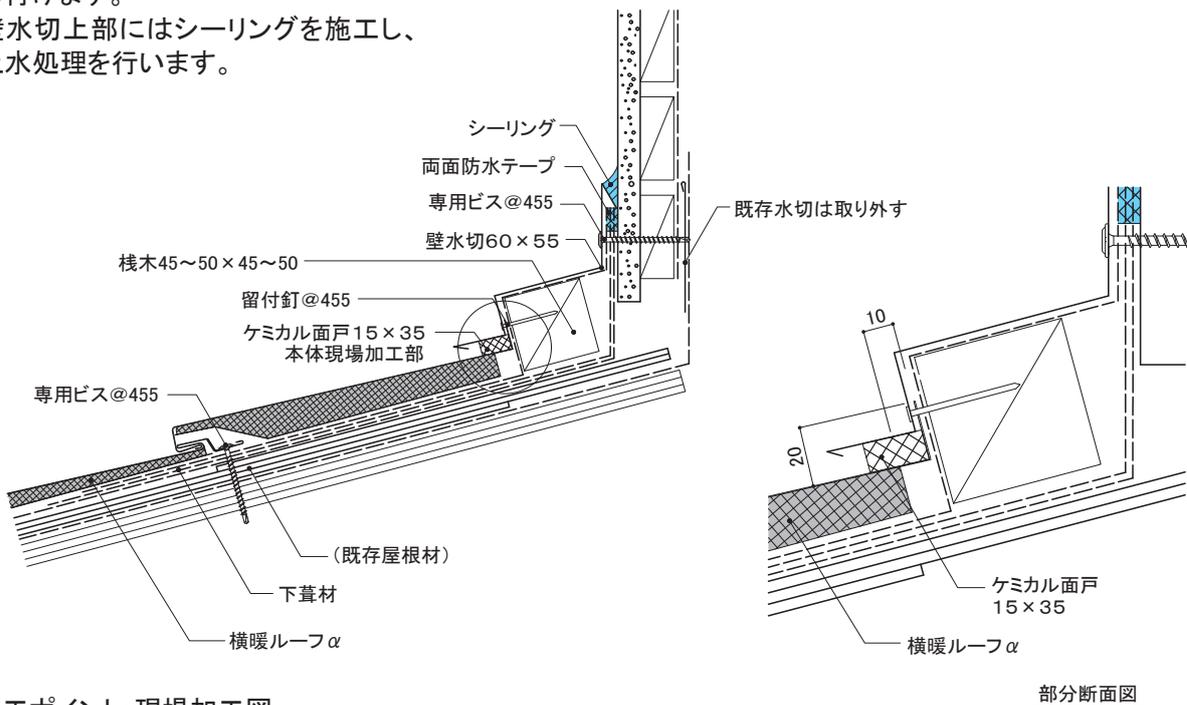
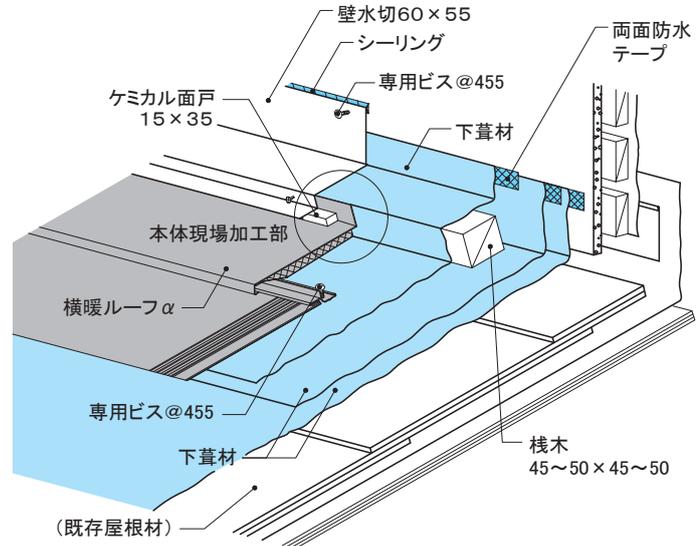
重ね葺き
工法
アル
マ

参考資料

9) 下屋根部

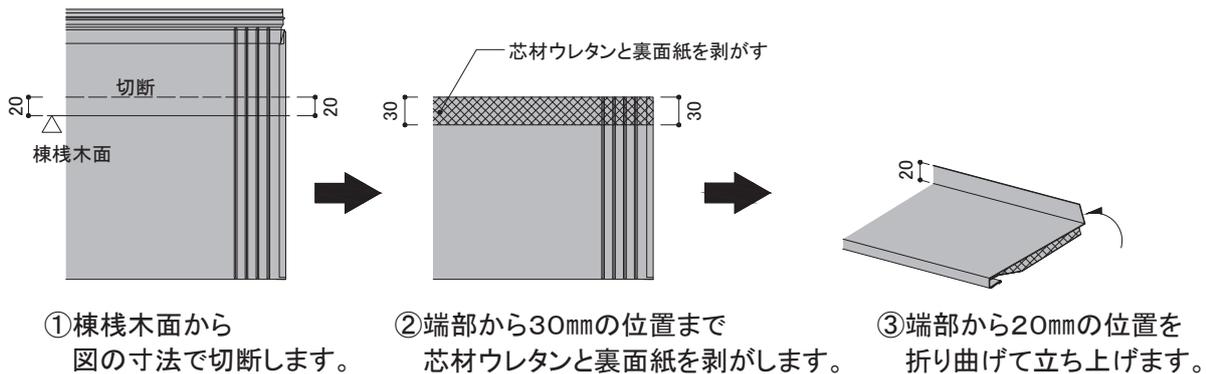
③棟側 壁水切60×55

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木45～50mm×45～50mmを取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張ります。
- 図のように、壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35は図のように貼り付け、壁水切60×55をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



横暖ルーフα

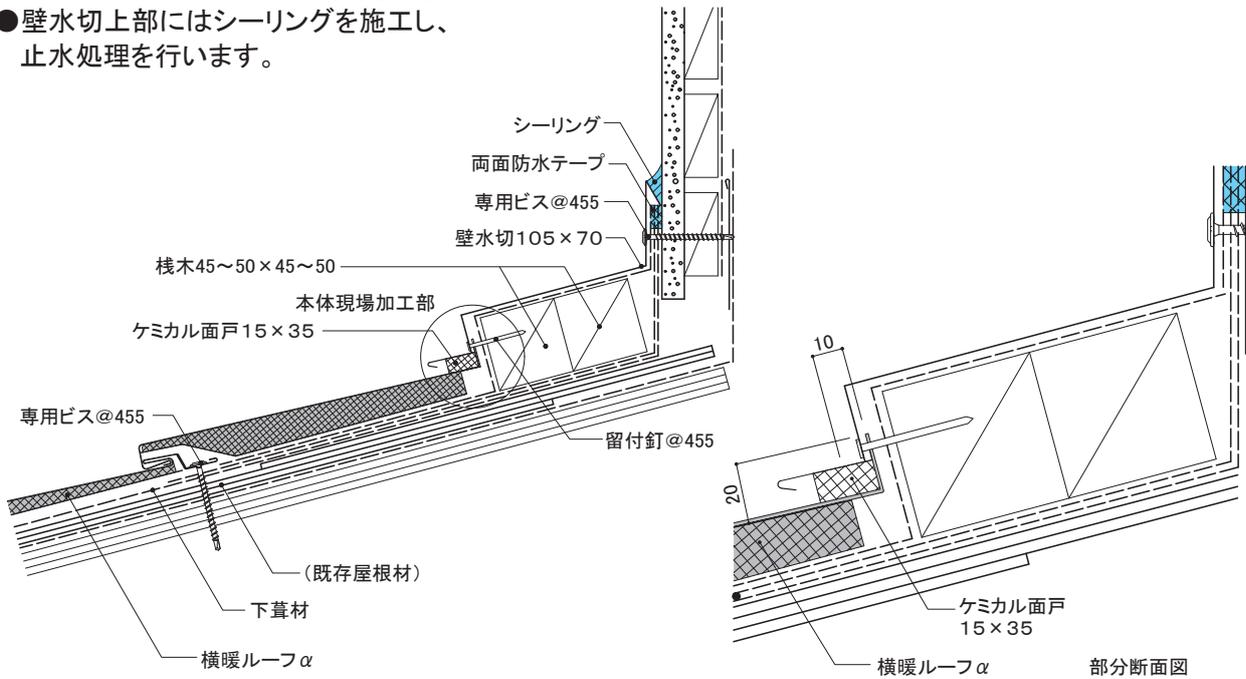
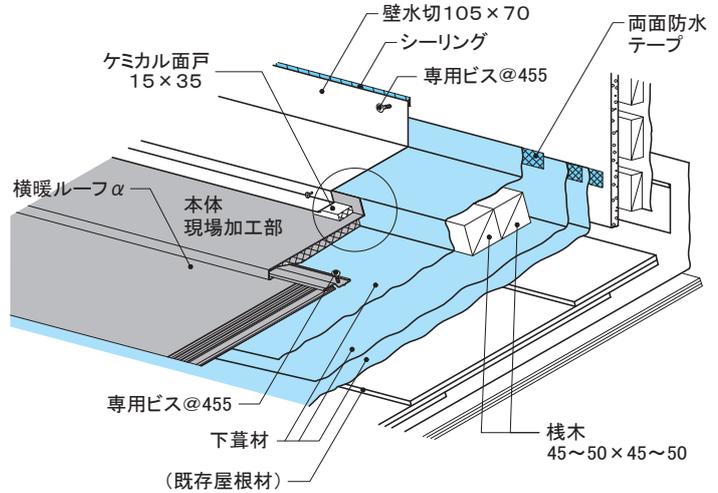
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

9) 下屋根部

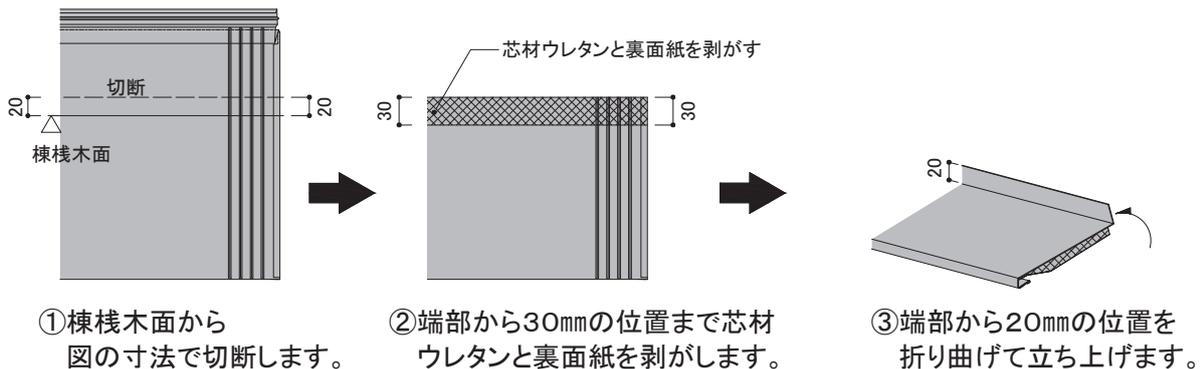
④棟側 壁水切105×70

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 栈木45~50mm×45~50mmを取り付け、栈木を包むように下葦材を増し張りします。
- 図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35は図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、栈木には留付釘(ステンレススクリーナ釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



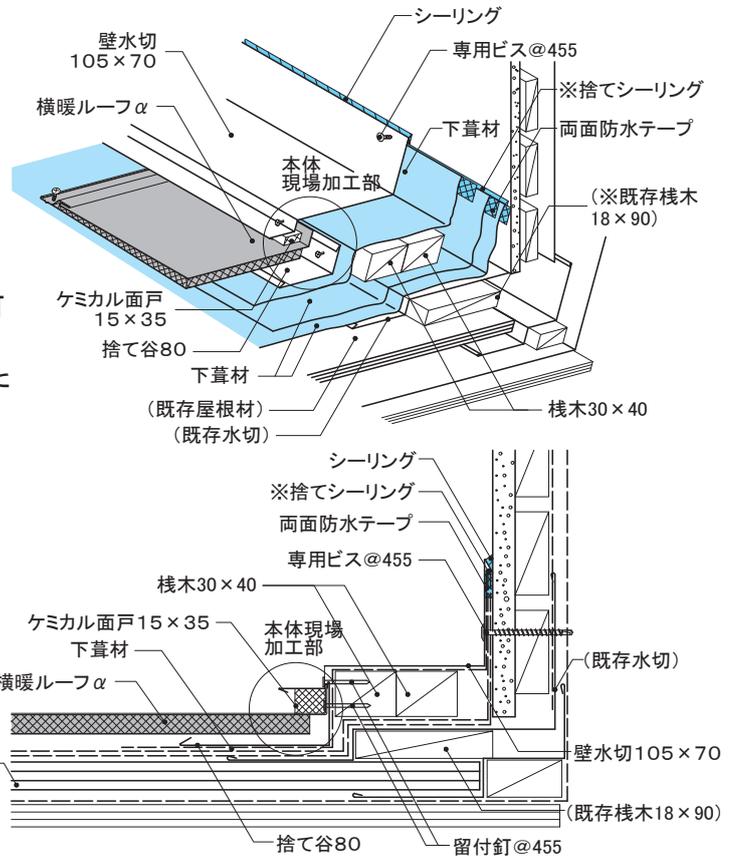
横暖ルーフα

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

10) 下屋根部 (既存水切を残す場合)

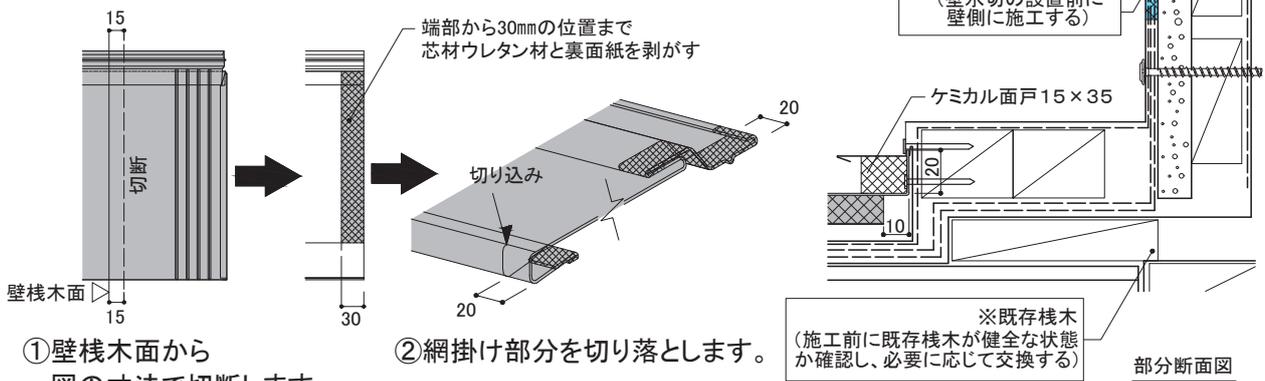
①流れ側 壁水切105×70+捨て谷80

- 既存棧木が健全な状態であるか事前に確認してください。
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。)
- 棧木30mm×40mmを取り付けます。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で棧木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



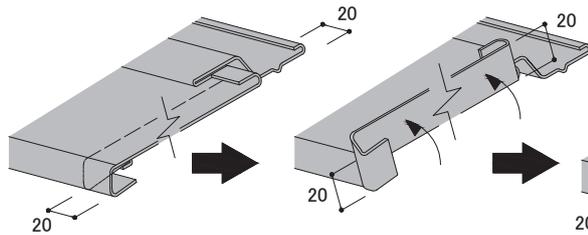
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



① 壁棧木面から図の寸法で切断します。

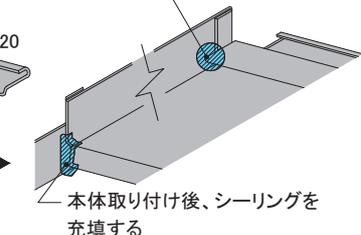
② 網掛け部分を切り落とします。



③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

④ Rの部分をつぶします。

次の横暖ルーフα本体の取り付け前にシーリングを充填する



⑤ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セ
ン
タ
ー
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リ
フォ
ーム

セ
ン
タ
ー
サイ
ディ
ング
重ね
葺
き
工
法

アル
マ
重ね
葺
き
工
法

参考
資料

横暖ルーフα

工法

重ね葺き

既存屋根材

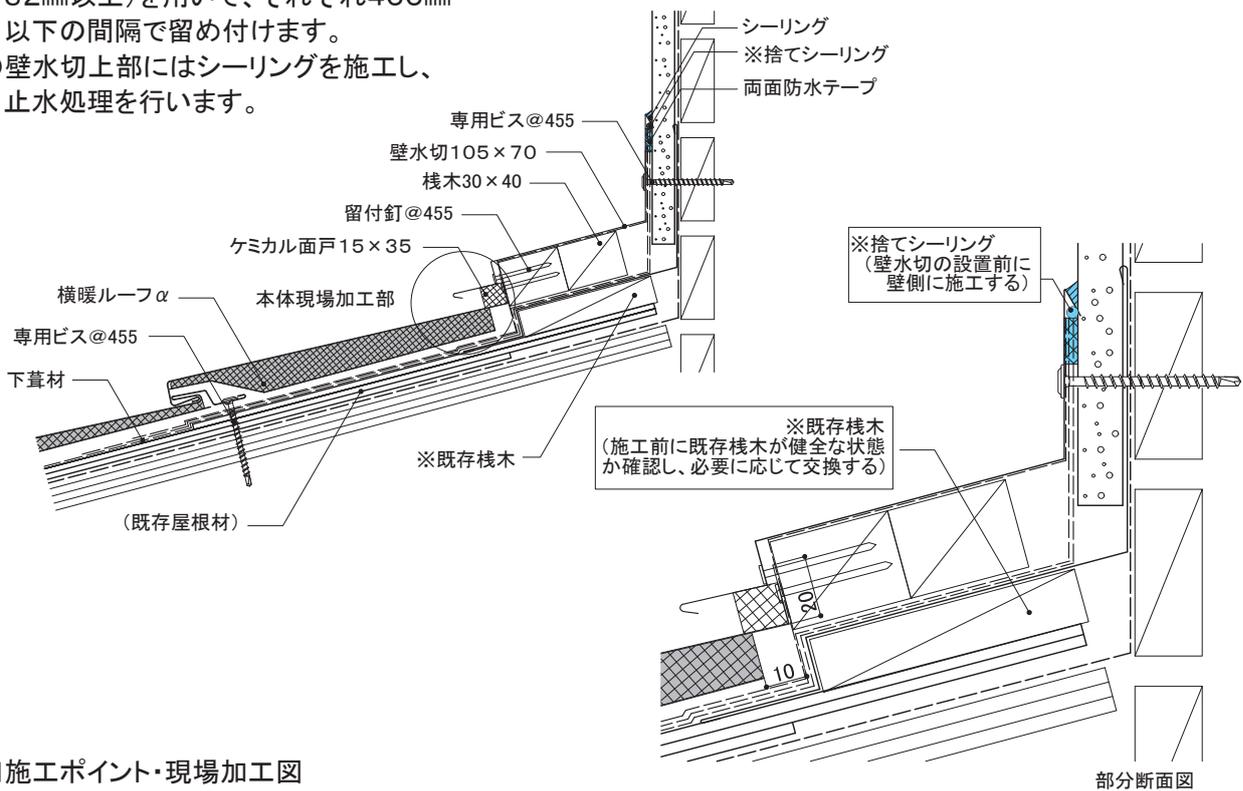
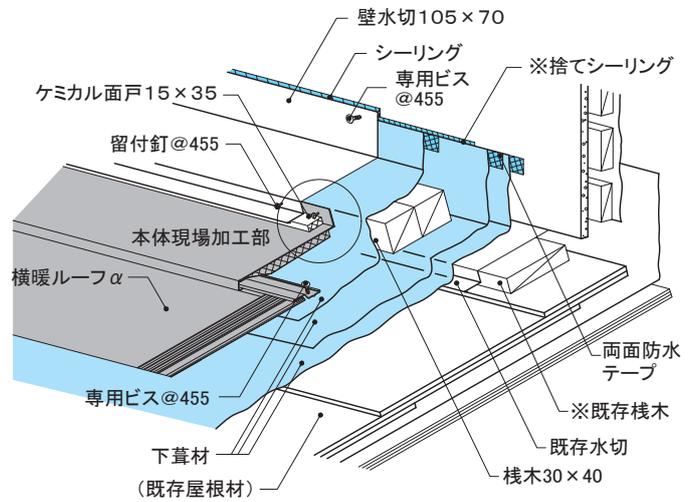
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

10) 下屋根部

(既存水切を残す場合)

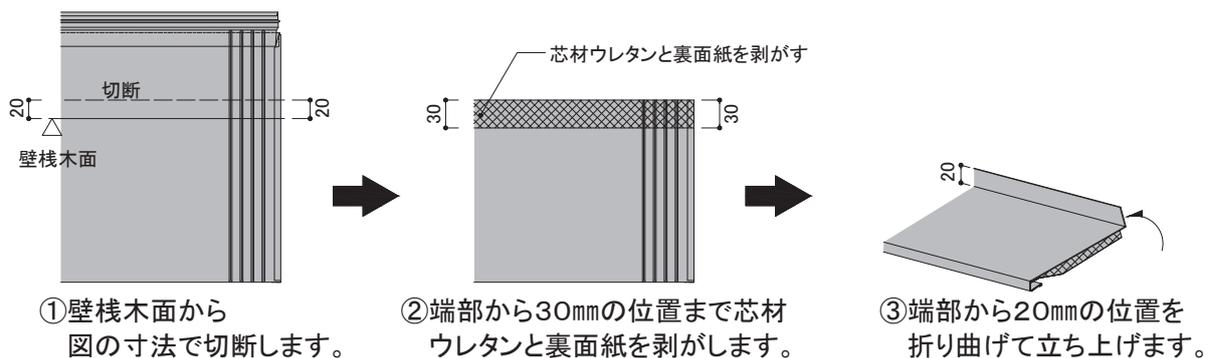
②棟側 壁水切105×70

- 既存棧木が健全な状態であるか事前に確認してください。
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。)
- 棧木30mm×40mmを取り付けます。
- 図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフα本体を施工します。
- ケミカル面戸15×35を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。



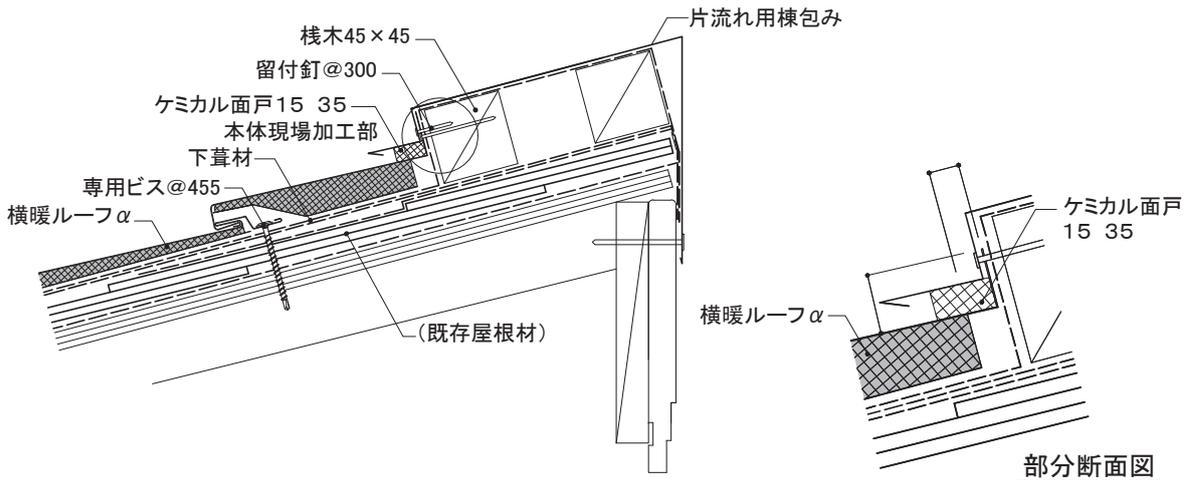
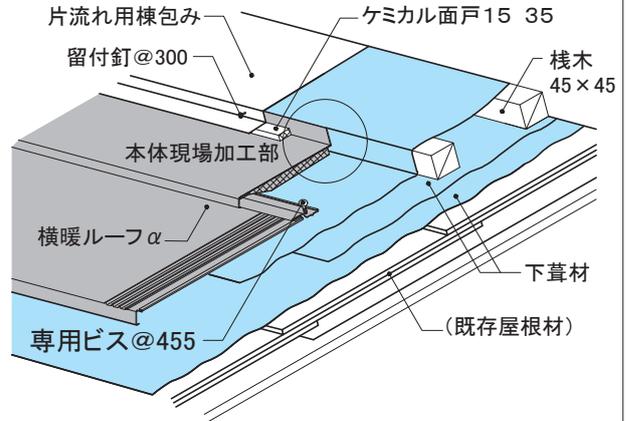
横暖ルーフ α

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

11) 片棟部

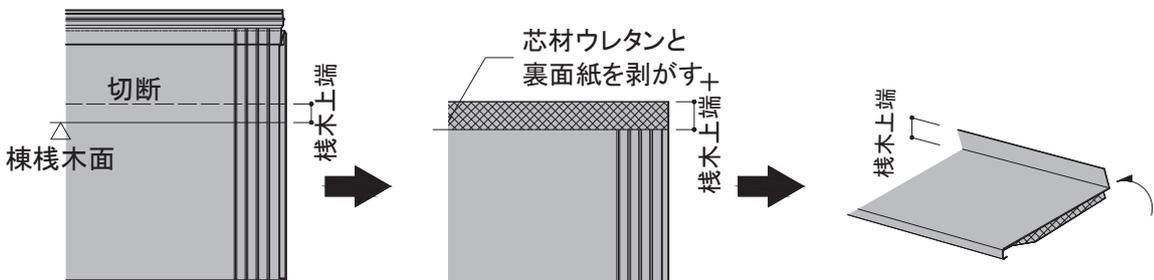
片流れ用棟包み

- 既存屋根材に下葺材を張ります。
- 棟部に棧木45mm×45mmを2ヶ所に取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
※ 工事中は片流れ用棟包みに乗らないでください。工具・部材も置かないでください。片流れ用棟包みに変形するおそれがあります。
- 棟部は本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、片流れ用棟包みをかぶせます。片流れ用棟包みは留付釘(ステンレススクリー 釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 外壁面側は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレススクリー 釘・外装材厚み+30mm以上)で455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- けらば部は片流れ用棟包みを加工して納めます。



■ 施工ポイント・現場加工図

○ 横暖ルーフ α 本体の張り終い部分は図のように加工してください。



① 棟棧木面から図の寸法で切断します。

② 棧木上端+10mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がしてください。

③ 端部から棧木上端の位置で折り曲げて立ち上げます。

設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフ
ォーム

セン
ター
ルー
フ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

8-8 納まり詳細図

横暖ルーフ

重ね葺き工法

直葺き施工

1) 本体仕様	
2) 主要付属部材一覧表	
3) 軒先部	①軒先唐草60 ②水切ゼロスターター ③セットバックスターター
4) けらば部	①けらば唐草60 ②けらば包み50 ③段付けらば唐草60+段付けらば ④けらば水切110(85)
5) 大棟部	①棟包み210 ②棟巴210L ③棟包み210+けらば水切110(85)
6) 隅棟部	①棟包み210 ②隅棟カバー(隅棟カバー急勾配用)
7) 谷部	①谷樋 ②谷樋+見切縁12
8) 下屋根部	①流れ側 壁水切60×55+捨て谷80 ②流れ側 壁水切105×70+捨て谷80 ③棟側 壁水切60×55 ④棟側 壁水切105×70
9) 下屋根部 (既存水切を残す場合)	①流れ側 壁水切105×70+捨て谷80 ②棟側 壁水切105×70
10) 片棟部	片流れ用棟包み

本章は、基本的な納まり例を記載していますので、注意事項、禁止事項をご理解いただいたうえで施工してください。

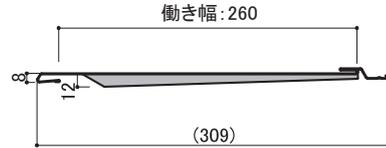
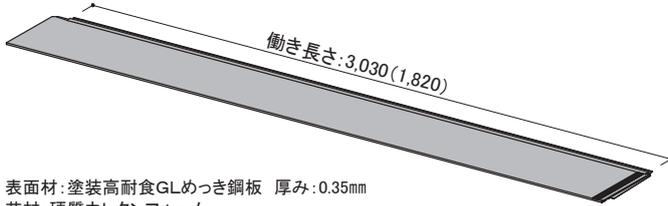
横暖ルーフ

工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

1) 本体仕様

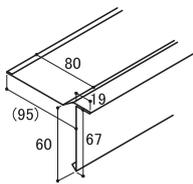
■横暖ルーフ 本体



表面材: 塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み: 0.35mm
芯材: 硬質ウレタンフォーム

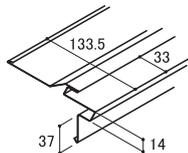
2) 主要部材一覧表

■軒先唐草60



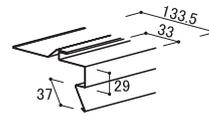
【品番:BNK2F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■セットバックスターター



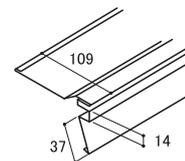
【品番:BZS7F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■セットバックスターター28



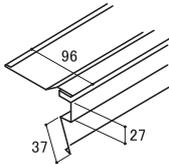
【品番:BZS8F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm
備考: 新規野地板を重ね張りする
場合に使用

■水切ゼロスターター



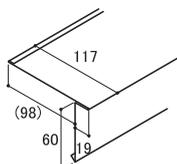
【品番:BZS3F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 1,820mm

■水切ゼロスターター25



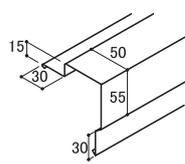
【品番:BZS4F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 1,820mm
備考: 新規野地板を重ね張りする
場合に使用

■けらば唐草60



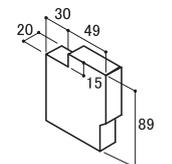
【品番:BKK2F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば包み50



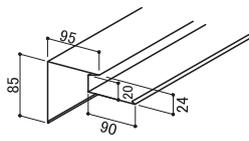
【品番:BKD2F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらばキャップ50(左右)



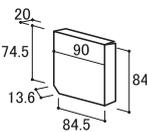
※左右勝手あり
【品番:BKC3F05*(左)】
【品番:BKC1F05*(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切85



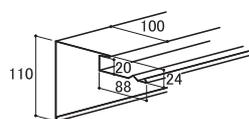
【品番:BKZ4F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば水切キャップ85(左右)



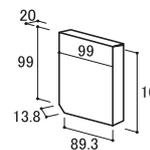
【品番:BKCGF05*(左)】
【品番:BKCF05*(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■けらば水切110



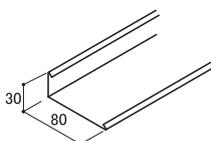
【品番:BKZ7F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■けらば水切キャップ110(左右)



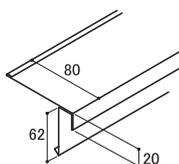
【品番:BKCJF05*(左)】
【品番:BKCHF05*(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■捨て谷80



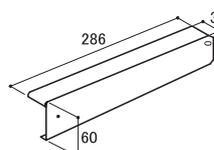
【品番:BSD1F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■段付けらば唐草60



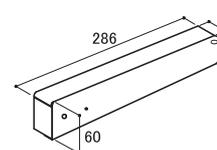
【品番:BKK4F05*】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm 長さ: 2,727mm

■段付けらば(左右)



※左右勝手あり
【品番:BDK3F05*(左)】
【品番:BDK1F05*(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

■段付けらば軒先(左右)



※左右勝手あり
【品番:BDK7F05*(左)】
【品番:BDK5F05*(右)】
材質: 塗装高耐食GLめっき鋼板
厚み: 0.35mm

※各部材は、2025年1月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁
リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

屋根
リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

横暖ルーフ

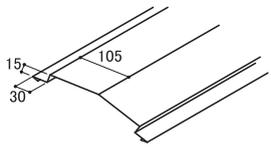
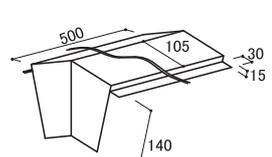
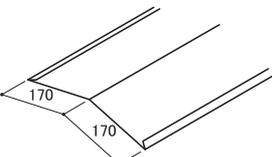
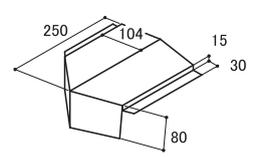
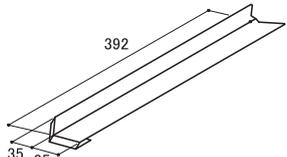
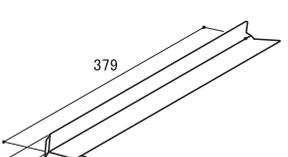
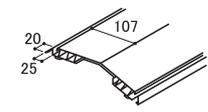
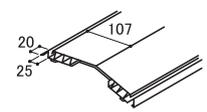
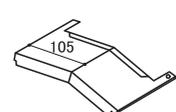
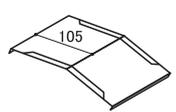
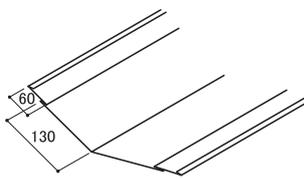
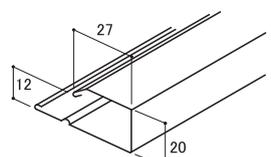
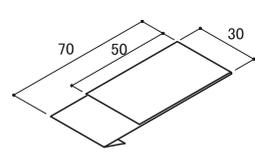
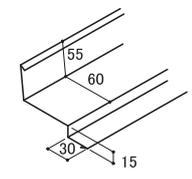
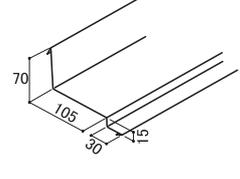
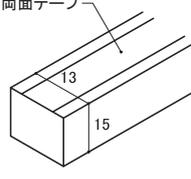
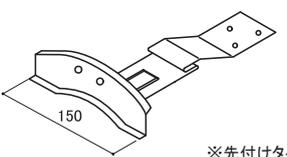
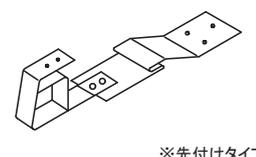
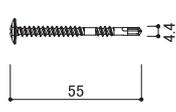
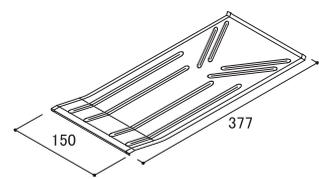
工法

重ね葺き

既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

2) 主要部材一覧表

<p>■棟包み210</p>  <p>【品番:BMD3F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■棟巴210L</p>  <p>【品番:BTEBF05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■隅棟捨て板</p>  <p>【品番:BSM5F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■剣先210</p>  <p>【品番:BKE1F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>
<p>■隅棟カバー</p>  <p>※2寸5分以上3寸5分勾配未満対応</p> <p>【品番:BSM1F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■隅棟カバー(急勾配用)</p>  <p>※3寸5分以上5寸勾配未満対応</p> <p>【品番:BSM3F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■センター換気棟909</p>  <p>【品番:BKM2F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:909mm</p>	<p>■センター換気棟1818</p>  <p>【品番:BKM1F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:1,818mm</p>
<p>■換気棟エンドキャップ</p>  <p>【品番:BKM4F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■換気棟ジョイント</p>  <p>【品番:BKM3F051】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■谷樋</p>  <p>【品番:BSD1F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■見切縁12</p>  <p>【品番:BMK8F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>
<p>■谷樋用吊り子</p>  <p>【品番:BSD2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>	<p>■壁水切60×55</p>  <p>【品番:BAM7F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■壁水切105×70</p>  <p>【品番:BAM3F05*】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm 長さ:2,727mm</p>	<p>■ケミカル面戸13×15</p>  <p>両面テープ 【品番:BCMCQ10B】 材質:EPDM 長さ:2,000mm</p>
<p>■雪止め(ウイング)</p>  <p>※先付けタイプ</p> <p>【品番:BYE*Q0J*】 材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>	<p>■雪止め(アングル)</p>  <p>※先付けタイプ</p> <p>【品番:BYD4Q0JK】 足・材質:ステンレス 厚み:1.2mm</p>	<p>■専用ビス(本体留付用)</p>  <p>ステンレスドリルビス 【品番:JK1910】 材質:ステンレス サイズ:φ4.4mm×55mm</p>	<p>■共通捨て板</p>  <p>【品番:BYS2F00A】 材質:塗装高耐食GLめっき鋼板 厚み:0.35mm</p>

※各部材は、2025年1月時点のものです。最新の情報はNICHIIHA金属製外壁材・屋根材総合カタログでご確認ください。

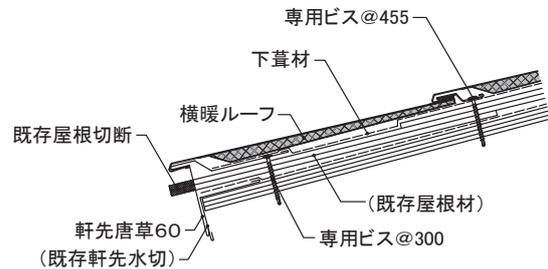
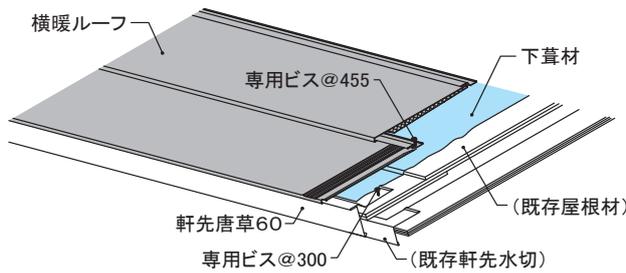
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

3) 軒先部

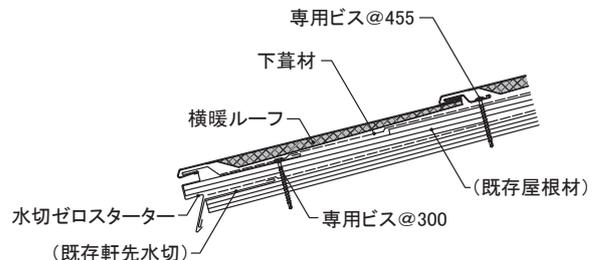
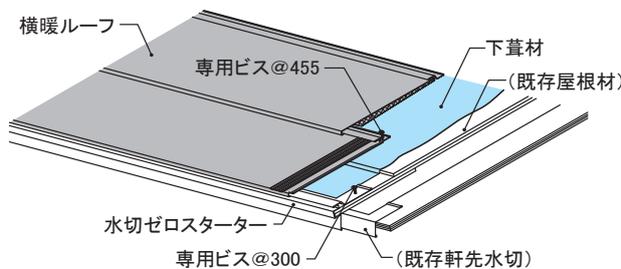
① 軒先唐草60

- 既存屋根材の軒先が揃うように既存屋根材を切断します。
※ 軒先面を切断せず施工することも可能ですが、その場合、既存雨樋の取付位置を横暖ルーフに合わせて移動させる施工が別途必要となります。
- 軒先唐草60は専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。
- 図のように下葦材を張り、横暖ルーフは軒側実を軒先唐草60に差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。



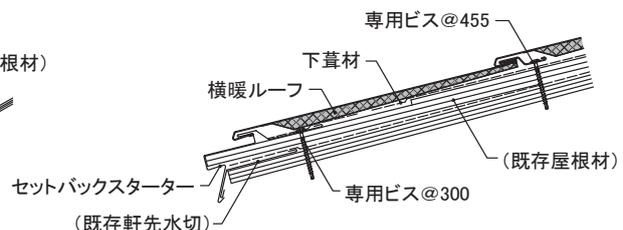
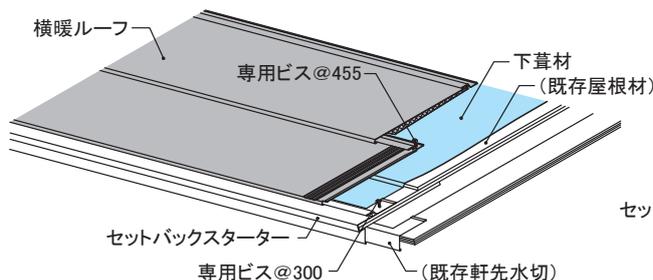
② 水切ゼロスターター

- 既存屋根材の軒先に水切ゼロスターターを差し込み、専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、300mm以下の間隔で野地板に留め付けます。
- 図のように下葦材を張り、横暖ルーフは軒側実を水切ゼロスターターに差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。



③ セットバックスターター

- 既存屋根材の軒先にセットバックスターターを差し込み、専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、300mm以下の間隔で留め付けます。
- 図のように下葦材を張り、横暖ルーフは軒側実を水切ゼロスターターに差し込み、棟側実を専用ビス(ステンレスドリルスビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で垂木に留め付けます。



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフ
ォーム

セン
ター
ルーフ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

横暖ルーフ

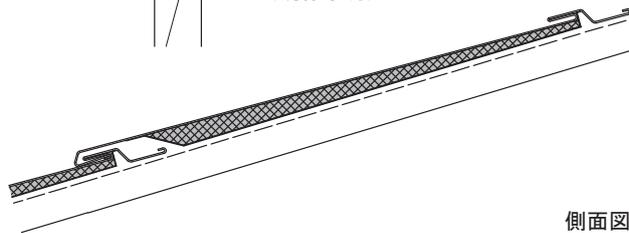
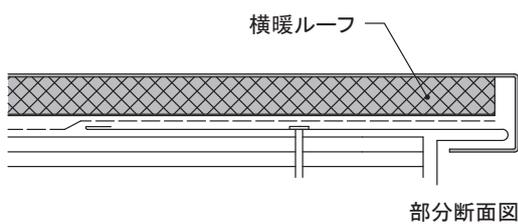
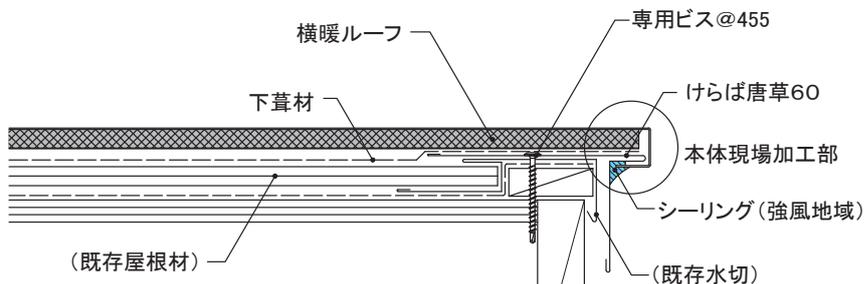
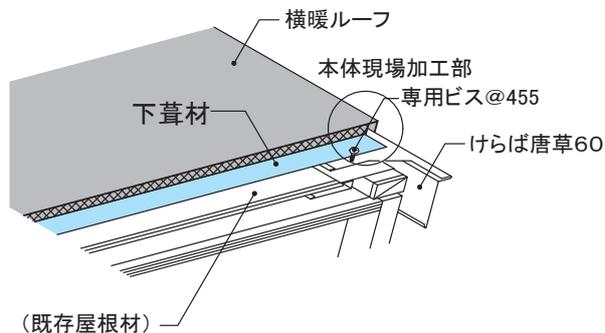
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

4) けらば部

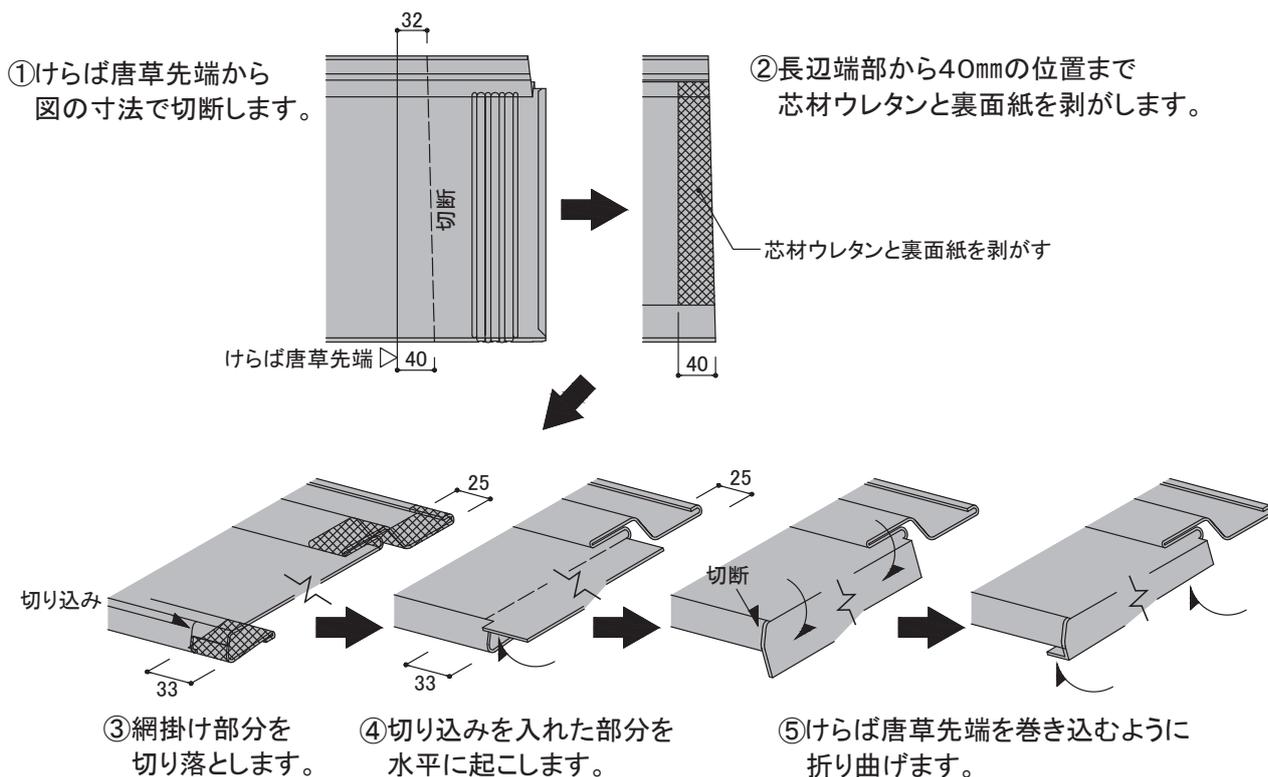
① けらば唐草60

- けらば唐草60は専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で図の位置に取り付けます。
- 下葺材を張り、横暖ルーフは専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。
- 横暖ルーフ本体端部は図のように現場加工し、けらば唐草60へ納めます。強風地域では取り付け部にシーリングを施工してください。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は、図のように加工します。



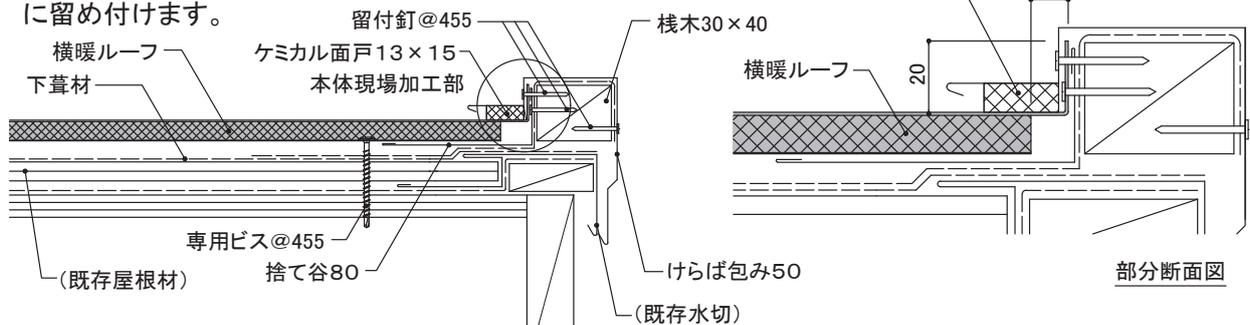
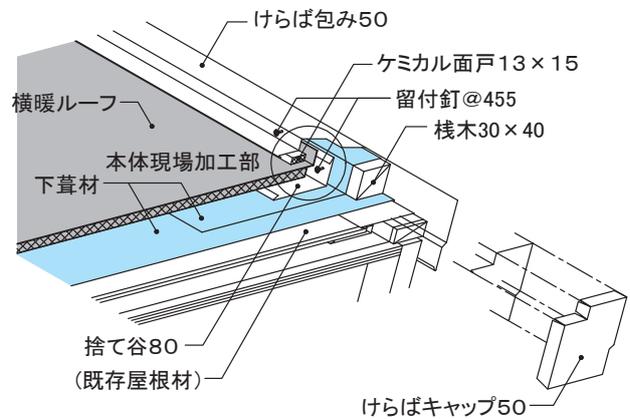
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

4) けらば部

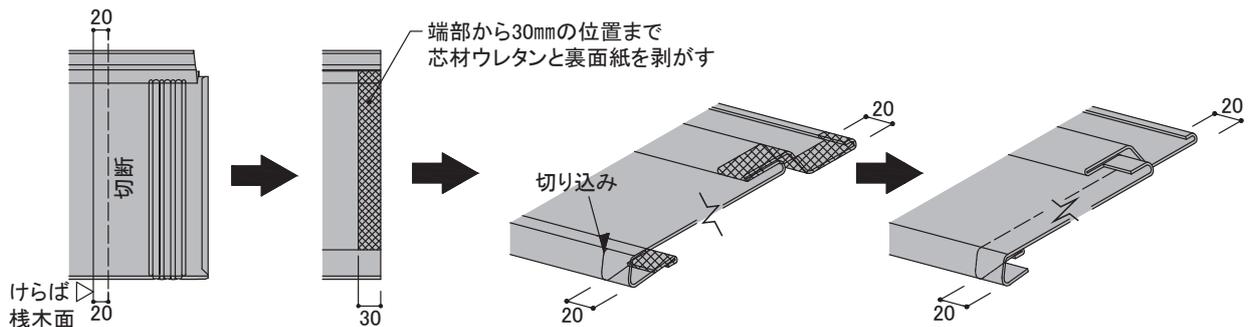
②けらば包み50

- 下葺材は既存水切にかぶせて既存屋根材の上に張ります。
- けらば部に棧木30×40を取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で棧木に留め付け、けらば部に図のように現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- 本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、けらば包み50をかぶせるように施工し、留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)で、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 軒先端部の仕上げはけらばキャップをリベットでけらば包みに留め付けるか、留付釘(ステンレススクリー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



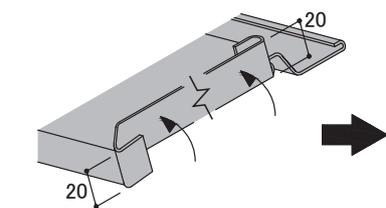
■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は、図のように加工します。

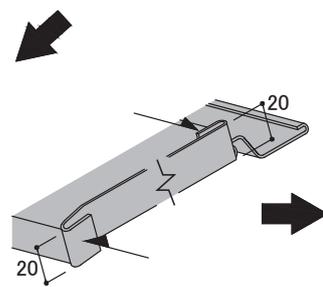


①けらば棧木面から図の寸法で切断します。

②網掛け部分を切り落とします。

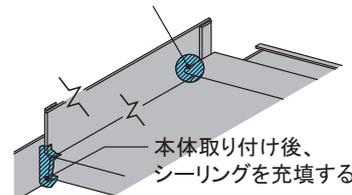


③切り込みを入れた部分から垂直に起こします。



④Rの部分をつぶします。

次の横暖ルーフ本体の取り付け前にシーリングを充填する



⑤接合部からの雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セン
ター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リ
フォ
ーム

セン
ター
ル
ーフ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参考
資料

横暖ルーフ

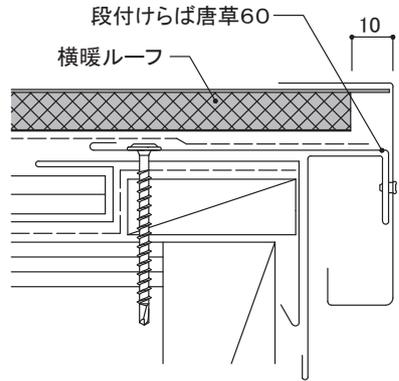
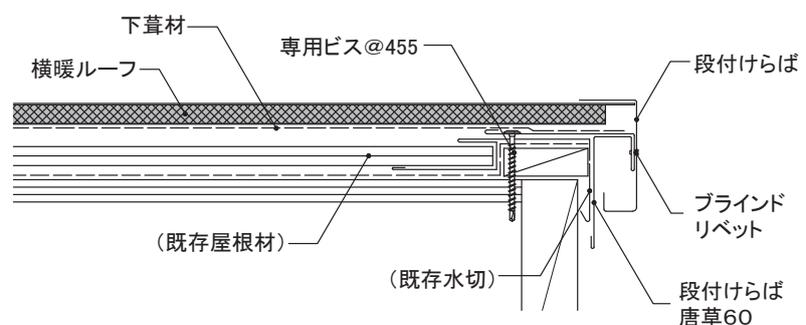
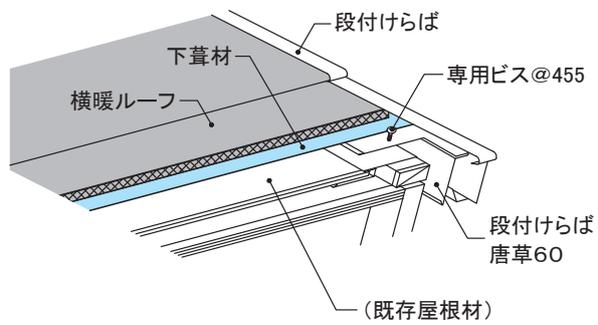
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

4) けらば部

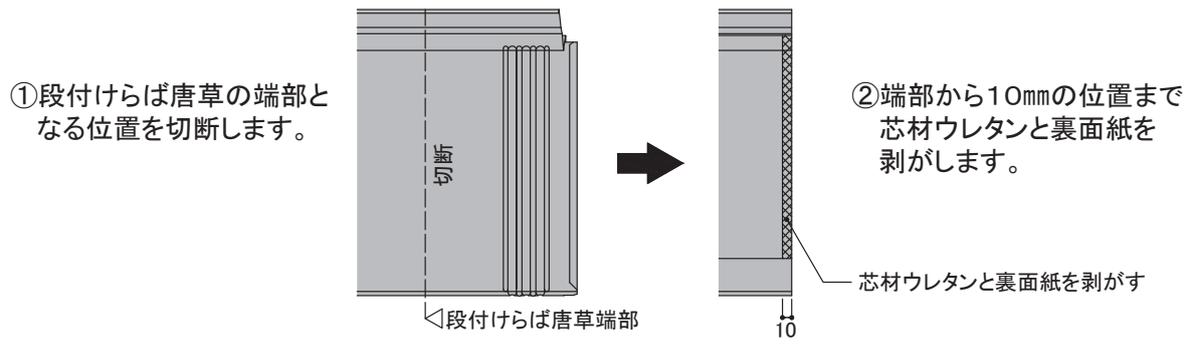
③ 段付けらば唐草60+段付けらば

- 段付けらば唐草60は専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で留め付けます。
- 下葺材を張り、横暖ルーフは専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)を用いて、455mm以下の間隔で施工します。
- 段付けらばは、けらば小口にかぶせるように取り付けます。その際、軒先から「段付けらば軒先」を施工し、以降「段付けらば」を使用して施工します。
- 「段付けらば軒先」および「段付けらば」は側面の穴からブラインドリベットで留め付けます。



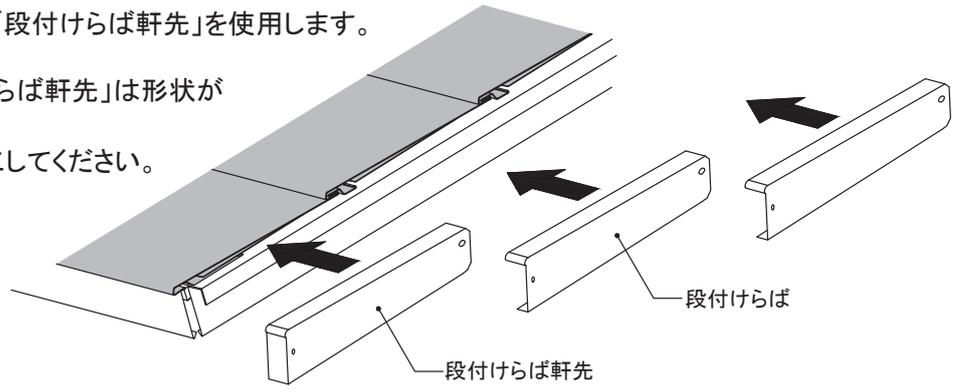
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体のけらば部分は、図のように加工します。



- 段付けらばは図のように軒先からかぶせるように取り付けます。軒先は必ず小口付の「段付けらば軒先」を使用します。

※「段付けらば」「段付けらば軒先」は形状が左右で逆になります。必ずご確認の上、施工してください。



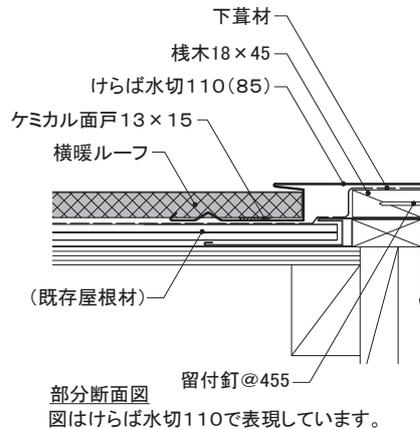
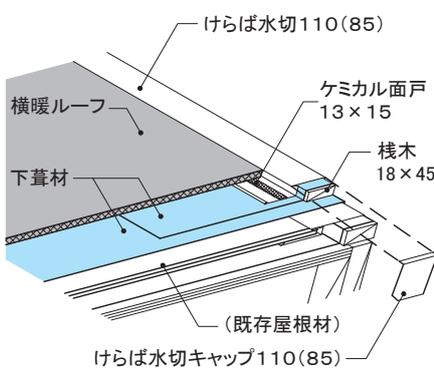
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

4) けらば部

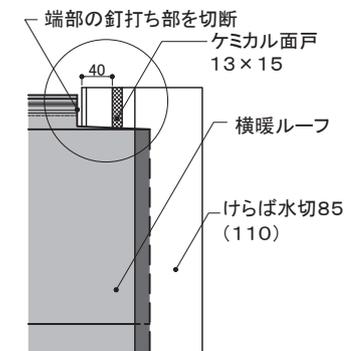
④ けらば水切110(85)

- 下葺材は既存水切にかぶせて既存屋根材の上に張ります。
- けらば部に棧木18×45を取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- けらば水切110(85)は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば水切110(85)にケミカル面戸13×15を貼り付けます。
- 横暖ルーフは、けらば水切85(110)と重なる部分の釘打ち部を切り取ります。
- 横暖ルーフをけらば水切85(110)に差し込みます。
- 軒先端部は図のように加工して納めます。
- 軒先端部の仕上げは、けらば水切キャップ110(85)をリベットでけらば水切に留め付けるか、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)で棧木に留め付けます。



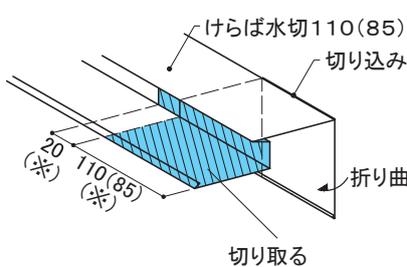
部分断面図
図はけらば水切110で表現しています。

■ ケミカル面戸13×15の貼り付け位置



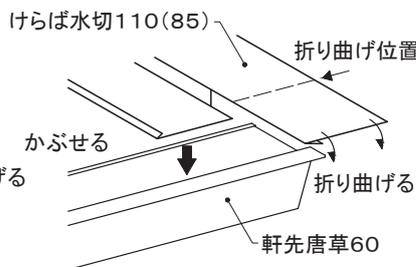
■ 施工ポイント・現場加工図

- 軒先部は、軒先唐草60にけらば水切110(85)をかぶせます。

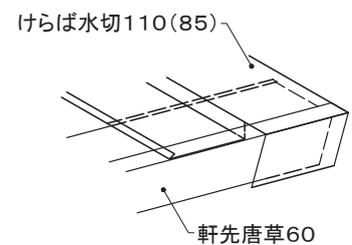


()内の寸法はけらば水切85使用時です

- ① けらば水切110(85)は図のように切断します。
※切り取り寸法は既存屋根材に応じて変更してください。



- ② けらば水切110(85)は軒先唐草60にかぶせ、図のように折り曲げます。横暖ルーフが軒先唐草60に差し込めるように、けらば水切110(85)と軒先唐草60の取り合い部の隙間を調整してください。



● その他の加工例



けらば水切110(85)軒先部の加工例



けらば水切110(85)と軒先唐草の取り合い



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
方法

モ
エン
サイ
ディ
ング

モ
エン
サイ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

モ
エン
サイ
ディ
ング
張
り
替
え
工
法

セ
ン
タ
ー
サイ
ディ
ング
重
ね
張
り
工
法

設計
屋
根
リ
フ
ォ
ー
ム

セ
ン
タ
ー
ル
ー
フ
重
ね
葺
き
工
法

アル
マ
重
ね
葺
き
工
法

参
考
資
料

横暖ルーフ

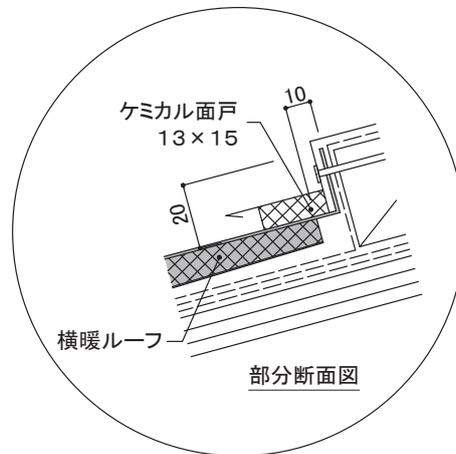
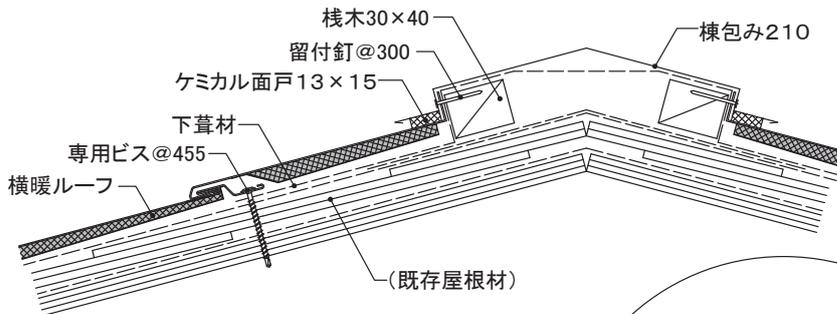
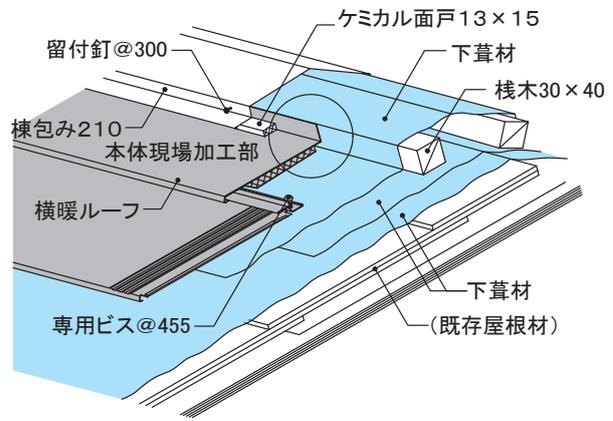
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

5) 大棟部

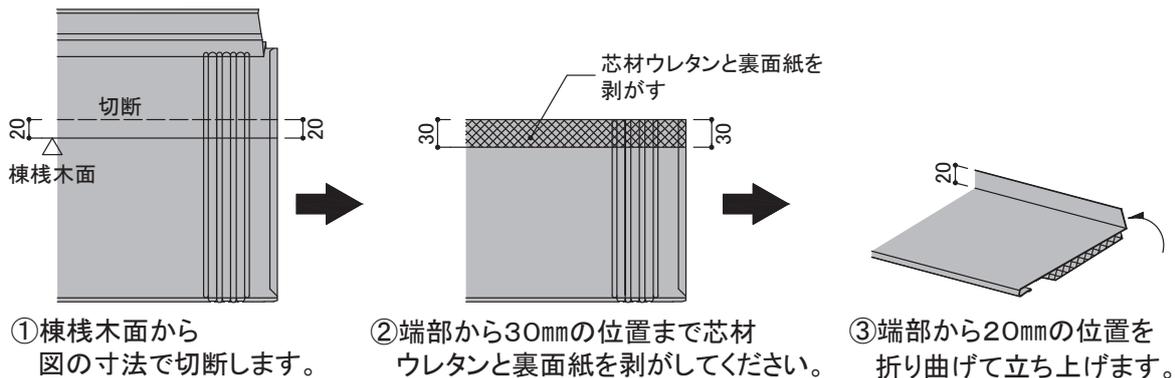
① 棟包み210

- 既存屋根材に下葦材を張ります。
- 棟部に棧木30×40を外側2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- ※ 工事中は棟包み210に乗らないでください。工具、部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 棟部は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば部は棟巴210Lを使用して納めます。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の大棟部分は、図のように加工します。



横暖ルーフ

工法
重ね葺き

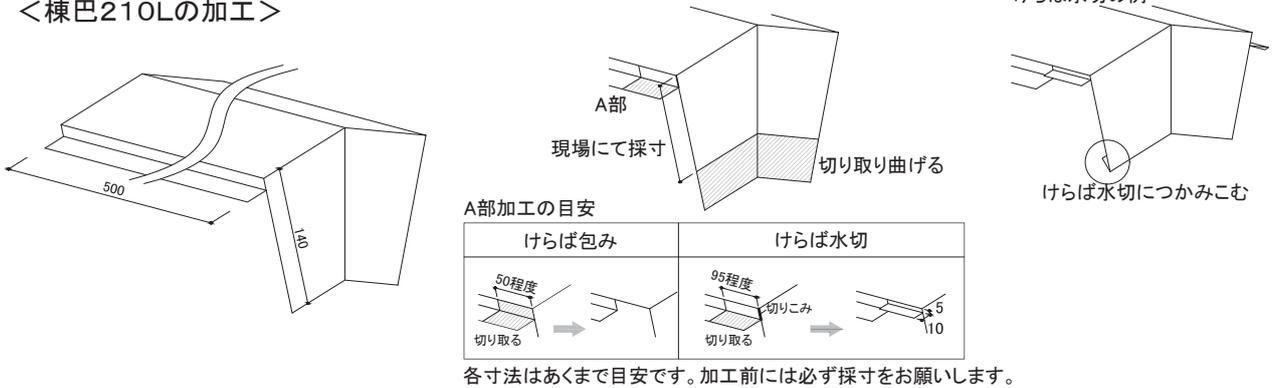
既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

5) 大棟部

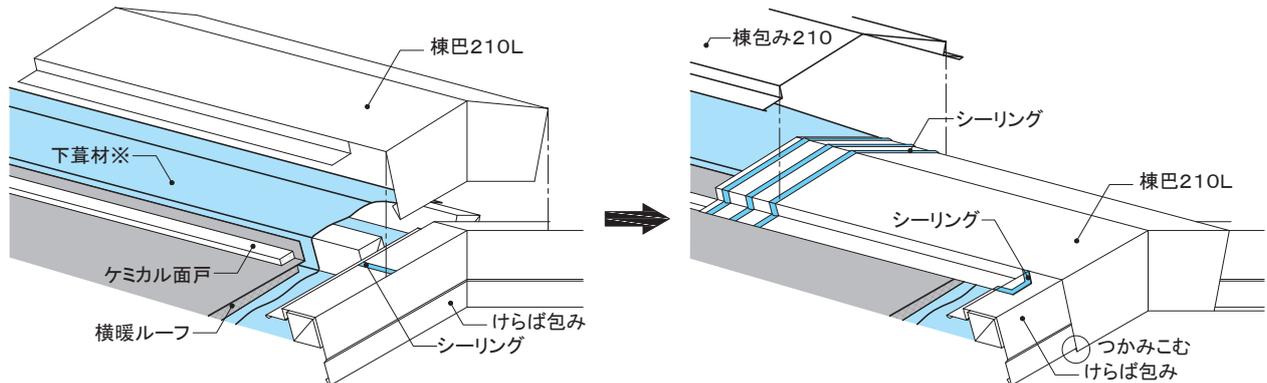
② 棟巴210L

- 棟巴210Lはけらば部材に応じて切り取り、折り曲げ加工します。
- けらば部材下端にあわせて、棟巴210L端部をつかみこみます。
- 棟巴210Lとけらば部材が交わる部分はシーリングを施工します。

<棟巴210Lの加工>



■施工手順: けらば包み50の例

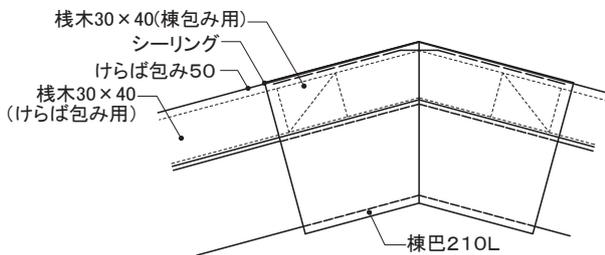


①棟巴210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み50と桟木の上にかぶせます。
※図はイメージです。実際は桟木を下葺材で覆ってください。

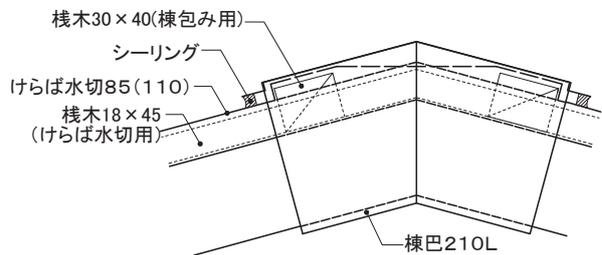
②棟包み210、棟巴210L、けらば包みが交わる部分に捨てシーリングを施工します。

■側面図: 各けらば部材

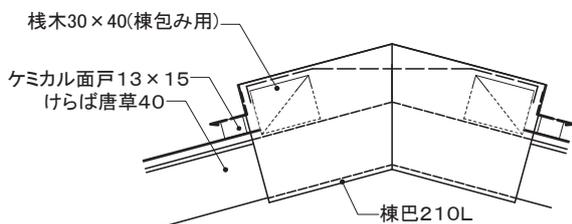
<けらば包み50>



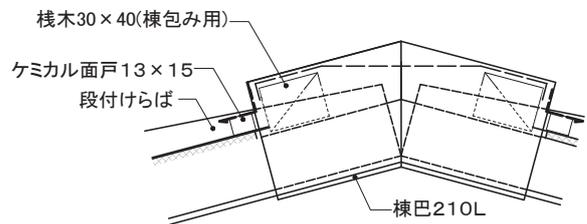
<けらば水切85(110)>



<けらば唐草40>



<段付けらば>



設計
外壁リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

横暖ルーフ

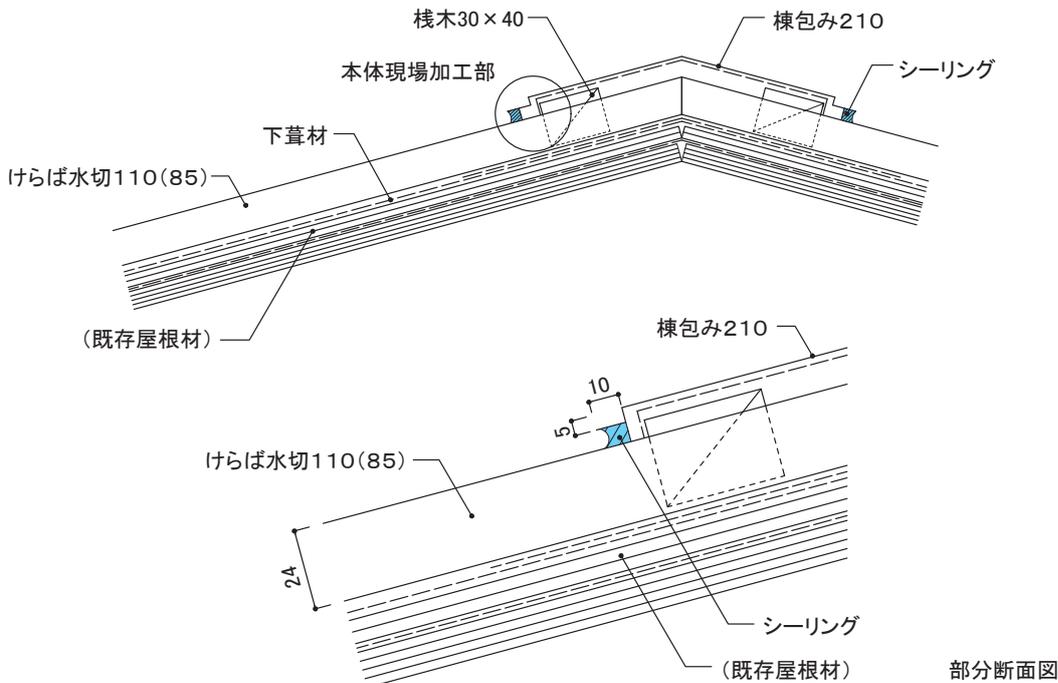
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

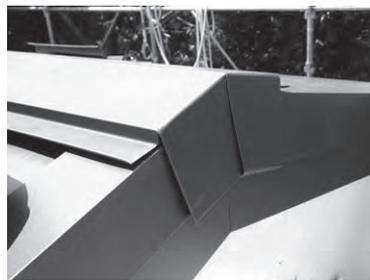
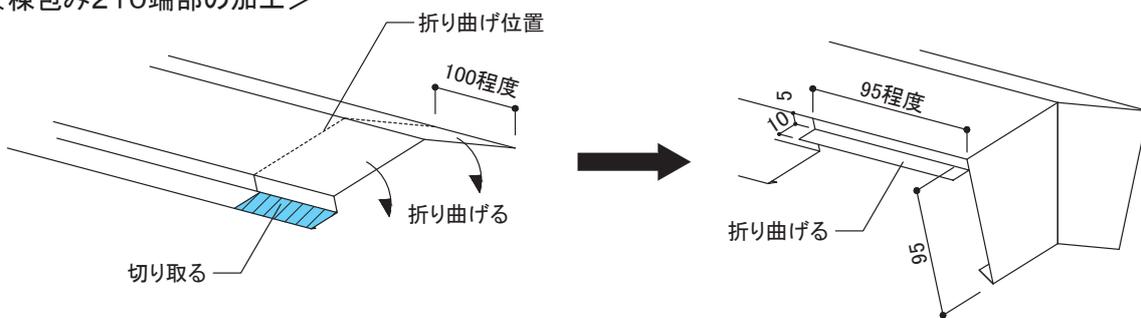
5) 大棟部

③ 棟包み210+けらば水切110(85)

- 棟包み210自体を加工して納める方法です。けらば水切110(85)と棟包み210との取り合いは、棟包み210を加工します。
- 棟包み210の端部を図のように加工します。
- けらば水切110(85)の上に棟包み210をかぶせ、シーリングを施工します。



■ 施工ポイント・現場加工図 < 棟包み210端部の加工 >



①大棟部のけらば水切110(85)は図のように切断加工します。

②もう一方のけらば水切110(85)は、先行して施工したけらば水切110(85)にかぶせます。

③棟包み210を上図のように加工し、けらば水切110(85)にかぶせます。(写真はイメージです。)

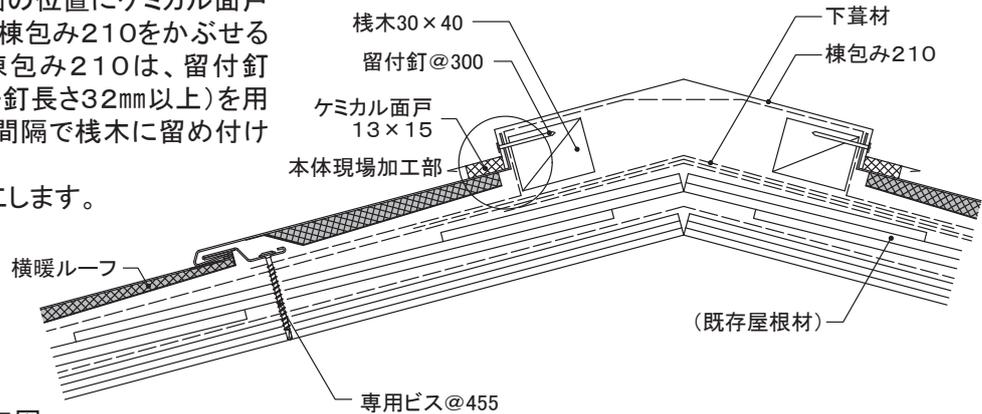
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

6) 隅棟部

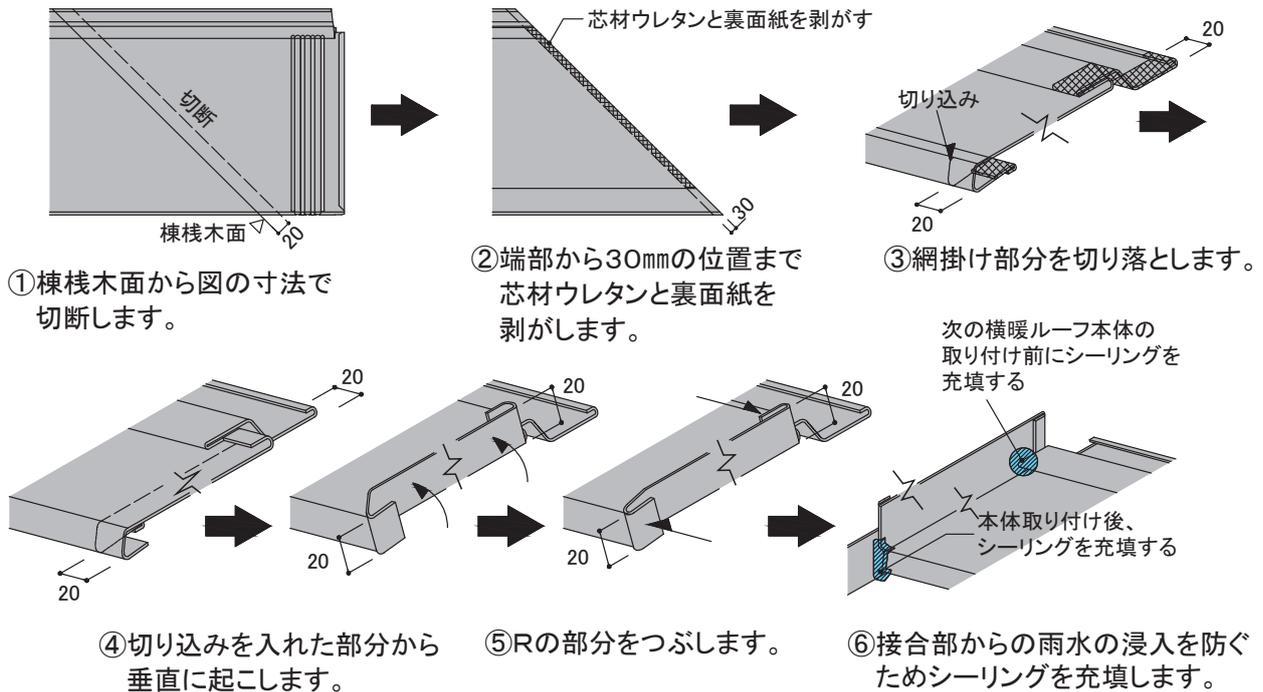
① 棟包み210

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
- 桧木30×40を外側2ヶ所取り付け、桧木を包むように下葺材を増し張りします。
- ※ 工事中は棟包み210に乗らないでください。工具、部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 隅棟部は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で桧木に留め付けます。
- 剣先は図のように施工します。



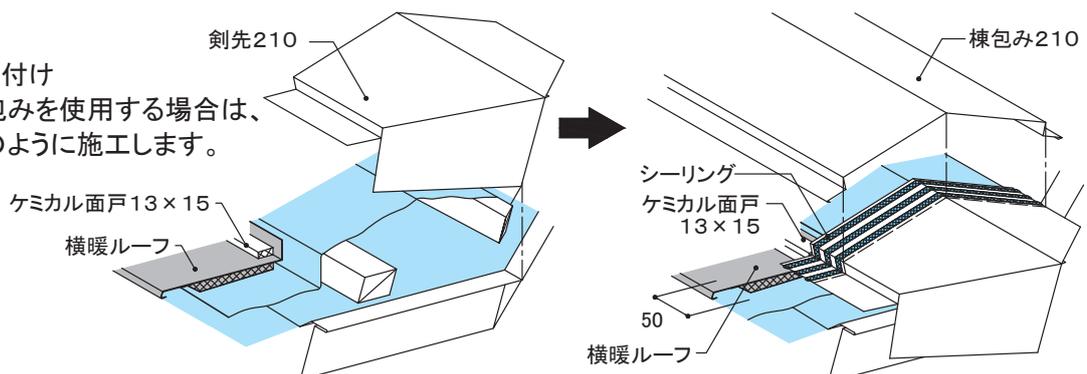
■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の隅棟部分は、図のように加工します。



■ 剣先の取り付け

- 隅棟に棟包みを使用する場合は、剣先を図のように施工します。



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
法
外壁
リフォーム

モエ
ンサイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

モエ
ンサイ
ディ
ング
張り
替え
工法

セ
ンター
サイ
ディ
ング
重ね
張り
工法

設計
屋根
リフォ
ーム

セ
ンター
ルー
フ
重ね
葺き
工法

アル
マ
重ね
葺き
工法

参
考
資
料

横暖ルーフ

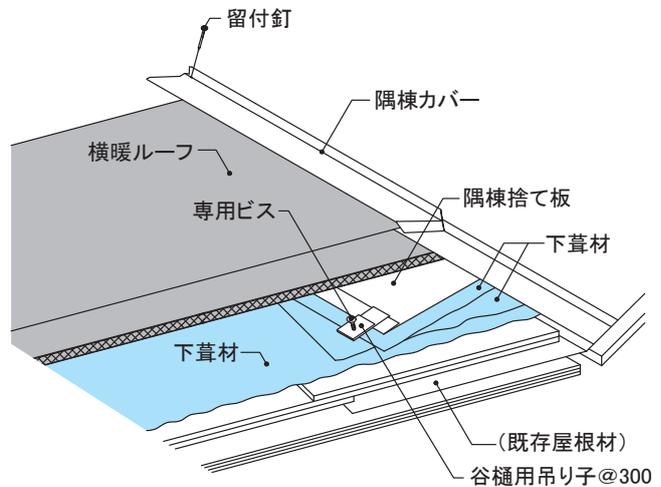
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

6) 隅棟部

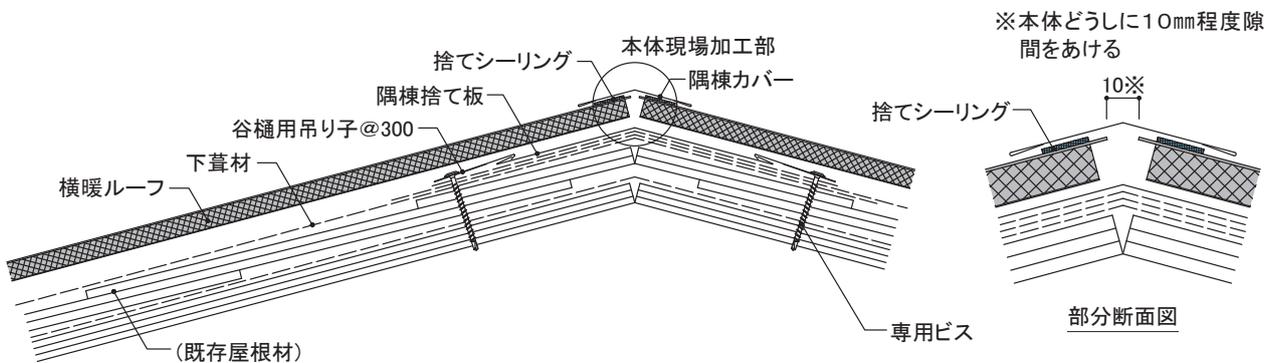
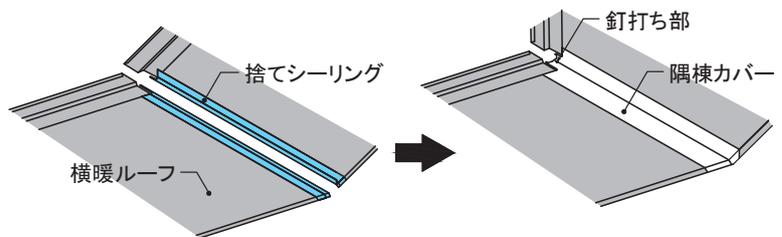
② 隅棟カバー (隅棟カバー急勾配用)

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
- 隅棟捨て板は隅棟部に谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)で留め付けます。隅棟捨て板を避けて、図のように加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- 横暖ルーフ本体の切断部から約10mm程度の幅でシーリングを施工します。
- 隅棟カバーは横暖ルーフ本体の接合部へ差し込み、釘留めします。
- 屋根の勾配が2寸5分勾配以上3寸5分勾配未満は隅棟カバーを使用し、3寸5分勾配以上5寸勾配未満は隅棟カバー急勾配用を使用します。



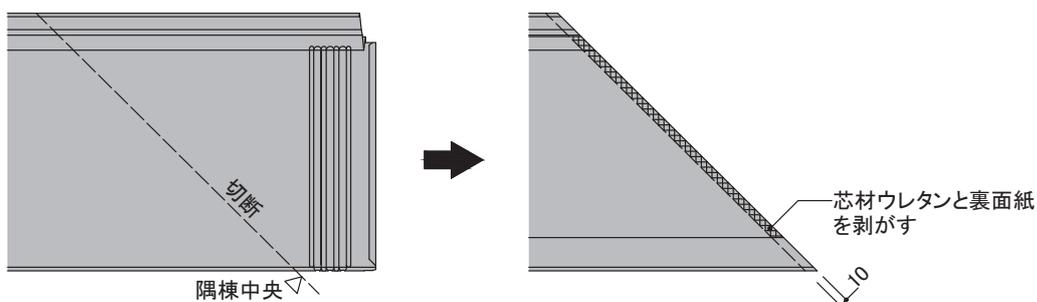
■ 隅棟カバーの取り付け

- ① 本体切断部から10mm程度に捨てシーリングを施工します。
- ② 隅棟カバーを取り付け、釘打ち部を長さ32mm以上のステンレスクリュー釘で固定します。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の隅棟部分は、図のように加工します。



① 隅棟中央の位置で切断します。

② 端部から10mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

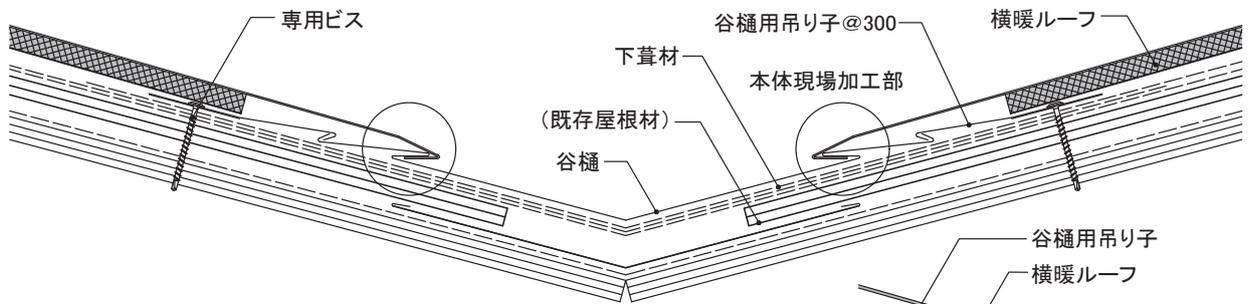
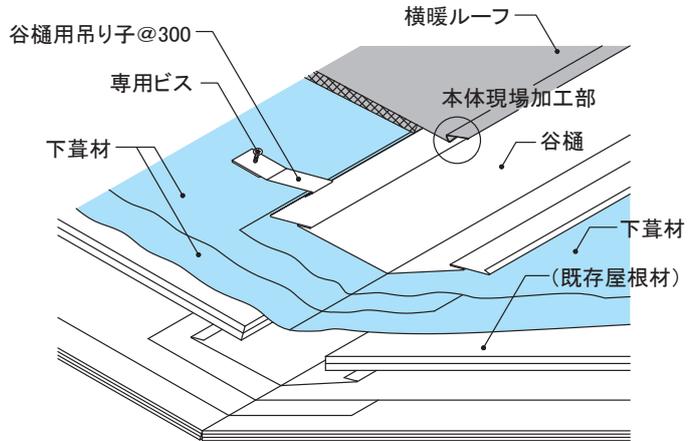
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

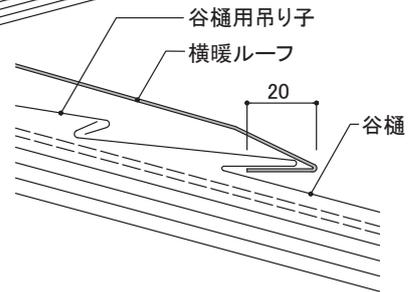
7) 谷部

① 谷樋

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
- 谷樋は谷部に谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.5mm×55mm)で留め付けます。本体留め付けの専用ビスは、谷樋を避けて施工します。
- 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフ本体を、谷樋折り返し部分に引っかけるようにして施工します。

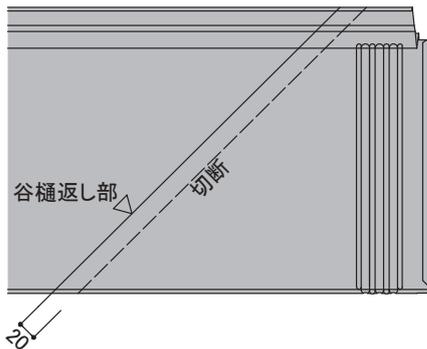


部分断面図

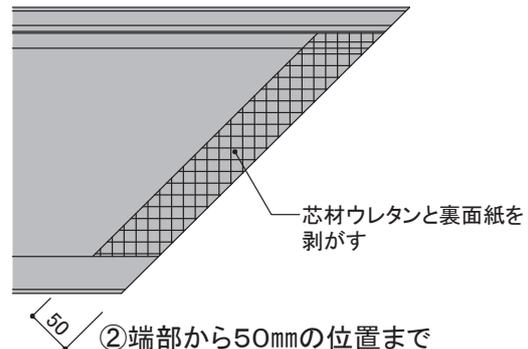


■ 施工ポイント・現場加工図

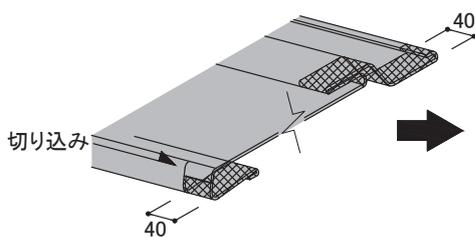
- 横暖ルーフ本体の谷樋部分は、図のように加工します。



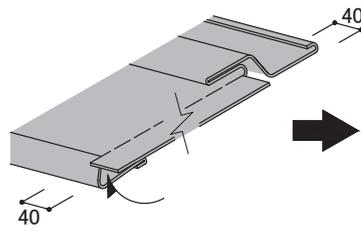
① 谷樋返し部から図の寸法で切断します。



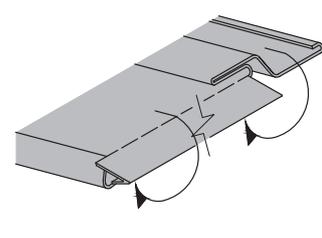
② 端部から50mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。



③ 網掛け部分を切り落とします。



④ 切り込みを入れた部分を水平に起こします。



⑤ 谷樋返し部を巻き込むように折り曲げます。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準施工法
外壁
リフォーム

モエンサイディング
重ね張り工法

モエンサイディング
張り替え工法

センターサイディング
重ね張り工法

設計
屋根
リフォーム

センタールーフ
重ね葺き工法

アルマ
重ね葺き工法

参考資料

横暖ルーフ

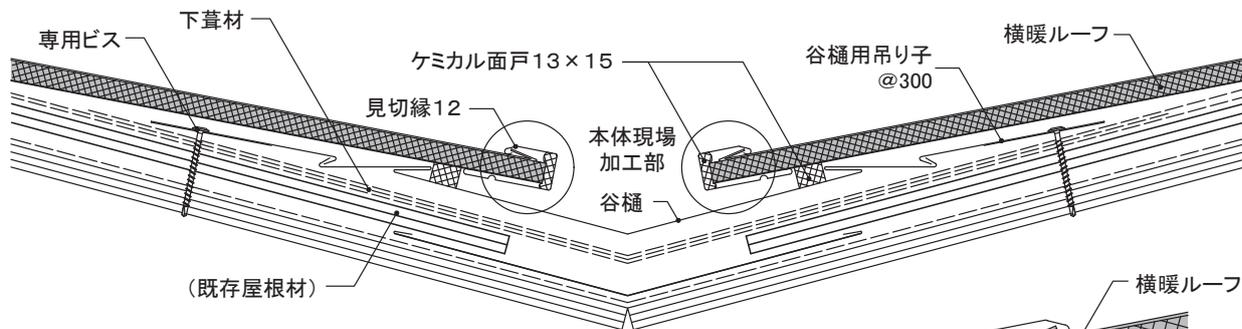
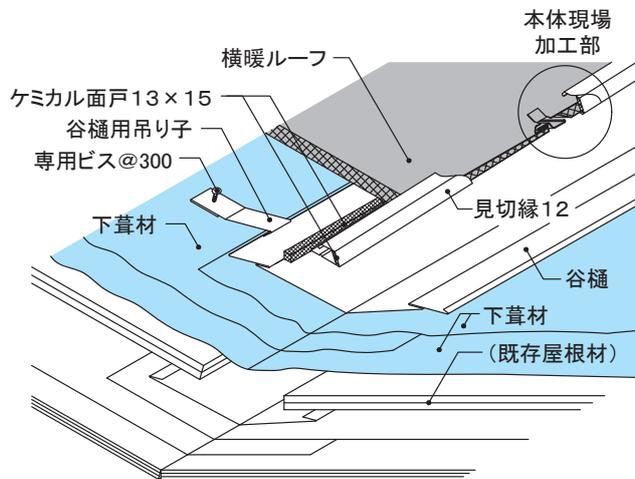
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

7) 谷部

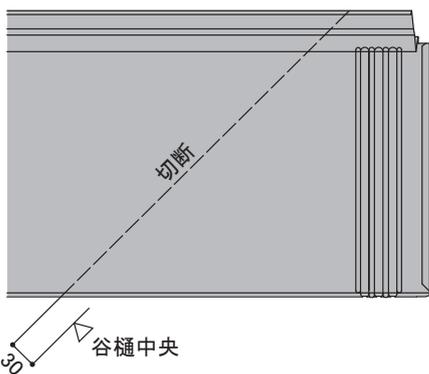
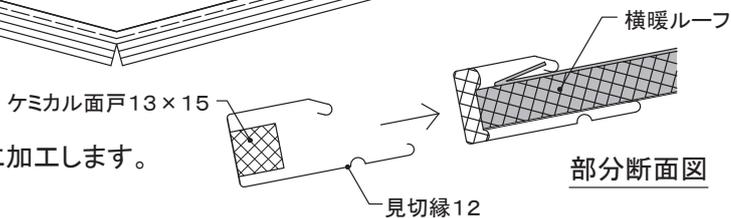
② 谷樋＋見切縁12

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
 - 谷樋は谷部に谷樋用吊り子を使用し留め付けます。谷樋用吊り子は300mm以下の間隔で配置し、専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)で留め付けます。本体留め付けの専用ビスは、谷樋を避けて施工します。
 - 谷樋部分は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工します。見切縁12にケミカル面戸13×15を貼り付け、本体の折り返し部分と見切縁12のはげとが引っかかるまで押し付けます。
 - 挿着後、見切縁12を引っ張り、外れないことを確認してください。
- ※積雪のある地域では使用できません。

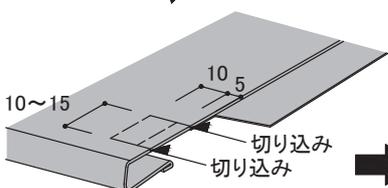


■ 施工ポイント・現場加工図

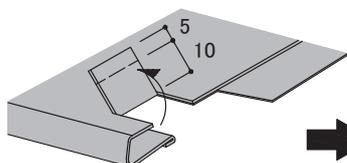
- 横暖ルーフ本体の谷樋部分は、図のように加工します。



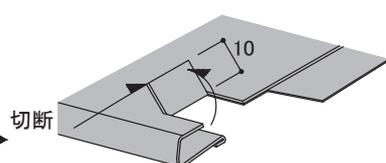
- ① 横暖ルーフ本体を谷樋中央部から30mmの位置で切断します。



- ② 図の位置2ヶ所に切り込みを入れます。



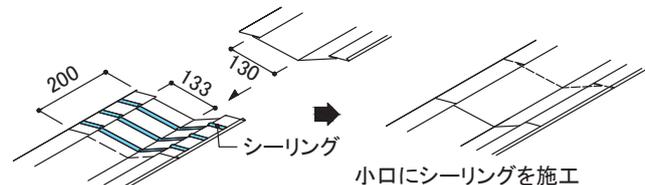
- ③ 切り込みを入れた部分を起こします。



- ④ 端部から5mmの位置を切断します。

■ 谷樋 接合部

- 重ね代にシーリングで3本のビードを作り、上部谷樋を差し込みます。
- 接合後、小口にシーリングを施工します。



※谷樋は図中寸法のように流れの上下で小口の大きさが異なります。水上側に目印がありますので、接合時に注意して施工してください。

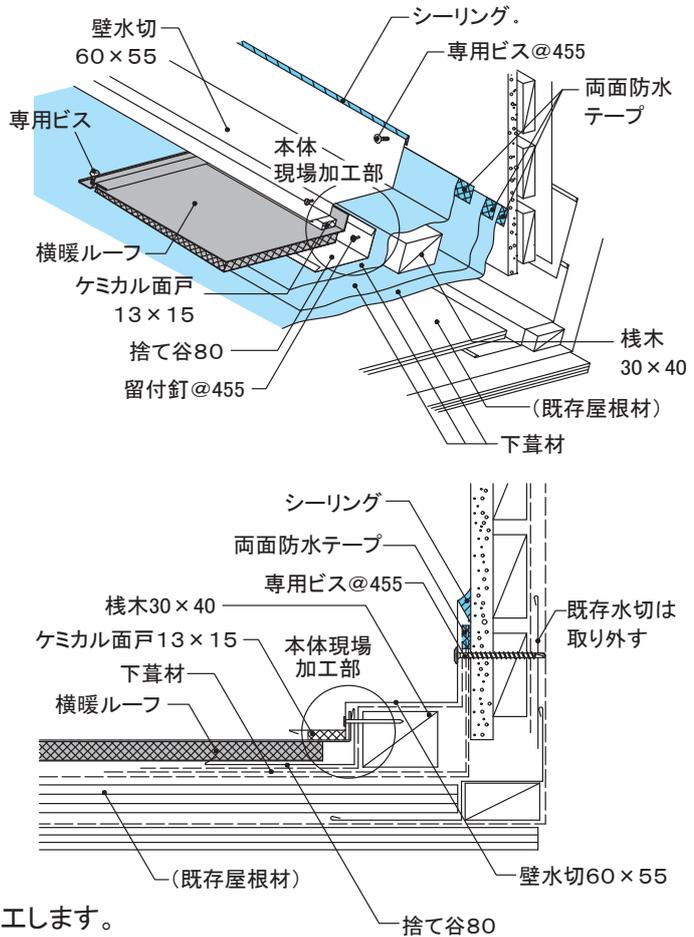
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

8) 下屋根部

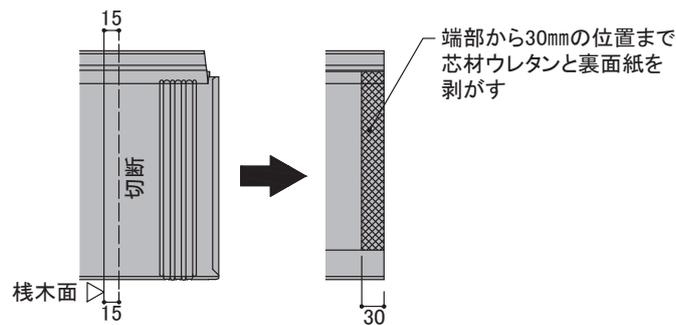
①流れ側 壁水切60×55+捨て谷80

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木30×40を取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、455mm以下の間隔で棧木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15は図の位置に貼り付け、壁水切60×55をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。

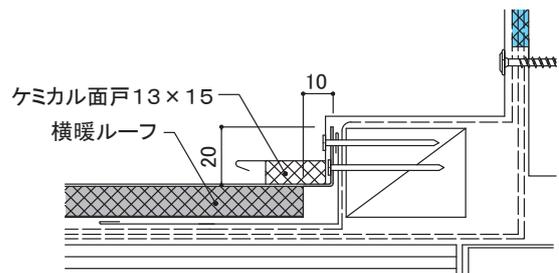


■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



- ① 棧木面から図の寸法で切断します。



部分断面図

- ② 網掛け部分を切り落とします。
 - ③ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。
 - ④ Rの部分をつぶします。
 - ⑤ 本体取り付け後、シーリングを充填する
- 次の横暖ルーフ本体の取り付け前にシーリングを充填する
- 本体取り付け後、シーリングを充填する
- ⑤ 接合部からの雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

設計
外壁
リフォーム

事前調査の方法

標準
施工法
外壁
リフォーム

重ね張り
工法
モエン
サイド
ディング

張り替え
工法
モエン
サイド
ディング

重ね張り
工法
センター
サイド
ディング

設計
屋根
リフォーム

センター
ルーフ
重ね
葺き
工法

アルマ
重ね
葺き
工法

参考資料

横暖ルーフ

工法

重ね葺き

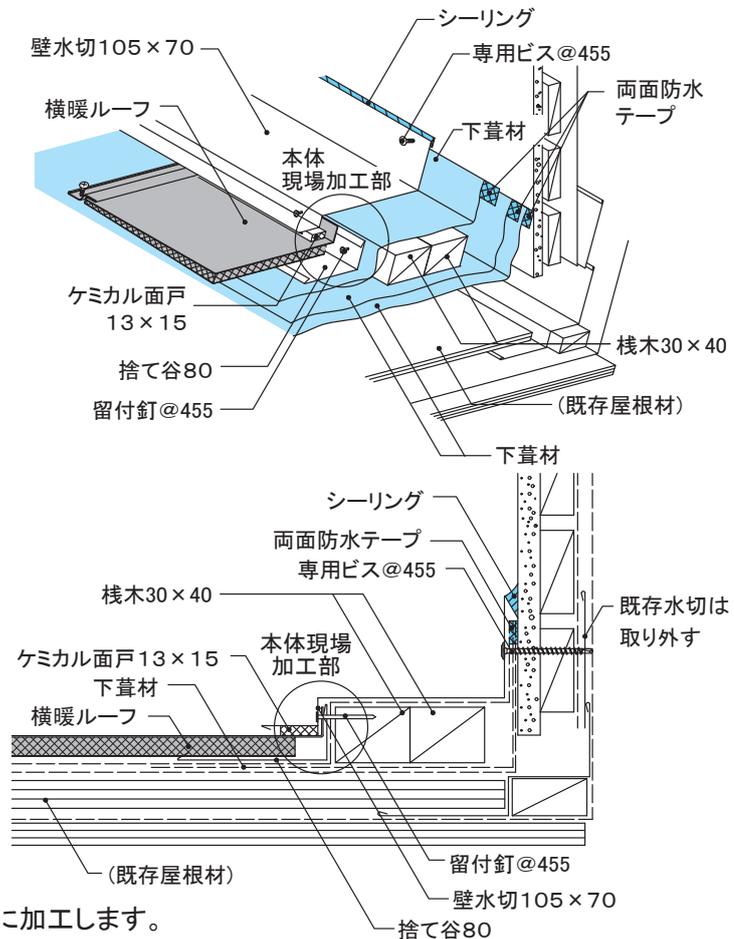
既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

8) 下屋根部

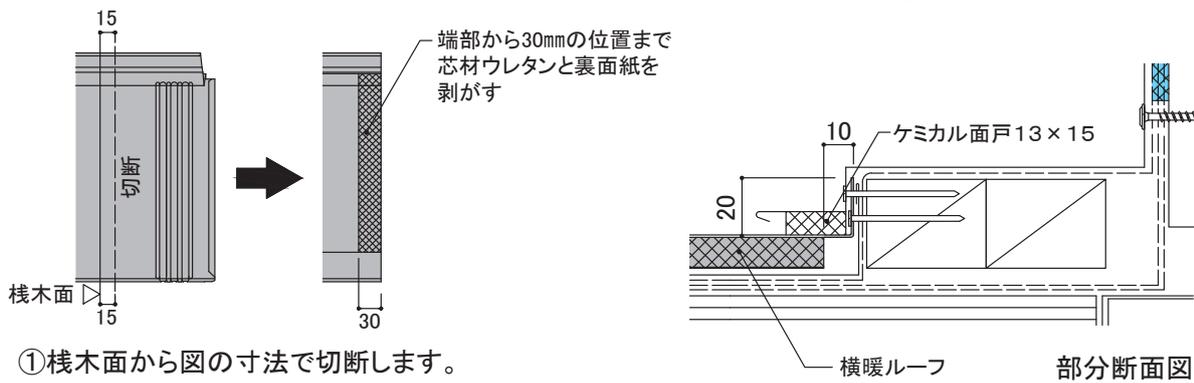
②流れ側 壁水切105×70+捨て谷80

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木30×40を2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張ります。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で棧木に留め付け、図のように現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15は図の位置に貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。

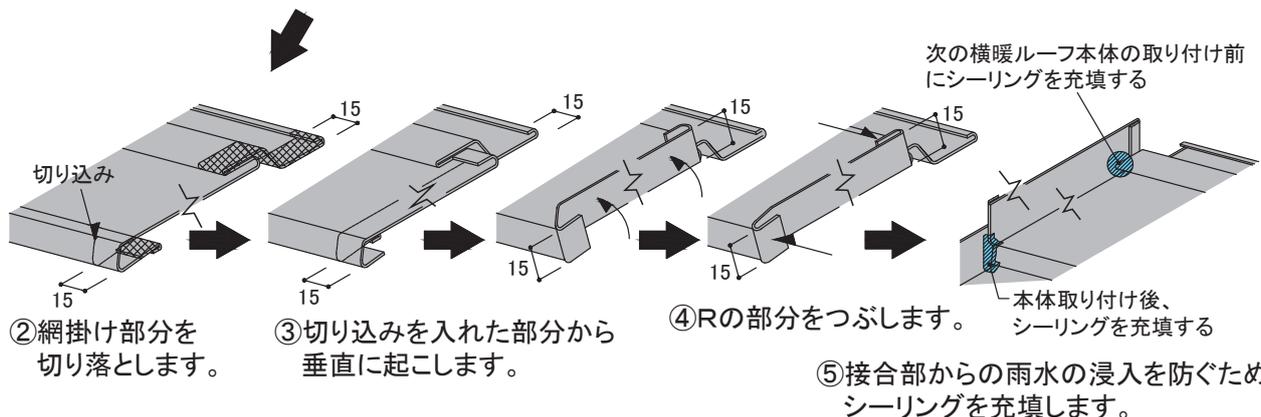


■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



① 棧木面から図の寸法で切断します。



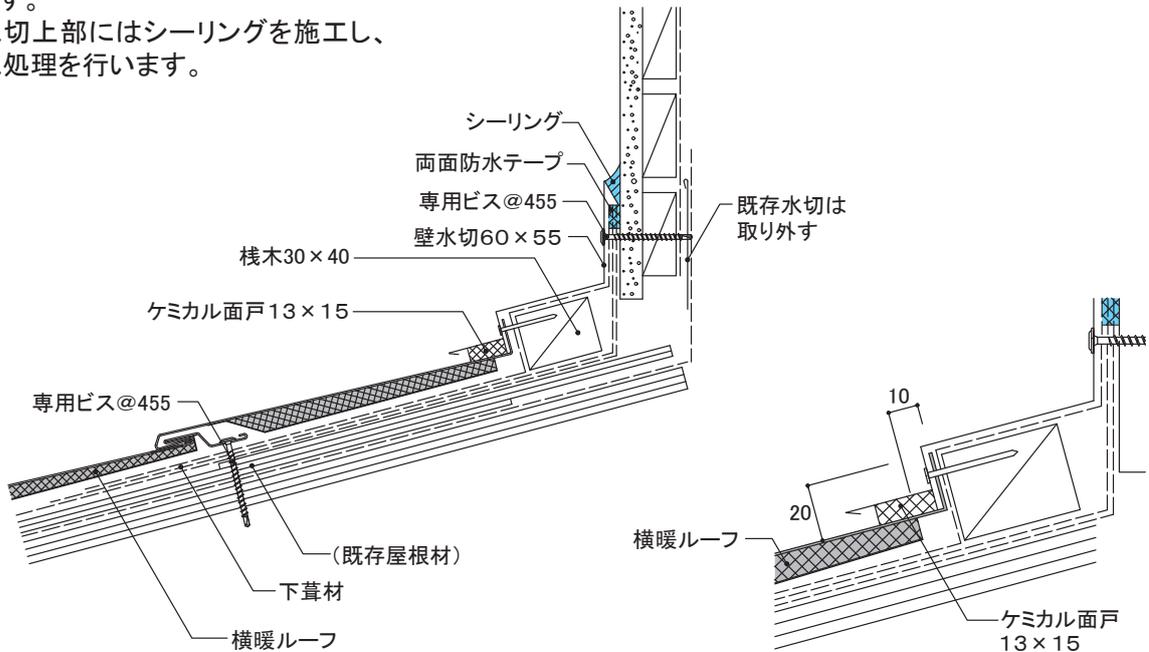
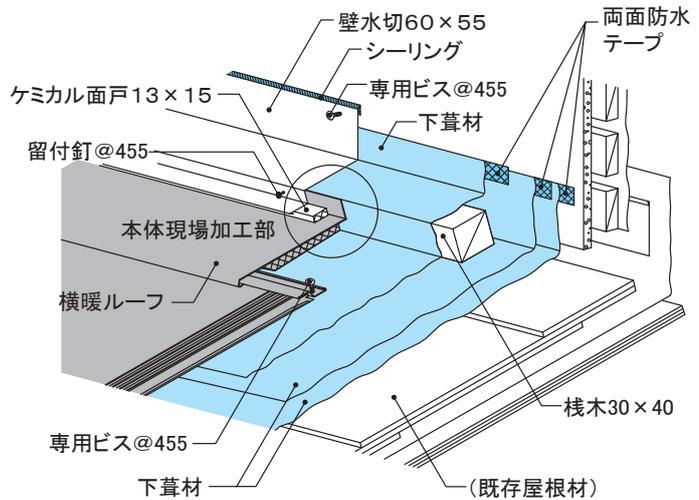
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

8) 下屋根部

③棟側 壁水切60×55

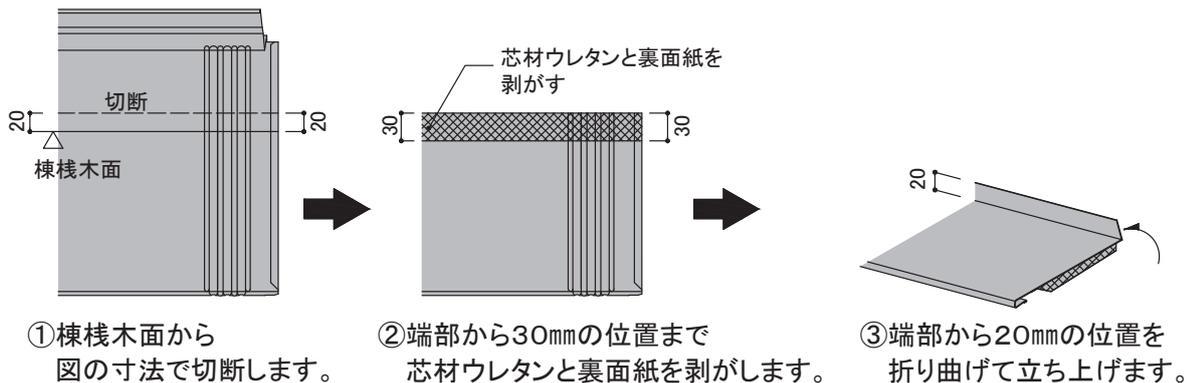
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木30×40を取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- 図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15は図の位置に貼り付け、壁水切60×55をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



部分断面図

■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



設計
外壁
リフォーム

事前
調査の
方法

標準
施工
工法

外壁
リフォーム
モエン
サイディ
ング
重ね
張り工
法

モエン
サイディ
ング
張り
替え工
法

センター
サイディ
ング
重ね
張り工
法

設計
屋根
リフォー
ム

センター
ルーフ
重ね
葺き工
法

アルマ
重ね
葺き工
法

参考
資料

横暖ルーフ

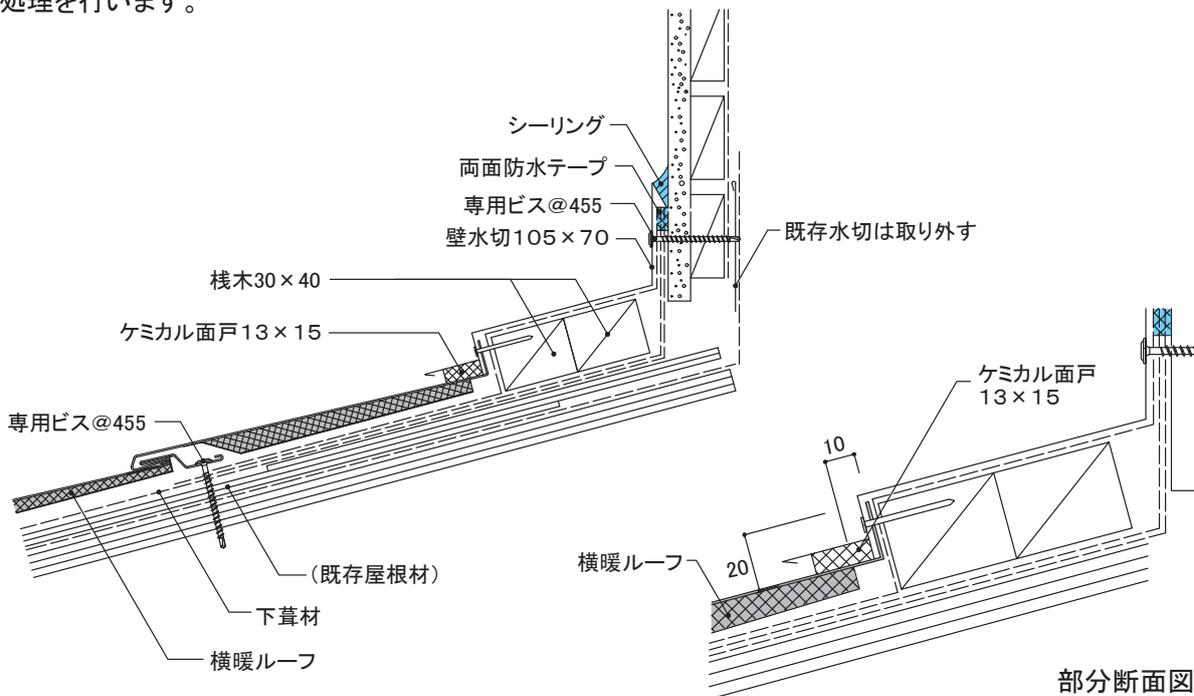
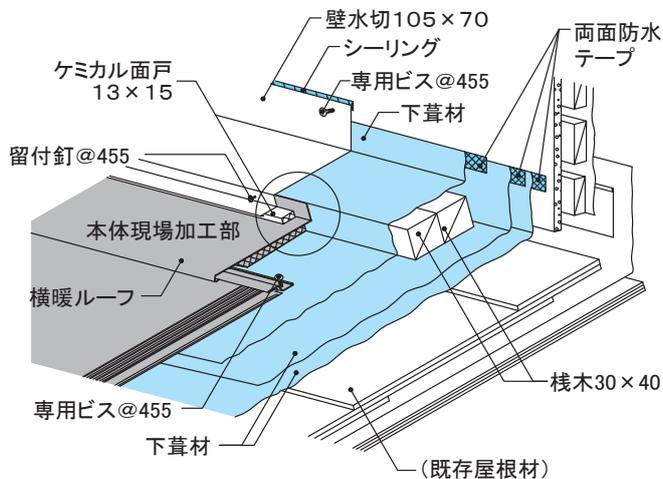
工法
重ね葺き

既存屋根材
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

8) 下屋根部

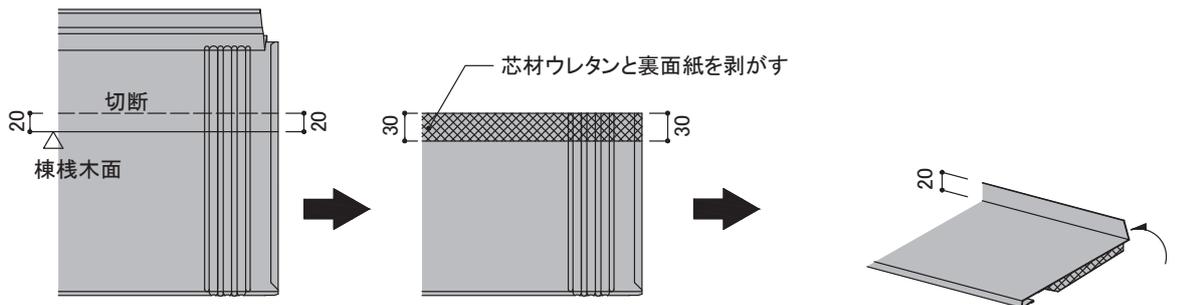
④ 棟側 壁水切105×70

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
(下葺材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木30×40を2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葺材を増し張りします。
- 図のように、壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15は図の位置に貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



① 棟木面から図の寸法で切断します。

② 端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

③ 端部から20mmの位置を折り曲げて立ち上げます。

横暖ルーフ

工法

重ね葺き

既存屋根材

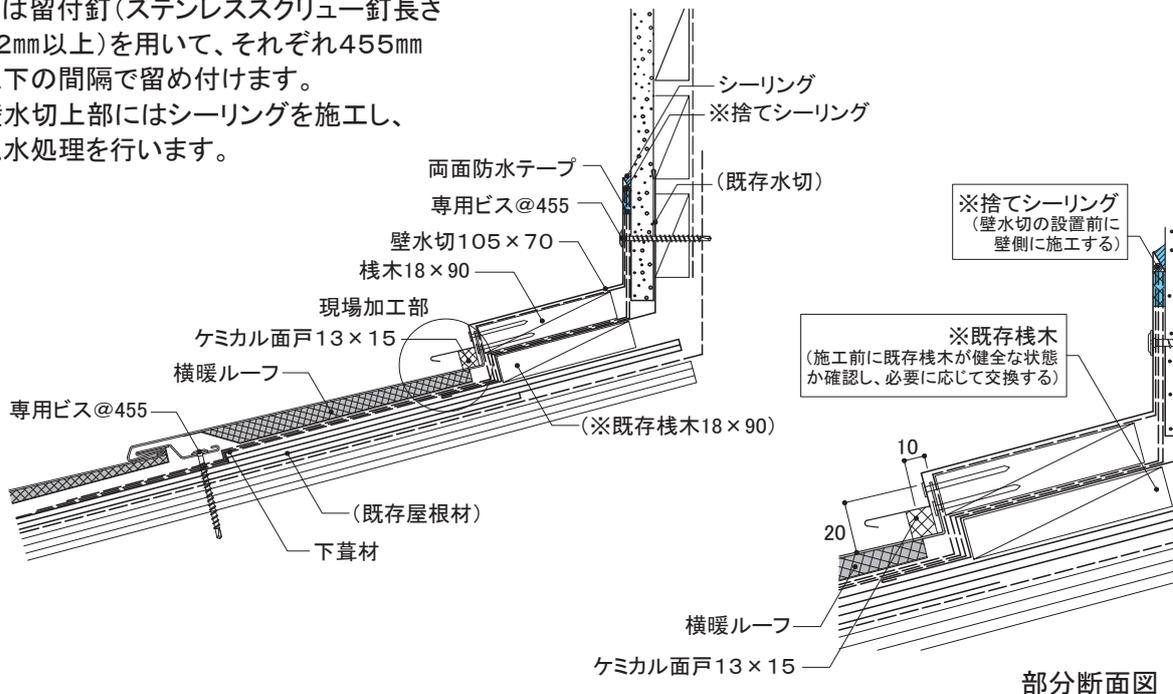
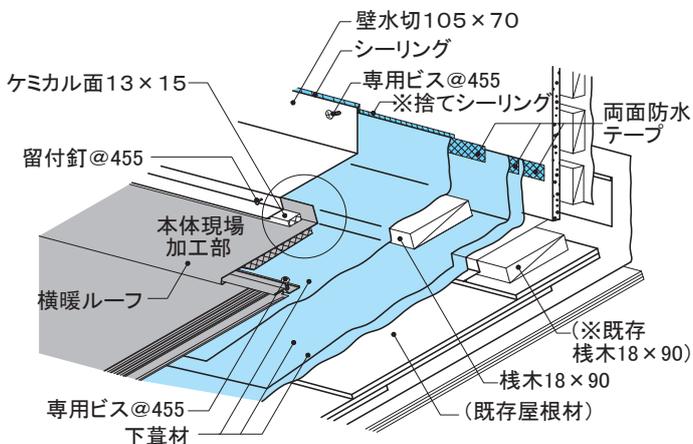
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

9) 下屋根部

(既存水切を残す場合)

②棟側 壁水切105×70

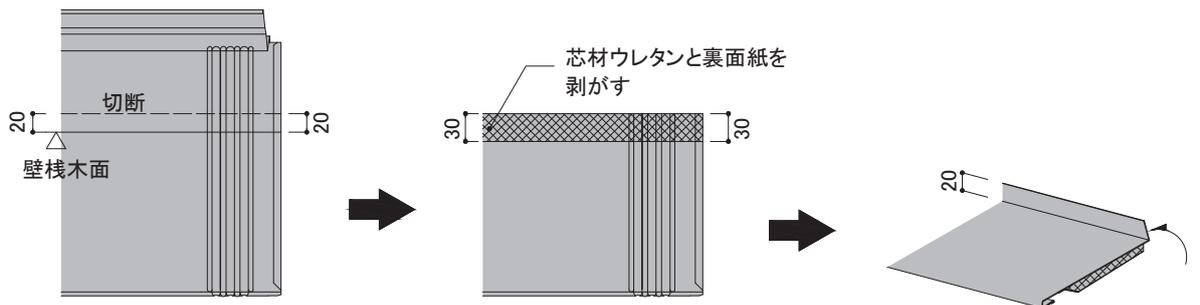
- 既存棧木が健全な状態であるか事前に確認してください。
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。)
- 棧木18mm×90mmを取り付けます。
- 図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



部分断面図

■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



①壁棧木面から
図の寸法で切断します。

②端部から30mmの位置まで
芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

③端部から20mmの位置を
折り曲げて立ち上げます。

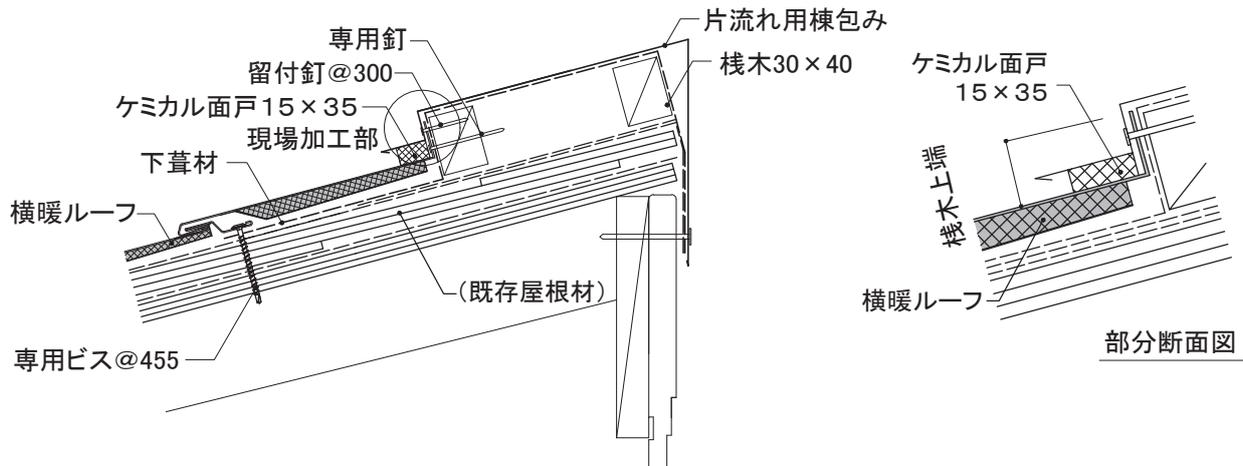
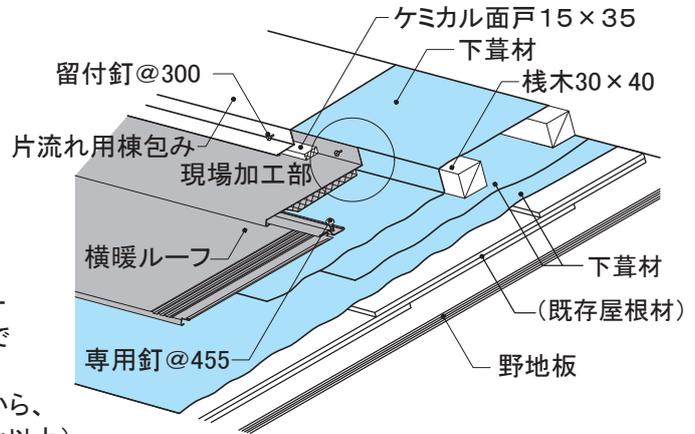
横暖ルーフ

工法	既存屋根材
重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

10) 片棟部

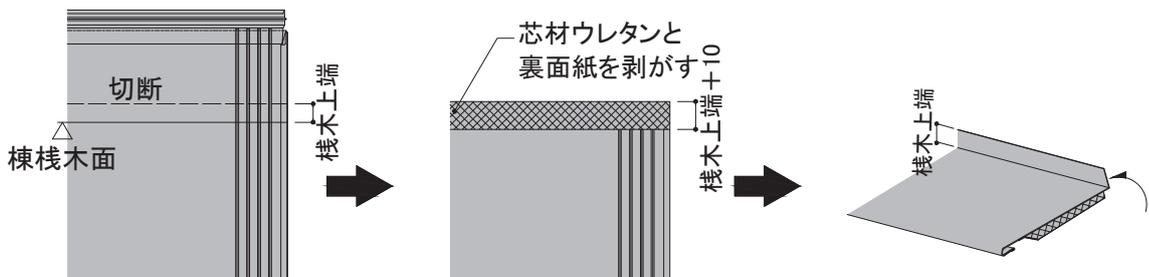
片流れ用棟包み

- 既存屋根材に下葦材を張ります。
- 棟部に棧木30×40を2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
※ 工事中は片流れ用棟包みに乗らないでください。工具・部材も置かないでください。片流れ用棟包みに変形するおそれがあります。
- 棟部は図のように加工した横暖ルーフ本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、片流れ用棟包みをかぶせます。片流れ用棟包みは、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- 外壁面側は化粧破風あるいはサイディングの上から、留付釘(ステンレスクリュー釘・外装材厚み+30mm以上)で455mm以下の間隔で必ず下地に留め付けます。
- けらば部は片流れ用棟包みを加工して納めます。



■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の張り終い棟部分は図のように加工してください。



- ① 棟棧木面から図の寸法で切断します。
- ② 棟木上端+10mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がしてください。
- ③ 端部から棟木上端の位置で折り曲げて立ち上げます。

設計
外壁
リフォーム

事前
調査
の
方法

標準
施工
方法
外壁
リフォーム

モ
エ
ン
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
重
ね
張
り
工
法

モ
エ
ン
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
張
り
替
え
工
法

セ
ン
タ
ー
サ
イ
デ
ィ
ン
グ
重
ね
張
り
工
法

設計
屋
根
リ
フ
ォ
ー
ム

セ
ン
タ
ー
ル
ー
フ
重
ね
葺
き
工
法

アル
マ
重
ね
葺
き
工
法

参
考
資
料